別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　スルガダイダイガク 学校法人　駿河台大学	
フリガナ 大学の名称	スルガダイダイガク 駿河台大学（Surugadai University）	
大学本部の位置	埼玉県飯能市大字阿須字一の木６９８番地	
大学の目的	駿河台大学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、広い分野の知識と深い専門の学術を教授研究するとともに、徹底した人格教育を通して豊かな知的教養と国際的感覚を備えた有為の人材を育成し、学術、文化の向上・普及と併せて人類・社会の発展に寄与することを目的とする。	
新設学部等の目的	スポーツ科学部は、健康で文化的な生きがいのある生活を送ることができる社会を構築するために、スポーツ科学の理論的な知識に基づき教育研究をすることにより、学校、地域及びスポーツが関連する領域において、今日のスポーツの意義や価値をふまえ、健康の維持増進、生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育又は地域の活性化に貢献することを目的とする。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
スポーツ科学部 【Faculty of Sport Science】							埼玉県飯能市大字阿須字一の木698番地
スポーツ科学科 【Department of Sport Science】	4	200	－	800	学士(スポーツ科学) 【Bachelor of Sport Science】	令和2年4月 第1年次	
計	4	200	－	800			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	現代文化学部（廃止） 現代文化学科　（△200） （3年次編入学定員）　（△ 20） ※令和2年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和4年4月学生募集停止）

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
スポーツ科学部　スポーツ科学科	163科目	27科目	39科目	229科目	124単位

教員組織の概要

学部等の名称			専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員
新設分		スポーツ科学部　スポーツ科学科	11 人 (10)	9 人 (8)	4 人 (4)	0 人 (0)	24 人 (22)	0 人 (0)	86 人 (52)
新設分		計	11 (10)	9 (8)	4 (4)	0 (0)	24 (22)	0 (0)	－ (－)
既設分		法学部　法律学科	12 人 (13)	5 人 (5)	1 人 (1)	3 人 (3)	21 人 (22)	0 人 (0)	116 人 (116)
既設分		経済経営学部　経済経営学科	16 (18)	7 (6)	1 (1)	0 (0)	24 (25)	0 (0)	117 (117)
既設分		メディア情報学部　メディア情報学科	8 (10)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (18)	0 (0)	128 (128)
既設分		心理学部　心理学科	10 (11)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16 (17)	0 (0)	115 (115)
既設分		キャリアセンター	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
既設分		グローバル教育センター	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
既設分		情報処理教育センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
既設分		スポーツ教育センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
既設分		心理カウンセリングセンター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)
既設分		計	48 (54)	26 (25)	8 (8)	8 (8)	90 (95)	1 (1)	－ (－)
合計			59 (64)	35 (33)	12 (12)	8 (8)	114 (117)	1 (1)	－ (－)

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	74 人 (80)	11 人 (6)	85 人 (86)	
	技術職員	2 (2)	3 (3)	5 (5)	
	図書館専門職員	4 (4)	1 (1)	5 (5)	
	その他の職員	0 (0)	4 (4)	4 (4)	
	計	80 (86)	19 (14)	99 (100)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	83,104.22 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	83,104.22 ㎡	
	運動場用地	84,928.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	84,928.00 ㎡	
	小計	168,032.22 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	168,032.22 ㎡	
	その他	109,418.37 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	109,418.37 ㎡	
	合計	277,450.59 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	277,450.59 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	62,888.28 ㎡ (62,888.28 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	62,888.28 ㎡ (62,888.28 ㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	47室	35室	15室	5室 (補助職員3人)	0室 (補助職員0人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	スポーツ科学部スポーツ科学科	24室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	スポーツ科学部	45,608〔11,298〕 (43,211〔11,298〕)	118〔31〕 (118〔31〕)	3〔3〕 (3〔3〕)	1,762 (1,762)	26,697 (26,068)	0 (0)	機械・器具は、学部単位での特定不能なため、大学全体の数 大学全体の数 図書 348,720冊 〔86,760冊〕 学術雑誌 3,838種 〔1,350種〕 電子ジャーナル 73種 〔65種〕 視聴覚資料 14,608点
	計	45,608〔11,298〕 (43,211〔11,298〕)	118〔31〕 (118〔31〕)	3〔3〕 (3〔3〕)	1,762 (1,762)	26,697 (26,068)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	10,459㎡	582席	559,750冊	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	6,986㎡	陸上競技場1面、野球場1面、グラウンドホッケー場1面	テニスコート9面、ゴルフ練習場、武道場、弓道場	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		225千円	225千円	225千円	225千円	－ 千円	－ 千円	開設前年度には、開設前々年度の経費も含む。共同研究費等は学部単位での算出が不能なため、大学全体。図書費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ･ﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽの整備費(運用ｺｽﾄ含む)を含まない。
	共同研究費等		4,350千円	4,350千円	4,350千円	4,350千円	－ 千円	－ 千円	
	図書購入費	3,003千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－ 千円	－ 千円	
	設備購入費	354,781千円	25,877千円	0千円	0千円	0千円	－ 千円	－ 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	1,360千円	1,160千円	1,160千円	1,160千円	－ 千円	－ 千円	申請学部全体
学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

	大学の名称	駿河台大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	法学部			３年次						
	法律学科	4	220	10	950	学士（法学）	1.03	昭和62年度		平成29年度入学定員減（△10人） 平成30年度入学定員減（△10人）
	経済経営学部			３年次						
	経済経営学科	4	210	10	890	学士(経済学、経営学)	1.09	平成25年度		平成29年度入学定員減（△30人） 平成30年度入学定員増（10人）
	メディア情報学部			３年次						
	メディア情報学科	4	140	10	630	学士（メディア情報学）	0.98	平成21年度		平成29年度入学定員減（△10人） 平成30年度入学定員減（△10人）
	現代文化学部			３年次						
	現代文化学科	4	200	20	720	学士（現代文化学）	1.13	平成21年度	埼玉県飯能市大字阿須字一の木６９８番地	平成29年度入学定員増（30人） 平成30年度入学定員増（20人）
	心理学部			３年次						
	心理学科	4	140	－	560	学士（心理学）	1.12	平成21年度		
	経済学部									
	経済経営学科	4	－	－	－	学士(経済学、経営学)	－	平成19年度		平成25年度より学生募集停止
	総合政策研究科									
	法学専攻(修士課程)	2	7	－	14	修士(法学)	0.14	平成26年度		
	経済･経営学専攻(修士課程)	2	7	－	14	修士(経済学、経営学)	0.71	平成26年度		
	メディア情報学専攻(修士課程)	2	7	－	14	修士(メディア情報学)	0.35	平成26年度		
	心理学研究科									
	臨床心理学専攻(修士課程)	2	15	－	30	修士(心理学)	0.09	平成21年度		
	犯罪心理学専攻(修士課程)	2	15	－	30	修士(心理学)	0.23	平成29年度		
附属施設の概要	該当なし									

（注）
1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置，大学の大学院の研究科の専攻に係る課程の変更又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合は，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

2　私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
3　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

4　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
5　空欄には，「－」又は「該当無し」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（スポーツ科学部 スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教養科目群	教養基礎科目	教養基礎講座	1前	2			○			3	1	1			兼1	オムニバス・共同（一部）
		プレゼミナールⅠ	1前	2				○		3	6	3			兼4	
		プレゼミナールⅡ	1後	2				○		3	6	3			兼4	
		コンピュータ･リテラシーⅠ	1前	1					○						兼1	
		コンピュータ･リテラシーⅡ	1後	1					○						兼1	
		倫理学Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		倫理学Ⅱ	1･2後		2		○			1						
		文学Ⅰ	1･2前		2		○								兼2	
		文学Ⅱ	1･2後		2		○								兼2	
		こころの科学Ⅰ	1･2前		2		○								兼2	
		こころの科学Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		日本の文化と倫理	1･2前		2		○			1						
		国際社会と日本	1･2後		2		○					1				
		北欧文化論	1･2後		2		○								兼1	
		健康･スポーツ実習Ⅰ	1前	1					○	2	4	1			兼8	
		健康･スポーツ実習Ⅱ	1後	1					○	2	4	1			兼8	
		憲法概論	1･2後		2		○								兼1	
		経済学Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		経済学Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		歴史学Ⅰ	1･2前		2		○								兼2	
		歴史学Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		観光学	1･2後		2		○			1						
		現代自然科学Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		現代自然科学Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		環境生物学Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		環境生物学Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		生命の科学Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		生命の科学Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		からだの科学Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		からだの科学Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		小計（30科目）	－	10	46	0	－			6	7	4	0	0	兼24	
	教養発展科目	プレゼミナールⅢ	2前	2				○		4	5	2			兼4	
		プレゼミナールⅣ	2後	2				○		4	5	2			兼4	
		日本の暮らしと文化	2･3前		2		○			1						
		欧米の暮らしと文化	2･3後		2		○					1				
		異文化と文学	2･3前		2		○								兼1	
		日本伝統文化論	2･3後		2		○			1						
		コミュニケーション論	2･3後		2		○								兼1	
		インターネット文化論	2･3前		2		○								兼1	
		子ども文化論	2･3前･後		2		○								兼1	
		現代人と心理Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
		現代人と心理Ⅱ	2･3後		2		○								兼1	
		現代社会と法	2･3前		2		○								兼1	
		ライフサイクルと社会保障	2･3後		2		○								兼1	
		労働と社会	2･3後		2		○								兼1	
		ジェンダー論	2･3後		2		○			1					兼1	
		ホスピタリティ論	2･3後		2		○								兼1	
		現代社会とメディア	2･3後		2		○								兼1	
		労働衛生Ⅰ	2前		2		○				1					
		労働衛生Ⅱ	2･3後		2		○				1					
		労働基準法	2･3前		2		○								兼1	
		労働安全衛生法Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
		労働安全衛生法Ⅱ	2･3後		2		○								兼1	
		小計（22科目）	－	4	40	0	－			5	5	2	0	0	兼16	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教養科目群	地域科目		歴史探訪	1・2後		2			○		1					兼1	オムニバス・共同(一部)
			フィールドトリップ	1・2後		2			○		1	1				兼1	オムニバス・共同(一部)
			地域と文学	1・2後		2		○								兼1	
			飯能学	1・2後		2		○			1						
			地域社会と観光	1・2前		2		○			1						
			地域環境論	1・2前		2		○								兼1	
			森林文化Ⅰ	1・2前		2		○			1					兼1	共同
			森林文化Ⅱ	1・2後		2		○			1					兼1	共同
			地域と歴史	1・2後		2		○								兼1	
			インターンシップⅠ	2・3通		4				○						兼3	
			インターンシップⅡ	1・2・3前・後		2				○						兼3	
			まちづくり実践	1・2・3前・後		2				○	2					兼1	
			小計(12科目)	―	0	26	0	―			4	1	0	0	0	兼9	
	外国語科目	必修外国語	英語ⅠA	1前		1		○								兼7	
			英語ⅠB	1後		1		○								兼7	
			英語ⅡA	1前		1		○					1			兼3	
			英語ⅡB	1後		1		○					1			兼3	
			日本語ⅠA	1前		1		○								兼1	
			日本語ⅠB	1後		1		○								兼1	
			日本語ⅡA	1前		1		○								兼1	
			日本語ⅡB	1後		1		○								兼1	
			ドイツ語ⅠA	1前		1		○				1				兼1	
			ドイツ語ⅠB	1後		1		○				1				兼1	
			ドイツ語ⅡA	1前		1		○								兼2	
			ドイツ語ⅡB	1後		1		○								兼2	
			フランス語ⅠA	1前		1		○								兼1	
			フランス語ⅠB	1後		1		○								兼1	
			フランス語ⅡA	1前		1		○								兼1	
			フランス語ⅡB	1後		1		○								兼1	
			中国語ⅠA	1前		1		○								兼2	
			中国語ⅠB	1後		1		○								兼2	
			中国語ⅡA	1前		1		○								兼2	
			中国語ⅡB	1後		1		○								兼2	
			韓国語ⅠA	1前		1		○								兼2	
			韓国語ⅠB	1後		1		○								兼2	
			韓国語ⅡA	1前		1		○								兼2	
			韓国語ⅡB	1後		1		○								兼2	
			小計(24科目)	―	0	24	0	―			0	1	1	0	0	兼21	
		選択必修外国語	英語ⅢA	2前		1		○								兼4	
			英語ⅢB	2後		1		○								兼4	
			日本語ⅢA	2前		1		○								兼1	
			日本語ⅢB	2後		1		○								兼1	
			ドイツ語ⅢA	2前		1		○								兼1	
			ドイツ語ⅢB	2後		1		○								兼1	
			フランス語ⅢA	2前		1		○								兼1	
			フランス語ⅢB	2後		1		○								兼1	
			中国語ⅢA	2前		1		○								兼1	
			中国語ⅢB	2後		1		○								兼1	
			韓国語ⅢA	2前		1		○								兼1	
			韓国語ⅢB	2後		1		○								兼1	
			小計(12科目)	―	0	12	0	―			0	0	0	0	0	兼9	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教養科目群	外国語科目	自由選択外国語	英語演習Ⅰ	1・2・3前		2			○				1			兼1	
			英語演習Ⅱ	1・2・3後		2			○							兼2	
			ドイツ語演習Ⅰ	2・3前		2			○			1				兼1	
			ドイツ語演習Ⅱ	2・3後		2			○			1				兼1	
			フランス語演習Ⅰ	2・3前		2			○							兼1	
			フランス語演習Ⅱ	2・3後		2			○							兼1	
			中国語演習Ⅰ	2・3前		2			○							兼1	
			中国語演習Ⅱ	2・3後		2			○							兼2	
			韓国語演習Ⅰ	2・3前		2			○							兼1	
			韓国語演習Ⅱ	2・3後		2			○							兼1	
			日本語演習Ⅰ	2・3前		2			○							兼1	
			日本語演習Ⅱ	2・3後		2			○							兼1	
			海外語学演習	2・3通		4			○			1	1			兼5	
			小計(13科目)	―	0	28	0	―			0	1	1	0	0	兼9	
		外国語科目計(49科目)		―	0	64	0	―			0	1	1	0	0	兼24	
	キャリア教育科目		キャリア基礎Ⅰ	1前	2			○								兼2	
			キャリア基礎Ⅱ	1後		2		○								兼2	
			キャリア発展	2前・後		2		○								兼2	
			ライフプランニング	2前・後		2		○								兼1	
			キャリア実践論Ⅰ	3前	2			○								兼2	
			キャリア実践論Ⅱ	3後		2		○								兼1	
			キャリア実践論Ⅲ	3後		2		○								兼1	
			小計(7科目)	―	4	10	0	―			0	0	0	0	0	兼2	
	共通教養科目群計(120科目)			―	18	186	0	―				1	2	0	0	兼24	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目群	専攻導入科目		スポーツ科学入門A	1前	2			○			1	2					オムニバス
			スポーツ科学入門B	1前	2			○			1	2					オムニバス
			救急処置法	1前・後	2			○			1	1				兼1	共同・※実習
			トレーニングサイエンス	1後	2			○			1						
			ヘルスサイエンス	1後	2			○				1					
			スポーツ文化論	1後	2			○				1					
			チームビルディング	1前	1					○	1					兼1	オムニバス
			小計(7科目)	―	13	0	0	―			4	5	0	0	0	兼2	
	専攻基幹科目	講義科目	運動生理学	2前	2			○				1					
			スポーツの測定評価	2前	2			○			1	1					オムニバス・共同(一部)
			スポーツ哲学	2前	2			○			1						
			スポーツ社会学	2前	2			○				1					
			スポーツ・バイオメカニクス	2後	2			○				1					
			スポーツ教育学	2後	2			○				1					
			スポーツ史	2後	2			○				1					
			スポーツ・マネジメント	2後	2			○			1						
			小計(8科目)	―	16	0	0	―			3	5	0	0	0	兼0	
		実技科目	専門実技(ジョギング・ウォーキング)	1前		1				○			1				
			専門実技(体つくり運動)	1後		1				○			1				
			専門実技(水泳)	2前・後		1				○						兼2	
			専門実技(体力トレーニング)	2前・後		1				○						兼1	
			専門実技(陸上競技)	2後		1				○			1				
			専門実技(器械運動)	2後		1				○						兼1	
			専門実技(フィットネスA)	3前		1				○						兼1	
			専門実技(フィットネスB)	3後		1				○						兼1	
			専門実技(柔道)	3前・後		1				○		1					
			専門実技(ダンス)	3前・後		1				○	1						
			専門実技(サッカー)	2・3前・後		1				○	1						
			専門実技(バレーボール)	2・3前・後		1				○						兼1	
			専門実技(バスケットボール)	2・3前・後		1				○						兼1	
			専門実技(テニス)	2・3前・後		1				○						兼1	
			専門実技(ホッケー)	2・3前		1				○		1					
			専門実技(ラグビー)	2・3後		1				○	1						
			専門実技(自然活動A)	2・3前		1				○	1						集中
			専門実技(自然活動B)	2・3前		1				○	1						集中
			専門実技(プロジェクト・アドベンチャー)	2・3前		1				○	1						集中
			専門実技(アクア・マリンスポーツ)	2・3前		1				○						兼1	集中
			専門実技(パドルスポーツ)	2・3前		1				○						兼1	集中
			専門実技(自然活動C)	2・3後		1				○						兼2	オムニバス・集中
			専門実技(スキー・スノーボード)	2・3後		1				○	1						集中
			小計(23科目)	―	32	23	0	―			4	2	2	0	0	兼11	
	「専攻基幹科目」計(31科目)			―	48	23	0	―			5	5	2	0	0	兼11	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目群	専攻発展科目	スポーツ測定法	2後		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)※実習
		スポーツ心理学	2後		2		○					1				
		健康とスポーツの医学A	2後		2		○			1						
		運動学	2後		2		○								兼1	
		スポーツ生理学	2・3前		2		○			1						
		健康と文化	2・3前		2		○								兼1	
		スポーツ政策論	2・3前		2		○			1						
		生涯スポーツ論	2・3後		2		○			1						
		スポーツ人類学	2・3後		2		○				1					
		スポーツ栄養学	3前		2		○								兼1	
		解剖生理学	3前		2		○								兼1	
		スポーツ測定法実習	3前		1				○	1	1					オムニバス・共同(一部)
		健康とスポーツの医学B	3前		2		○			1						
		運動処方論	3前		2		○				1					
		衛生学・公衆衛生学	3前		2		○				1					
		生涯学習論	3前		2		○			1					兼2	オムニバス
		教育と文化	3前		2		○				1					
		スポーツ心理学実習	3・4前		1				○			1				
		アスレティックトレーナー論	3・4前		2		○			1						
		身体文化論	3・4前		2		○			1						
		異文化とスポーツ	3・4前		2		○				1					
		スポーツと法	3・4前		2		○								兼1	
		文化資源とスポーツ	3・4前		2		○			1						
		レクリエーション論	3・4前		2		○			1						
		アダプテッドスポーツ論	3・4前		2		○								兼1	
		加齢とスポーツ	3・4後		2		○				1					
		健康運動プログラムの作成	3・4後		2		○				1					
		スポーツインストラクター指導論	3・4後		2		○								兼1	
		メンタルトレーニング論	3・4後		2		○								兼1	
		コンディショニング論	3・4後		2		○			1						
		スポーツコーチング論	3・4後		2		○			3	1	2				オムニバス
		スポーツ指導者論	3・4後		2		○								兼1	
		健康・体力づくり指導法	3・4後		2		○								兼1	※実習
		発育・発達とスポーツ	3・4後		2		○				1					
		学校保健	3・4後		2		○				1					
		教育と法	3・4後		2		○			1						
		エコツーリズム論	3・4後		2		○			1						
		スポーツ・ツーリズム論	3・4後		2		○			1						
		スポーツと政治	3・4後		2		○			1						
		国際交流とスポーツ	3・4後		2		○								兼1	
		海外スポーツ文化研修	2・3後		2			○		1						
		スポーツ健康実習	3後		1				○	1	1	1				共同
		スポーツ教育実習	3後		1				○		3					共同
		地域スポーツ実習	3後		1				○	3						共同
		小計(44科目)	－	0	83	0		－		10	8	2	0	0	兼13	
	「専攻科目群」計(82科目)		－	61	106	0		－		10	9	3	0	0	兼22	
演習科目群		ゼミナールⅠ	3前	2				○		10	9	3				
		ゼミナールⅡ	3後	2				○		10	9	3				
		ゼミナールⅢ	4前	2				○		10	9	3				
		ゼミナールⅣ	4後	2				○		10	9	3				
		小計(4科目)	－	8	0	0		－		10	9	3	0	0	兼0	
合計(206科目)			－	87	292	0		－		11	9	4	0	0	兼75	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育学概論	1前			2	○			1	1					
		教職論	1・2・3前			2	○								兼1	
		教育制度論	1後			2	○			1	1					
		教育心理学	1後			2	○								兼2	
		特別支援教育Ⅰ	2後			1	○								兼2	オムニバス・共同(一部)・集中
		特別支援教育Ⅱ	2後			1	○								兼4	オムニバス・集中
		道徳教育の理論と方法	2前・後			2	○			1					兼1	
		総合的な学習の時間の指導	2前			2	○								兼2	
		特別活動の指導	2後			2	○				1				兼1	
		教育の方法と技術	3後			2	○								兼1	
		生徒指導	2前			2	○				1				兼1	
		教育相談	2前			2	○								兼2	オムニバス・共同(一部)
		進路指導	2前			2	○								兼1	
		教育実習Ⅰ(事前事後の指導を含む。)	3後～4前			3			○	1	2					集中
		教育実習Ⅱ	3後～4前			2			○	1	2					集中
		学校体験活動	3前・後			2			○	1	2					集中
		教職実践演習	4後			2		○		1	2					
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	保健体育科教育法Ⅰ	2後			2	○			1					兼1	オムニバス・共同(一部)
		保健体育科教育法Ⅱ	3前			2	○				1					
		保健体育科教育法Ⅲ	3後			2	○				1					
		保健体育科教育法Ⅳ	3後			2	○				1					
	大学が独自に設定する科目	教育学演習Ⅰ	2・3前			2		○		1	1					
		教育学演習Ⅱ	2・3後			2		○		1	1					
	小計(23科目)		―	0	0	45	―			2	2	0	0	0	兼14	
合計(229科目)			―	87	292	45	―			9	9	4	0	0	兼89	

<table>
<tr><td>学位又は称号</td><td>学士（スポーツ科学）</td><td>学位又は学科の分野</td><td colspan="2">体育関係</td></tr>
<tr><td colspan="3">卒　業　要　件　及　び　履　修　方　法</td><td colspan="2">授業期間等</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="3">＜卒業要件単位＞　124単位

○教養基礎科目…必修10単位を含む18単位以上
○教養発展科目…必修4単位を含む10単位以上
○地域科目…4単位以上
○外国語科目…必修8単位を含む10単位以上
必修外国語…（第1外国語…「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」の4単位必修、日本語以外を母語とする学生は、英語に替えて「日本語ⅠA」「日本語ⅠB」「日本語ⅡA」「日本語ⅡB」の4単位必修、第2外国語…母語及び第1外国語以外の1言語4単位必修）
選択必修外国語…第1外国語または第2外国語として選択したいずれか1言語2単位を選択必修
自由選択外国語科目の「日本語演習Ⅰ」「日本語演習Ⅱ」は日本語以外を母語とする学生のみ履修することができる
○キャリア教育科目…必修4単位を含む6単位以上
○専攻導入科目…13単位必修
○専攻基幹科目…講義科目必修16単位、実技科目選択必修5単位（「専門実技（ジョギング・ウォーキング）」「専門実技（体つくり運動）」より1単位、「専門実技（水泳）」「専門実技（体力トレーニング）」「専門実技（陸上競技）」「専門実技（器械運動）」「専門実技（フィットネスA）」「専門実技（フィットネスB）」「専門実技（柔道）」「専門実技（ダンス）」より1単位、「専門実技（サッカー）」「専門実技（バレーボール）」「専門実技（バスケットボール）」「専門実技（テニス）」「専門実技（ホッケー）」「専門実技（ラグビー）」より2単位、「専門実技（自然活動A）」「専門実技（自然活動B）」「専門実技（プロジェクト・アドベンチャー）」「専門実技（アクア・マリンスポーツ）」「専門実技（パドルスポーツ）」「専門実技（自然活動C）」「専門実技（スキー・スノーボード）」より1単位）を含む21単位以上
○専攻発展科目…「スポーツ測定法」「スポーツ心理学」「健康とスポーツの医学A」「運動学」「スポーツ生理学」「健康と文化」「スポーツ政策論」「生涯スポーツ論」「スポーツ人類学」より10単位、「スポーツコーチング論」「スポーツ指導者論」「アスレティックトレーナー論」より2単位、「スポーツ健康実習」「スポーツ教育実習」「地域スポーツ実習」より1単位を含む30単位以上
○自由選択単位…専攻基幹科目（実技科目）及び専攻発展科目の卒業要件単位を超えた修得単位4単位以上
○演習科目…8単位必修

○「スポーツ健康実習」「スポーツ教育実習」「地域スポーツ実習」の履修条件…専攻導入科目のすべて（7科目13単位）を履修し、専攻基幹科目（講義科目）のすべて（8科目16単位）を履修し、専攻基幹科目（実技科目）のうち「ジョギング・ウォーキング」又は「体つくり運動」のいずれか1科目1単位を含む3科目3単位以上を履修した上で、進路に応じた科目として
「スポーツ健康実習」は「スポーツ生理学」「スポーツ測定法」「健康とスポーツの医学A」「健康と文化」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること。
「スポーツ教育実習」は「健康と文化」「生涯スポーツ論」「運動学」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること。
「地域スポーツ実習」は「運動学」「スポーツ人類学」「スポーツ政策論」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること。

○教職課程科目については、教職課程履修者のみ履修することができる。
なお、次に掲げる科目は「大学が独自に設定する科目の履修」の単位に算入できる。
「教育と法」「教育と文化」「道徳教育の理論と方法」（高等学校教諭一種免許状のみ）
＜年間履修上限単位数＞　1年次が44単位、2年次以降は46単位</td><td>1学年の学期区分</td><td>2期</td></tr>
<tr><td>1学期の授業期間</td><td>15週</td></tr>
<tr><td>1時限の授業時間</td><td>90分</td></tr>
</table>

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第2号(その3の1)

(用紙　日本工業規格A4縦型)

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ科学部スポーツ科学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教養科目群	教養基礎科目	教養基礎講座	(授業形態):講義形式 (授業目標):スポーツを学んでいくさいに基礎教養となる分野について、高校までに学んできた知識を確認するとともに、大学生として学んでいくのに必要な(1)基礎的な力を身につけることを目標とする。また、これらの知識を活用して、(2)考える力を磨く。 (授業計画の概要):スポーツを学ぶさいには、現代社会の文化及び現代社会の文化が生み出された背景を理解することが必須となる。そこで、日本の歴史・西洋の歴史・地理・統計・日本語・時事問題の分野について、基礎的な事項を解説し、授業中に練習問題を課すなどして達成度を確認しつつ、理解を深める。 (オムニバス方式／全 15 回) (11 岡田安芸子／2 回) 現代の文化を理解するために必要な日本史に関する基礎的知識について講義し、その定着を図る。 (14 小林将輝／2 回) 現代の文化を理解するために必要な西洋史に関する基礎的知識について講義し、その定着を図る。 (10 天野宏司／2 回) 現代の文化を理解するために必要な日本及び世界地理に関する基礎的知識について講義し、その定着を図る。 (23 田中輝海／2 回) 現代の文化を理解するために必要な統計学に関する基礎的知識について講義し、その定着を図る。 (46 長尾建／2 回) 現代の文化を理解するために必要な日本語・国語に関する基礎的知識について講義し、その定着を図る。 (6 時本識資／2 回) 現代の文化を理解するために必要な社会の時事問題、現代社会事象に関する基礎的知識について講義し、その定着を図る。 (11 岡田安芸子・14 小林将輝・10 天野宏司・23 田中輝海・46 長尾建・6 時本識資／3 回)(共同) 各講師の講義内容について、学生の学習進度に応じた補足講義を行う。また、学生の学習達成度測定のための全分野に関する総合的な演習問題を課す。	オムニバス方式・共同(一部)

共通教養科目群	教養基礎科目	プレゼミナールⅠ	(授業形態):演習形式 (授業目標):総合的な学習を通じて、次の 5 つの到達目標を求める。(1)コミュニケーション能力を獲得する、(2)文献の探し方・読み方・メディアセンターの使い方を身につける、(3)報告・発表の仕方を学習する、(4)レポートの書き方を学習する、(5)大学での学びの基本や、社会的な大学生活の送り方を修得する (授業計画の概要):大学での学習で必要とされる、自分から主体的に授業に参加し、課題を見つけ、調べ、発表するといった基本的能力の習得を目指す。具体的には、資料を読み、その内容を理解し、さらには理解したことを文章の形でまとめ、自分が伝えたいことを相手が理解できるように話すといった、基本的なアカデミック・スキルズを修得する。授業は 15 人程度の少人数クラスで実施され、主として授業目標の(1)(2)(5)の達成を目指した授業が行われる。	
		プレゼミナールⅡ	(授業形態):演習形式 (授業目標):総合的な学習を通じて、次の 5 つの到達目標を求める。(1)コミュニケーション能力を獲得する、(2)文献の探し方・読み方・メディアセンターの使い方を身につける、(3)報告・発表の仕方を学習する、(4)レポートの書き方を学習する、(5)大学での学びの基本や、社会的な大学生活の送り方を修得する (授業計画の概要):大学での学習で必要とされる、自分から主体的に授業に参加し、課題を見つけ、調べ、発表するといった基本的能力の習得を目指す。具体的には、資料を読み、その内容を理解し、さらには理解したことを文章の形でまとめ、自分が伝えたいことを相手が理解できるように話すといった、基本的なアカデミック・スキルズを修得する。授業は 15 人程度の少人数クラスで実施され、主として授業目標の(2)(3)(4)の達成を目指した授業が行われる。	
		コンピュータ・リテラシーⅠ	(授業形式):実習形式 (授業目標):社会のあらゆる分野で情報ネットワークが利活用される現在の情報社会では、コンピュータやインターネット等の情報通信ネットワークを活用する能力はもちろんのこと、個人の情報処理能力を高めることが求められている。本科目では、ワープロソフトを活用したビジネス文書やレポートの作成、プレゼンテーションソフトを活用したプレゼンの実践等を通して、学生生活及びビジネスシーンにおける PC 活用能力を磨くと同時に、情報収集力やプレゼンテーション能力の向上を目指す。 (授業計画の概要):PC の基本操作、ネットワークと電子メール、ワープロソフトによる文書作成、プレゼンテーションソフトによる資料作成と発表など、PC 操作やソフトウェアの基本機能を学ぶ。	

共通教養科目群	教養基礎科目	コンピュータ・リテラシーⅡ	(授業形式):実習形式 (授業目標):社会のあらゆる分野で情報ネットワークが利活用される現在の情報社会では、コンピュータやインターネット等の情報通信ネットワークを活用する能力はもちろんのこと、個人の情報処理能力を高めることが求められている。本科目では、表計算ソフトを活用したグラフ作成や計算及びデータの分析、プレゼンテーションソフトを活用したプレゼンの実践等を通して、学生生活及びビジネスシーンにおけるPC活用能力を磨くと同時に、情報収集力やプレゼンテーション能力の向上を目指す。 (授業計画の概要):表計算ソフトによる表作成、表計算、グラフ作成、データ分析、プレゼンテーションソフトによる資料作成と発表など、PC操作やソフトウェアの基本機能を学ぶ。	
		倫理学Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):「悪」とされているものが、どのような倫理的規範によってそう呼ばれるのかを理解することによって課題を発見し、日常生活における「悪」とその倫理学的な意義を自分で論じられるような論理的・多面的思考力を養成する。 (授業計画の概要):各回において「殺人は悪か」「嘘は悪か」「暴飲暴食は悪か」「怠惰は悪か」等のテーマを設定し、具体的な例に拠りながらひとつずつ考えていく。最終的には、人間とは何か、人間の社会とはどのようなものか、ということについて考察する。	
		倫理学Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):人とは何か、人は何をよりどころとして生きているのか、といった倫理学の問いを受講者に理解させ、かつその問いについて自ら論理的かつ多面的に思考する力を養成する。同時に、日本倫理思想史にかんする文献を読むことを通じて、読解力を養う。 (授業計画の概要):「愛」「自然」というテーマを設定し、そのテーマにかんする文献(『今昔物語集』『古事記』など)を読みながら、各時代の倫理思想の特徴を解説し、時代による変化を明らかにする。その上で、それらと比較することによって、現代社会を生きる私たちの価値観について自ら考えていくことを、受講者に課していく。	
		文学Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):日本の近現代文学を中心に取り上げ、主観的な解釈ではなく、論理的な読解の基本である構造主義的な二項対立を軸として、読解力と理解力を養成する。合わせて、現代社会を映す鏡としての文学に目を向けることによって、常識として知るべき知識と多面的な思考力を涵養する。 (授業計画の概要):テクストに沿った精緻な読解を目指すため、取り上げる作品は 4 篇程度に絞って解説する。それぞれの作品について、論理的な思考力を養うために、レジュメは穴埋め式のフローチャートを用い、論理展開が目で見てわかるように工夫する。また、たとえば資本主義と社会主義など、学生にとって自明であるようで決して自明ではない基本的な知識についても、改めて分かりやすく説明する。	

共通教養科目群	教養基礎科目	文学Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):日本近現代の短篇小説を取り上げ、小説が発表された時代状況とその作品の背景をなすテーマを解説しながら、テクストを精緻に読解する。たとえば、被占領下の日本を取り巻く状況やその後の学生運動など、学生が常識として知るべき知識を与えると同時に、精緻な読解力と作品をより深く味わう理解力を養成する。 (授業計画の概要):より高度な読解と多面的な思考力を涵養するため、短篇小説とは言っても取り上げる作品数は4篇ほどに止める。また、小説の背景をなすテーマがどのような変遷を経て現代にまで繋がっているのか、逆になぜ作品に描かれた思想が時とともに淘汰され現代では顧みられなくなったかなど、現代社会との関わりの中で解説する。	
		こころの科学Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):犯罪心理学の基礎的な分野について幅広く理解することが目標である。犯罪という現象をどのような切り口で理解すればよいかを学び、「理解力」や「課題発見能力」を身に付けるとともに、犯罪心理学の理論を学習することで、「論理的・多面的思考力」を身に付ける。さらに、実際の事件と理論との関連を考えることで社会への関心を高める。 (授業計画の概要):上記のとおり、犯罪心理学の基礎的な分野を幅広く学習するが、具体的には、前半では犯罪心理学及び犯罪社会学の基礎的な理論について解説し、その後に、犯罪捜査に関係する心理学、依存や嗜癖などの個別的な領域について、その基礎を解説する。	
		こころの科学Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):攻撃行動と暴力の犯罪について理解し、自分なりの意見をもてるようにする。とくに、凶悪犯罪の心理的メカニズムに関する理論やモデルを理解できるようにする。駿大社会人基礎力に関しては「課題発見能力」「情報収集力」を身につけることが該当する。また、暴力的犯罪に対する心理学的研究を学習することで「論理的・多面的思考力」「理解力」を身につけるようにする。 (授業計画の概要):暴力行為はさまざまな場面で観察される。こうした暴力犯罪や暴力行為をいかに抑止するためにも、その場面での心理、あるいは背景となる人格、さらには場面的状況要因を理解する必要がある。 こころの科学ⅡではⅠの犯罪理論の学習を受けて、攻撃と暴力に焦点を当て、その犯罪の実態、とくに連続殺人や性犯罪・性暴力を中心にそれらの心理的メカニズムについて心理学的研究の知見を学習する。	

共通教養科目群	教養基礎科目	日本の文化と倫理	(授業形態):講義形式 (授業目標):日本において、神仏や死者に関する言説が、どのように人々の倫理観を形づくったのかを理解する。また、神仏や死者について述べた文章を読むことを通して、読解力や理解力を身につけるとともに、自ら、宗教行事の意味や役割について考えることを通して、論理的・多面的思考力を養うことをめざす。 (授業計画の概要):日本人の宗教観を物語る作品を DVD で視聴した上で、そこで描かれている、神仏や死者と人々との関係について考察を行う。続けて、『風土記』をとりあげながら、神まつりが行われる現場とその論理について確認し、さらに『三宝絵』や『遠野物語』を読みながら、盆行事を通して死者と関わり合うことが、どのような倫理観を育んでいったのかについて解説する。	
		国際社会と日本	(授業形態):講義形式 (授業目標):この授業の目標は、広く国際社会における近現代日本の立場と日本人のアイデンティティを探ることです。比較文化論、学問、芸術、歴史、そしてメディアという資料を参照し、西洋・東洋・日本文化を比較することによって、近代世界の有様を概観します。そして、世の中の文化的な差異や多様性に向き合う知恵を身に付けることを目指します。 (授業計画の概要):この授業では、文化的視点に立ち、日本の近代化と国際化をめぐる議論を参考にしながら、主に西洋(西ヨーロッパ、北アメリカ)から見た近現代日本文化について学びます。ここでは、異文化との出会いを通じて自己／他者や日本人／外国人という二項対立をより客観的に映し出すことをも試みます。「比較文化」とは、他者を知り、その理解と敬意を通して自己を顧みる知的行為です。この意味において、他者理解(当然、そこには敵意、憎しみ、無関心から、憧れ、敬愛、共感に至るまでの心と魂の自己変容のプロセスが含まれている)を通して、「自画像」や「日本」を描き直すための自己点検と内省が刺激を与えてくれる学問です。	
		北欧文化論	(授業形態):講義形式 (授業目標):フィンランドの事例を中心に、北欧地域の社会と文化の特色を検討し、論理的・多面的思考力を身につけることが第一の目標である。それとともに、北欧地域が日本や世界の他の地域とどのように異なるかを議論し、日本の特質や課題を理解する手がかりとして捉え、さらには自分の意見を述べるまでのプレゼンテーション能力を養うことが第二の目標となる。 (授業計画の概要):北欧フィンランドが見せる社会的・文化的特質を「政治」、「環境」、「教育」、「福祉」、「言語」、「情報技術」、「芸術」といった視点から読み解く。それらを通じて、フィンランドと日本がもつ共通点や違い、お互いの良いところや問題点を考え、さらには私たちが住む日本の社会を改善するためのヒントを発見していく。	

共通教養科目群	教養基礎科目	健康・スポーツ実習Ⅰ	(授業形態):実習形式 (授業目標):高校生活までの運動体験を発展させ、重要な身体完成期に、自主的にスポーツに親しみ、健康生活を維持するための知識と技術を整理し、仲間や集団の一員としてスポーツに親しむ。また生活習慣病や日常ストレスから開放し、健康体を維持し、豊かな日常生活を築く。行動力・実行力、主体性、協調性、常識力を涵養する。 (授業計画の概要):1. 配当種目(各時限 3 種目)から興味関心の深い種目を選択し、運動実践を徹底する。2. 体力運動能力測定を行い、自身の身体機能の現状を理解する。	
		健康・スポーツ実習Ⅱ	(授業形態):実習形式 (授業目標):春学期の「健康・スポーツ実習Ⅰ」における運動体験を発展させ、重要な身体完成期に、自主的にスポーツに親しみ、健康生活を維持するための知識と技術を整理し、仲間や集団の一員としてスポーツに親しむ。また生活習慣病や日常ストレスから開放し、健康体を維持し、豊かな日常生活を築く。行動力・実行力、主体性、協調性、常識力を涵養する。 (授業計画の概要):1. 春学期の「健康・スポーツ実習Ⅰ」で選択した種目を継続して運動実践を徹底する。2. 体力運動能力測定結果に基づいて、個々のトレーニングプログラムに従い身体機能の維持増進を図る。	
		憲法概論	(授業形態):講義形式 (授業目標):憲法全般にわたる基礎的な知識の習得を目的とする。日本国憲法の制定過程から日本国憲法の基本的人権の構造とその特徴について基本となる条文にそって解説することによって読解力を養い、さらに表面的な条文の背景にある思想原理について考察することで、深い理解力を涵養し、応用力の効く判断能力を養うことを目標にする。学生も選挙制度を理解し、主体的に判断し、政治に参加できるような能力を身につけることを目標とする。 (授業計画の概要):日本国憲法の特質を理解し、代表的な基本的人権について判例を援用しつつ、解説する。さらに、基本的人権が統治の仕組みと不可分であることを国会、内閣、裁判所等の統治機構の規定を解説することにより、憲法の本質について理解を深め、今日における日本国憲法の意義と限界について考察する。	
		経済学Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):大学で経済学を初めて学ぶ学生が対象となるので、経済学の基本的な理論を身につけることが到達目標となる。また、駿大社会人基礎力のうち、とくに考える力(論理的・多面的思考力、理解力)を高めることを目指す。 (授業計画の概要):現在、我々の日々の生活は、日本および世界の経済的出来事に大きく影響されている。これらの出来事とこれからわれわれが学ぶ経済学の関係をできるかぎり明らかにしながら講義を進めてゆきたい。経済学Ⅰでは、マクロ経済学の基礎、すなわち、国民所得の概念、国民所得の決定、乗数理論を学ぶ。	

共通教養科目群	教養基礎科目	経済学Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):経済学の基本的な理論を身につけ、さまざまな経済問題について考えられるようにすることが到達目標となる。また、駿大社会人基礎力のうち、とくに考える力(論理的・多面的思考力、理解力)を高めることを目指す。 (授業計画の概要):経済学Ⅱでは、ミクロ経済学の基礎を学ぶ。我々の日々の経済的な活動を経済学の理論によって説明していく。需要曲線など消費者行動の理論、利潤最大化など生産者行動の理論、市場均衡など市場機構の理論の順に講義を進めていく。	
		歴史学Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):本講義は、どんな出来事があったのかを「覚える歴史」ではなく、出来事が起こるに至った人間の営みや社会のありようを「考える歴史」に重点を置く。そこでは、出来事の背景の考察を通して人間・社会への理解力を深めるだけではなく、複眼的思考を可能にするトータルな歴史把握を目指す社会史から検討することによって、論理的・多面的思考力を養う。また、ヨーロッパと日本の中世社会を比較・検討しながら、中世への「暗黒社会」的理解を超えた、新たな歴史観を提示する。 (授業計画の概要):中世から現代にかけての「ハーメルンの笛吹き男」伝説の形成過程を歴史的に追いながら、伝説がどう変化し、現代まで伝わっていったのかを検討する。そこからヨーロッパ中世社会の特質と現代社会との異同について考えてゆく。さらに、網野善彦氏の日本中世社会論を検討することによって、ヨーロッパとの比較による人間社会の共通性に注目するだけでなく、従来の日本史理解の常識をも見直してゆく。	
		歴史学Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):20 世紀の世界史を対象にして、単なる「出来事史」ではなく、なぜそのような出来事が起こったのかを考えることを目標とする。それにより、人間社会への理解力、論理的・多面的思考力を養う。とくに、現代と密接に結びついている 20 世紀の考察によって、現在さらには未来を見通す力を涵養し、現在の問題への問題解決能力を育ててゆく。 (授業計画の概要):20 世紀の経済・社会が産業革命・市民革命後の 19 世紀の経済・社会とどう違い、発展していったのかを、独占資本主義、大衆社会、帝国主義などのキーワードによって解明する。さらに、ヒトラーとドイツ国民の関係を分析することによって、ファシズムがなぜ生まれたのかを考察し、現代の社会・経済の問題点を検討する。	

共通教養科目群	教養基礎科目	観光学	(授業形態):講義形式 (授業目標):観光を計画・準備してから、目的地に移動・滞在し、再び日常生活に戻るまでに行う数々の観光行動は、社会的、経済的、文化的にさまざまな影響をもたらす。それら影響について、具体的な事例もまじえて考察する。観光行動のなかには負の影響をもたらすものもある。それら課題を発見し、さらに問題解決を図る能力も養成する。 (授業計画の概要):まず、観光研究のアプローチ、自由時間(余暇)の概念、レクリエーションの概念、観光の定義、観光の本質などについて解説する。そのうえで、観光の現状と課題を把握し、オルターナティヴ・ツーリズムについて論ずる。	
		現代自然科学Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):現代社会と関連の深い自然現象を中心に、様々な分野に関する正確な知識を身につけ、その知識をもとに、科学的リテラシーのひとつである、科学的なものの観察力、論理的または批判的に考える能力を身につけることを目的とする。 (授業計画の概要):物理学、化学、生物学、地球科学の四つの分野の中から、身近な現象や社会と大きく関わる現象などを取り上げ、現象の仕組み、背景にある理論などを、簡単な体験的学習を通じて理解しながら進めて行く。適宜グループディスカッションを交えて、身につけた知識の定着・活用能力の発展に取り組む。	
		現代自然科学Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):現代社会と関連の深い自然現象を中心に、様々な分野に関する正確な知識及び科学的な考え方を身につけ、それを様々な課題を解決するための能力を身につけることを目的とする。 (授業計画の概要):物理学、化学、生物学、地球科学の四つの分野の中から、身近な現象や社会と大きく関わる現象などを取り上げ、そこに存在する課題をどのように解決するか、現象の仕組み、背景にある理論などを用いて取組んでいく。グループで、シミュレーションや簡単な実験などを通じて仮説検証型学習を行うことで、科学的な知識・理論を実際の課題に応用する方法を学ぶ。	
		環境生物学Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):環境問題と最も関わりの深い学問分野である生態学、動物行動学、系統分類学などの基礎的な理論や知識の習得を通して、これらの情報を収集して総合し、地球環境の構造や環境問題のメカニズムを正しく理解する能力を身につけることを目標とする。 (授業計画の概要):前半では物質代謝、摂食、繁殖、競争、共生など生物の社会生活の基本を人間社会のあり方と比較しながら解説し、後半はこれらの知識を総合して、生物多様性とその歴史、群集と生態系など社会と大きく関わっている環境要素の構造について学ぶ。	

共通教養科目群	教養基礎科目	環境生物学Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):外来生物、環境汚染、地球温暖化など生物を介し、または生物と関わりながら起こっている具体的な環境問題を取りあげながら、錯綜した情報を正しく処理し、論理的・多面的思考力によってそのメカニズムを正しくとらえ、これらの問題を正しく解決する能力を身につけることを目標とする。 (授業計画の概要):前半では食糧問題、少子化問題、外来生物問題、環境汚染、地球温暖化などの諸問題を生物学的側面と社会に与える影響との両方から解説し、後半は自然再生、環境影響評価など人間社会と自然との新しい共生関係の構築について学ぶ。	
		生命の科学Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):我々人間はなぜ生きていて、そして死ぬのかという問いかけを「生命の維持」という観点から解説し、生命科学の基本的な知識を日常生活と関連付けながら正しく理解することを目的とする。 (授業計画の概要):前半は生命の誕生に関わる、DNA の働きと遺伝、性の決定、発生などを概説し、後半は生命の維持に関する形態、生理、免疫、脳の働き、筋肉のメカニズム、ホルモンと成長、老化と死、生命の起源と進化などについて学ぶ。	
		生命の科学Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):『生命の科学Ⅰ』で得られた知識を踏まえ、現代社会で問題となっている様々な生命科学上の課題を解説し、生命と関連する社会問題を生命科学的な観点で理解できるようにする。 (授業計画の概要):前半は生命の誕生に関わる分野として、男女の産み分け、クローン生物、DNA 鑑定の展開、遺伝子組換え、進化論論争などを生命倫理と関連付けながら解説する。後半では、宇宙生物学・惑星生物学、再生医療、脳科学など生命科学の新しい展開と社会との関わりを中心に学ぶ。	
		からだの科学Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):高齢化社会を生きる私たちが、豊かな生活を実現していくためには健康寿命の延伸が必須である。本講義では、現代社会において生活習慣の乱れによって生じている健康問題を理解した上で、その対策を多面的に思考し、問題解決に向けた主体的行動に結びつけていけることを目標とする。 (授業計画の概要):①四大死因を中心とした生活習慣病およびロコモティブシンドロームについて解説し、身体活動との関わりについて講義する。②健康寿命延伸のためには、どの程度の身体活動量が必要とされるのかを解説し、基礎的な運動プログラムの作成方法について講義する。③現代社会での生活に、身体活動をいかに取り入れ、継続させるかといった健康スポーツマネジメントについて論じる。	

共通教養科目群	教養基礎科目	からだの科学Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):本講義では、スポーツの競技力向上に欠かせない体力トレーニングにより、身体がどのように適応し、機能を向上させていくのかを科学的根拠をもとに論理的に理解することを目的としている。また、これらの知識を活用しながらヒトの身体やスポーツに対する理解力を高めることも目的としている。 (授業計画の概要):①身体運動のためのエネルギーについて講義をする。②そのエネルギーを利用する骨格筋の構造と機能について講義をする。③持久的運動時のエネルギー供給を支える呼吸循環器系の応答について講義する。④体力トレーニングの原理・原則を解説するのと同時に、スポーツ生理学的知見を活かした最新のトレーニング方法についても論じる。	
	教養発展科目	プレゼミナールⅢ	(授業形態):演習形式 (授業目標):プレゼミナールⅢでは、知的好奇心を養い、幅広い教養を身につけるとともに、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を育成することを目標とする。 (授業計画の概要):学生は、各自の選択したコースにとらわれず、専任教員が提示する多用な分野の中から各自の関心領域に合った演習を選択する。情報過多ともいえる現代において、多角的にものを見ることや、グローバルとローカルの両方を重視すること、どのような分野に関しても、科学的批判的に情報を取捨選択し、情報に振り回されることなく、高いレベルで各自の意見をまとめることを目指す。プレゼミナールⅢでは、主に各領域に関する基礎的な知識を獲得することを目指す。	
		プレゼミナールⅣ	(授業形態):演習形式 (授業目標):プレゼミナールⅣでは、知的好奇心を養い、幅広い教養を身につけるとともに、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を育成することを目標とする。 (授業計画の概要):学生は、各自の選択したコースにとらわれず、専任教員が提示する多用な分野の中から各自の関心領域に合った演習を選択する。情報過多ともいえる現代において、多角的にものを見ることや、グローバルとローカルの両方を重視すること、どのような分野に関しても、科学的批判的に情報を取捨選択し、情報に振り回されることなく、高いレベルで各自の意見をまとめることを目指す。プレゼミナールⅣでは、プレゼミナールⅢで獲得した知識をもとに考察を深め、より発展した内容をプレゼンテーションすることを目指す。	

共通教養科目群	教養発展科目	日本の暮らしと文化	(授業形態):講義形式 (授業目標):日本において、他界に関する言説が、人々の暮らしにどのような影響を与えていたのかを理解する。また、他界について述べた文章を読むことを通して、読解力や理解力を身につけるとともに、自ら、他界の意味や役割について考えることを通して、論理的・多面的思考力を養うことをめざす。 (授業計画の概要):日本人の他界観を物語る作品を DVD で視聴した上で、そこで描かれている、自然と人間の関係・男女の関係・死者と生者の関係について考察を行う。続けて、『古事記』をとりあげながら、自然や他者と持続的に関わり合うための知恵について確認し、さらに宮沢賢治の作品を読みながら、近代以降に新しく登場した他界観と、そうした他界が果たした役割について解説する。	
		欧米の暮らしと文化	(授業形態):講義形式 (授業目標):いわゆる西洋諸国社会の現在と歴史に関する基本的な知識を身につけること、現代社会に対して必要で不可欠な現在の政治・経済・社会・文化に対する批判的能力を養うことを目標とします。具体的には、現在進行中の世界の多文化主義・排外主義に対する論争を歴史的な視点から理解すると共に、継続する帝国主義・植民地主義的な過去・歴史(ポスト・コロニアリズム)と現在直面している多文化主義に対する批判・非難という言説を関連付けながら概観することを目指します。 (授業計画の概要):この授業では、歴史、芸術、比較文化論、そしてメディアという資料を参照し、欧米と日本の文化・社会・歴史を比較することによって、欧米諸国の有様を概観する。そして、世の中の文化的な差異や多様性に向き合う知恵を身に付けることを目指す。	
		異文化と文学	(授業形態):講義形式 (授業目標):異文化が文学、とくに日本の近代文学の思想と表現に与えた影響を理解する。異文化との接触は、単に異なる文化の摂取に止まらず、自己を相対化させ新たな思想を形成させる。本講座では、あくまで表現に即しながら、異文化との接触によって得られた知見と思想が、文学作品にいかに表現されているかを理解することによって、読解力と論理的・多面的思考力を涵養する。 (授業計画の概要):まず、西洋体験のある日本の文学者について取り上げる。明治末期、ごく近接した時期に西洋留学をした作家に、夏目漱石、永井荷風、高村光太郎がいる。彼らは帰朝後、日本の近代化についての思想で、驚くべき対照を見せた。彼らそれぞれについて、思想の変遷と文学作品について解説する。次に、植民地文学と南方文学を取り上げる。とくに、横光利一の上海体験と中島敦のパラオ体験について、作品に即して解説する。	

共通教養科目群	教養発展科目	日本伝統文化論	(授業形態):講義形式 (授業目標):柳田国男の著作と謡曲を読むことを通じて、理解力や読解力を養うとともに、日本の伝統文化について理解することを通じて、これから目指すべき日本文化のあり方について自ら論理的・多面的に考えていく力を養成する。 (授業計画の概要):『遠野物語』『青年と学問』『豆の葉と太陽』謡曲「葵上」「野宮」などのテキストを順番に読みながら、日本人の世界観や価値観がどのように変容したのかを解説する。同時に、伝統文化と現代社会との関係について論じる。	
		コミュニケーション論	(授業形態):講義形式 (授業目標):コミュニケーションの仕組みやコミュニケーションにおける言語の役割を理解することを目指す。さらに、対人的な場面におけるコミュニケーションについて検討し、コミュニケーション能力を向上させるとともに、人間のコミュニケーションについて論理的・多面的に思考する力を養う。 (授業計画の概要):まず、コミュニケーションの基本的な仕組みについて、コミュニケーションに関するモデルを検討しながら解説する。次に、言語の性質や役割について、社会言語学や記号学で得られた知見を紹介する。最後に、対人的コミュニケーションについて、社会心理学の研究を参照しつつ検討していく。	
		インターネット文化論	(授業形態):講義形式 (授業目標):現代の高度情報化社会を支える主要インフラとなったインターネットに関して、過去・現在・未来という経時的視点で総合的に捉えると共に、技術と思想、思想とアクティヴィズム等といった複眼的視点を導入することで、理解力や論理的・多面的思考力を高め、学生が今後主体的に行動するのに必要な創造的発想力を涵養する。 (授業計画の概要):インターネットが現代社会にもたらす影響に関して楽観派・悲観派両方の主張を学び、自分なりの考えを確立する。次いでインターネットを生み出した思想について学び、歴史を貫く発想の軸を理解する。さらに、経済的にも大きな影響力を持つようになったインターネットが、今後我々の生活にどのような影響を及ぼすのかを探る。	
		子ども文化論	(授業形態):講義形式 (授業目標):子ども観は時代や社会の状況に合わせて変化している。その変遷をたどり、子どもの文化とは何かを考えながら、情報収集能力、論理的・多面的思考力、理解力を身につける。また、子どもをめぐる現代の諸問題を取り上げる中で課題発見能力、問題解決能力の獲得を目指す。 (授業計画の概要):子どもの定義・子ども観の変遷についてまず学習し、次いで子どもと遊び、絵本、映画、メディアミックス等の歴史と現状、現代社会が子どもをめぐって抱えている諸問題等を分析し、子どもの文化についての考察を深める。	

共通教養科目群	教養発展科目	現代人と心理Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):刑事司法の世界では、取調の可視化に伴い被疑者、目撃者に対する取り調べや事情聴取の公正な方法が求められている。これらの課題に対して、先端的な役割を果たしているのが法心理学の研究である。本講義では、心理実験に基づく実証的知見と具体的事件における心理学鑑定の実際を学び、論理的かつ多面的な思考力、さらに問題発見と解決能力を身につけることを目標とする。 (授業計画の概要):実際の裁判事例を取り上げ、事実認定に対して心理学的にどのような問題があるのかを解説する。その際、心理学的な実証実験を根拠として取り上げる。さらに、供述の信用性問題に関して、司法面接の在り方、可視化の方法などについて、最新の事情を解説する。	
		現代人と心理Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):この科目を受講することによって、まず人間のこころのしくみの基本を理解する能力を培う。次に人間の発達とそれにともなう他者との関係性など心理学の応用的な領域を学習するための論理的・多面的な思考力を高めることが求められる。 (授業計画の概要):人間のこころは、心理学だけでなく福祉、医療、教育、産業などの隣接諸分野にも関連する。この授業は人間と動物の行動の比較、人間の発達段階とその課題、家族や親子など親密な他者との関係等を通して人間のこころのしくみを学習する。また授業の理解を深めるために、視聴覚資料の視聴も行う。	
		現代社会と法	(授業形態):講義形式 (授業目標):①民法に関するごく基本的な知識を習得するとともに、②これを用いて日常生活の中で生じる問題を法的に解決する能力を体得させる。 (授業計画の概要):民法を専門に勉強するかどうかに関係なく必要な、基礎的な教養として、普段の生活の中での様々なトラブルや紛争解決のためのルールを与えてくれるのが法律であり、主に「民法」という法律の観点から、日常生活における問題がどのように解決されるのかを主題として取り上げる。	
		ライフサイクルと社会保障	(授業形態):講義形式 (授業目標):社会保障の考え方を学び、個人の一生はどのような社会保障制度によってカバーされているのか、ライフサイクルと社会保障の関係性を理解する力を身につける。また、主要な制度について、社会の一員として生活するうえで知っておくべき基礎知識を習得し、存在する課題を発見する力を涵養する。 (授業計画の概要):社会保障の役割や機能を学び、ライフサイクルに即した社会保障について理解する。そして、少子高齢社会の中で重要課題にもなっている年金・医療・介護・少子化対策などについて基礎的な内容を学習する。また、社会保障の諸問題や改革の動向についても取り上げ、解説する。	

共通教養科目群	教養発展科目	労働と社会	(授業形態):講義形式 (授業目標):雇用・賃金・労働時間などテーマごとに日本の事例について他の先進諸国と国際比較を行いながら学習する。最近新聞やニュースで報道されている話題をもとに、労働法・労働経済学・人的資源管理論など学際的な視点から分析を行うことで、論理的・多面的な思考力を養成する。 (授業計画の概要):まず、日本の雇用慣行について学習し、現在問題となっている非正規労働や若年層の失業・無業問題などを学習することで「なぜ就職活動を行うのか」について考える際に必要な知識を習得する。次に、賃金・労働時間・福利厚生など労働条件について学習することで、就職活動を行う際に必要な企業研究に応用できるようにする。	
		ジェンダー論	(授業形態):講義形式 (授業目標):社会のなかの多義的で多様な性現象を認識するため、セックス(sex)、ジェンダー(gender)、セクシュアリティ(sexuality)の概念を理解し、社会意識や社会・国家システムとジェンダーとの関係を認識するための論理的・多面的能力を涵養し、ジェンダー平等の視点から性差別克服の課題を発見し解決する主体的な能力を身に付ける。 (授業計画の概要):ジェンダー論の基本的視座を説明し、「区別」と「差別」の概念的整理を行い、意識・心理、家庭、学校、職場、メディア、法律、国家などの中のジェンダー・バイアスの問題を具体的に取り上げ、意識改革や社会・国家制度改革にとってのジェンダー平等の視点の意義を論ずる。	
		ホスピタリティ論	(授業形態):講義形式 (授業目標):ホスピタリティの理論および実践を学ぶことを通して、社会で活躍していくうえで不可欠な主体性や問題解決能力、コミュニケーション能力を磨くことを主なる目標とする。また、観光産業におけるホスピタリティの実際を深く学習することにより、常識力の養成も目標に掲げる。 (授業計画の概要):ホスピタリティに関する理論的解説ののち、実際に観光産業などのサービス産業の現場で求められる、基本的な知識や概念などを学んでいく。授業は講義のみならず、アクティブラーニングを援用しながら実践的なスキルを学生自らが主体的に学ぶよう促していく。	

共通教養科目群	教養発展科目	現代社会とメディア	(授業形態):講義形式 (授業目標):スマートフォンやタブレット端末をメディアとしてとらえ、Internet が不可欠となった現代社会の諸相を俯瞰することで、ICT とメディアリテラシーの関係を考察する。情報処理能力やコミュニケーション能力の今日的な課題と今後の展開を考える中で視野を広げ、結果として多面的な思考力の涵養並びに課題発見力を育む。 (授業計画の概要):Internet の情報伝達力を旧来の 3 大メディアと比較することで、社会に与えた影響をいくつかの事例を挙げて説明する。後半はデジタルコンテンツ化した音楽や映画の配信サービスの概要とそれを利用するためのデジタル機器類の成り立ちや利活用の現状を概観する。その上で、情報の流通と消費形態、ソーシャルネットワーク(SNS)といった様々な諸相、デジタル社会への変貌と人々のライフスタイルの変化など、現代社会とメディアとの関係とあり方を軸として講義する。	
		労働衛生Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):本科目は第1種衛生管理者資格免許との関連から、労働衛生の概論として、労働者の安全と健康を守り、快適職場形成のための理論と方法について学ぶ。一般常識としての労働における安全と健康の重要性を理解すること、労働衛生に関する理論と方法を理解し、主体的に活用できるようにすることを目標とする。 (授業計画の概要):労働衛生はⅠとⅡにわけて講義を行うが、Ⅰ では労働衛生の実際活動のうち労働管理体制、作業環境管理、作業管理、健康管理、を中心に学ぶ。更に管理方法の具体例等を提示し社会貢献ためにはどのような方法があるのかを考察する。	
		労働衛生Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):労働衛生 Ⅰ に引き続き、労働衛生の概論として、労働者の安全と健康を守り、快適職場形成のための理論と方法についての知識を学ぶ。知識を得るだけでなく将来労働衛生教育を主体的に進められるようにプレゼンテーション・コミュニケーション能力を向上させることも目標とする。 (授業計画の概要):労働衛生はⅠとⅡにわけて講義を行うが、Ⅱ では労働衛生の実際活動のうち健康保持増進対策、労働衛生教育、労働衛生管理統計、救急処置、労働整理を中心に学ぶ。また、将来労働衛生教育を主体的に進められるように講義中にロールプレイイング等を実施する。	
		労働基準法	(授業形態):講義形式 (授業目標):①雇われて働く人の権利・義務を理解しておくことで、就職後もしくはアルバイトの際に自分の身を守る実践的な知識を身に付けること、②人を雇う側に立った場合に求められる、法令順守のための一般常識を身につけること、③雇用社会における現象または紛争についての、法に基づいた問題解決能力の形成。 (授業計画の概要):「労働法とは何か」「何故労働法を学ぶのか」という問いから、普遍的な意味での労働法の意義を検討し、次いで、現行の労働法制、特に労働基準法について、適用範囲、基本原則、契約保護、賃金、労働時間という順で学修する。	

共通教養科目群	教養発展科目	労働安全衛生法Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):①人を雇う側に立った場合に求められる、法令順守のための一般常識を身に付けること、②とりわけ労働安全衛生にかかるルールについて専門知識と情報収集能力を養うこと、③労働者の安全衛生に係わる諸権利を学び、ひいては人命の尊さについて考えるきっかけとすること。 (授業計画の概要):労働安全衛生法が、労働災害という雇用社会における現象への対策として、労働法上どのような体系的位置付けを与えられるものであるのかを学び、次いで、労働者保護法の基本法たる労働基準法の歴史、実定法としての労働安全衛生法の基本的内容という順で学修する。	
		労働安全衛生法Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):①人を雇う側に立った場合に求められる、法令順守のための一般常識を身に付けること、②とりわけ労働安全衛生にかかるルールについて専門知識と情報収集能力を養うこと、③労働者の安全衛生に係わる諸権利を学び、ひいては人命の尊さについて考えるきっかけとすること。 (授業計画の概要):「労働安全衛生法 Ⅰ」に続き、実定法としての労働安全衛生法の具体的内容を学習し、次いで、労働安全衛生法の実効性確保のための諸制度、労働災害が生じた場合の補償制度、さらには、各種の特別法について学習する。	
	地域科目	歴史探訪	(授業形態):演習形式 (授業目標):東京や横浜などの街の歴史について事前調査を行った上で実際に現地に足を運び、収集した情報を実地で確かめ、日本の近代文化の展開や歴史について考察を深める。さらに、現地で学んだことをレポートにまとめることを通して、文章力、論理的・多面的思考力を伸ばす。 (授業計画の概要):探訪先について事前授業・事前学習をしたのちに、担当教員とともに学外授業に参加し、担当教員の指示に従って課題レポートを提出する。 (オムニバス方式／全 15 回) (11 岡田安芸子・46 長尾建 ／3 回)(学内での共同授業) 授業概要の説明とレポートの書き方の説明とまとめを行う。 (11 岡田安芸子／6 回) 「日本の建物の移り変わり」、「印刷博物館にみる印刷文化」及び「飯能市の郷土文化を知る」の事前授業(1 回)と学外授業(3 日)を行う。 (46 長尾建／6 回) 「横浜からみる日本の近代化」、「大学と文士の街・本郷を歩く」及び「小江戸川越の街を散策する」の事前授業(1 回)と学外授業(3 日)を行う。	オムニバス方式・共同(一部)

共通教養科目群	地域科目	フィールドトリップ	(授業形態):演習形式 (授業目標):各巡検先について事前学習を行うことで、情報収集力を養い、巡検日当日は、居所から巡検先への移動手段や巡検中の時間・リスク管理を行うことで、主体性やコミュニケーション能力、協調性を養うことを目的とする。 (授業計画の概要):テーマは「スポーツのことを知る」とし、3名の教員が分担する。最初の 2 回で教室において全体の概要説明と旅程管理を行ったあとに巡検を実施する。巡検を6回行い、最後に総まとめを教室で行う。教室の中では学べないことを体験的に学習する場である。社会と接することで、社会観や職業観を高める内容とする。各回のテーマに即して巡検し、事後リポートを提出する。 (オムニバス方式／全 15 回) (10 天野宏司・14 小林将輝・42 小林奈穂美／3 回)(学内での共同授業) 授業概要の説明、旅程管理と安全確認、総括 (10 天野宏司／4 回) 日本サッカーミュージアム・野球殿堂博物館を訪ねる/駅伝発祥の地と七福神巡り/事前授業・巡検各 1 (14 小林将輝／4 回) 両国国技館と相撲博物館を訪ねる/スポーツに関わる施設や場所を訪ねる/事前授業・巡検各 1 (42 小林奈穂美／4 回) スポーツイベント見学 その役割とはなにか/スポーツイベント見学 役割のためにどのような工夫をしているか/事前授業・巡検各 1	オムニバス方式・共同(一部)
		地域と文学	(授業形態):講義形式 (授業目標):日本の近現代文学作品を複数取り上げ、トポロジカルな観点から作品を解釈する。文学は直接的にはその作品が成立した場所(＝トポス)の影響を受け、一方で観念的には「故郷」や「都市」という場(＝トポス)の影響を受ける。本講座ではトポスを軸に据えて多面的な思考力を養成するとともに、文化を比較しながら捉える理解力も育成する。 (授業計画の概要):トポロジカルな視点から文学を理解することは、現代社会を相対化する。たとえば、大連はかつての日本の植民都市としてコスモポリタンな様相を呈するとともに、紛争の記憶を裏面に抱え続けていた。また、「故郷」と「都市」という二項対立は近代に入って形成された。このような学生が知るべき常識を与えると同時に、現代社会を相対化する多面的な思考を解説していく。	
		飯能学	(授業形態):講義形式 (授業目標):飯能に対する地誌学的学習を通じ、地域を理解する手法を身につける。フィールドワークを通じ、論理的・多面的思考力、理解力、想像的発想力を高めていき、飯能という地での課題を考えて行くことで、課題発見能力、問題解決能力を高めていく。 (授業計画の概要):飯能地域の歴史や風土、成り立ちを調べ、フィールドワークや飯能出身の方からの話などを通じ、地元にある資源を理解する。地域が持っている力を理解し、有効に活用する、ないものねだりをするのではなく、「あるもの探し」をする思考を身につけ、飯能にある大学の学生としての相当の知識を身につけていく。	

共通教養科目群	地域科目	地域社会と観光	(授業形態):講義形式 (授業目標):地域社会を活性化させる手段として、観光が着目されている。今までの観光は、エージェントが送客するのを待っていればよかったものが、今では観光地自らが創造的発想力に基づき、主体性をもって、さまざまな企画を出していく時代になった。地域活性化の手段としての観光を学び、その具体例をいくつか見ていく。 (授業計画の概要):まず、観光の歴史を概説し、1920 年代に観光の概念が必要になったことを理解させる。ついで、マス・ツーリズムが普及する戦後の状況を概説し、今日では、マス・ツーリズムでは飽き足らなくなった層が、オルターナティヴ・ツーリズムに参画するようになった。オルターナティヴ・ツーリズムは、地域社会が情報発信をする着地型観光と親和性が高く、大学所在地を事例として、観光資源の有効活用を実際に受講者に考えさせる。	
		地域環境論	(授業形態):講義形式 (授業目標):大学の立地する里山生態系又は中山間地などと呼ばれる地域の自然環境の構造や動態の特性を正しく理解し、地域の自然に実際にアプローチしながら環境に内在する課題を発見し、それらを解決して行く知識を身につけることを目標とする。 (授業計画の概要):前半では埼玉県西部の山岳や丘陵、河川、池沼などの自然環境要素の地理的および生物学的特性について解説し、後半では里山地域の環境動態や自然再生、生態系管理などの手法について学びながら、地域社会の中での自然と人間の関わり方について考える。	
		森林文化 I	(授業形態):講義形式 (授業目標):森林を自然環境、木材資源等の有効活用、災害防止、森林保全活動の実践などの視点を通して講義し、森林をめぐる諸問題を多様な視点から理解することで、森林が抱える問題を発見することが目標である。学生は、森林が持つ現代的な課題の理解を通して、課題発見能力と論理的・多面的な思考力を、さらに実践を通して共同問題解決力を身につけることができる。 (授業計画の概要):森林をめぐる自然環境問題、国際的観点からの森林の位置づけ、経済発展と環境問題、森林の観光可能性、里山と生活の関わり、木の文化などの歴史的かつ今日的課題について学ぶ。さらに、森林保全の実践を通して、具体的な森林保全の困難さ、価値について身体を通した学習を行う。 (9 平井純子・92 西村拓郎/15 回)(共同)	共同

共通教養科目群	地域科目	森林文化Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):森林に関する基礎的な諸問題の理解を基礎として、森林の活用を通した地域活性化の可能性について模索することが教育目標である。学生は、森林が持つ現代的な課題の理解と、森林保全活動の実際を通して多面的な思考力を、さらに実践を通して共同問題解決力を身につけることができる。 (授業計画の概要):飯能地域の森林をめぐる問題、森林の観光可能性、森林を通した教育可能性、里山と生活の関わり、木の文化の伝承、自然の恵みの理解などの歴史的かつ今日的課題について学ぶ。さらに、森林保全の実践を通して、具体的な森林保全の困難さ、価値について身体を通した学習を行う。 (9 平井純子・92 西村拓郎/15 回)(共同)	共同
		地域と歴史	(授業形態):講義形式 (授業目標):埼玉西部・東京西部地域の歴史について、具体的に取り上げることを通じて、自分たちの生活地域の特徴や特質がいかなる歴史的な蓄積の上に構築されたものであるのかについて学ぶことで、現代社会の立ち位置を認識できるような情報処理能力と理解力の養成を目標とする。 (授業計画の概要):埼玉西部・東京西部地域の歴史を取り上げるに当たって、ここではそれらの地域が一体のものであった段階である、戦国時代の八王子領の時代を取り上げる。八王子領という世界が形成されたことで、それらの内部の各地域にどのような変化が生じたのかについて考えていく。	
		インターンシップⅠ	(授業形態):実習形式 (授業目標):事前研修や実習を通じて、社会においては何が求められるか、「働く」とはどういうことかを理解した上で、「社会で働くこと」を通じて、社会的常識を身につけ、主体性や行動力、課題発見能力・問題解決能力を養っていく。また、事後研修を通じて、プレゼンテーション能力を磨くなど、体験を言葉にできるようにする。 (授業計画の概要):事前研修において、企業・団体の方から仕事に関する話や体験談を聞き、「働くこと」を理解するとともに、基本的なマナーを学ぶ。その上で、企業・団体で、実際に 1～2 週間程度インターンシップ実習を行う。その後、事後研修として、報告書を提出し、公開の発表会において自らの体験を報告する。	
		インターンシップⅡ	(授業形態):実習形式 (授業目標):地域との協働による多様なプロジェクトへ参加しながら、自ら企画立案、活動・運営に当たることで、主体性、行動力・実行力、情報収集能力、論理的・多面的思考力、理解力、課題発見・解決能力の社会人基礎力だけでなく、求められる社会観・職業観を修得することを目的とする。 (授業計画の概要):プロジェクトとして、学生が自ら教材を作り地域の初心者にパソコンの「いろは」から教える「初心者向けパソコン講座」、地元である飯能市の地域活性化のための独自のアイデアを企画し、実現可能性を検討して策定したプランを発表する「飯能プランニングコンテスト」への参加などがある。受講生は、参加するプロジェクトを選択し、選択したプロジェクトにおいて 24 時間以上の活動を経た上で、レポートを提出する。	

共通教養科目群	地域科目		まちづくり実践	(授業形態):実習形式 (授業目標):地域社会で行われるイベント等に参加し、様々な人々と触れ合うことを通じて、主体性や行動力を養い、コミュニケーション能力や協調性など協働する力を磨く。また、活動の中で、主体的に動くことで、計画力や問題解決能力など総合的な力も身につける。 (授業計画の概要):地域自治体のお祭などの各種イベント、通学合宿などの教育行事、スポーツイベントなどに主体的に参加し、様々な人々と交流を持ち、「社会」を実体験する中で、社会人基礎力を身につける。受講生は、いくつかのイベントに参加し、24 時間以上の活動を経た上で、レポートを提出する。	
	外国語科目	必修外国語	英語ＩＡ	(授業形態):講義形式 (授業目標):辞書の活用方法など英語学習への取り組み方を考えることから始めて、語彙や表現、文法の知識を基礎的なレベルからしっかりと確認し、読解力・理解力・コミュニケーション能力を養うことを目指す。 (授業計画の概要):「語彙・表現・文法の基礎を固める」および「使える英語を身につける」という二つの要素で授業を構成し、平易な英語で述べられた内容を理解する力、自分の考えを英語で表現する力を身につける。前者については基本英文の暗記を課す。後者については、英語を読んだり聞いたりして内容を正確に理解する力、理解した内容を英語でまとめたりその内容について自分の考えを英語で述べたりする力を身につけるための学習を行う。	
			英語ＩＢ	(授業形態):講義形式 (授業目標):引き続き、語彙や表現、文法の知識を基礎的なレベルからしっかりと確認し、読解力・理解力・コミュニケーション能力を養うことを目指す。 (授業計画の概要):英語ＩＡ に引き続き、「語彙・表現・文法の基礎を固める」および「使える英語を身につける」という二つの要素で授業を構成し、平易な英語で述べられた内容を理解する力、自分の考えを英語で表現する力を身につける。前者については基本英文の暗記を課す。後者については、英語を読んだり聞いたりして内容を正確に理解する力、理解した内容を英語でまとめたりその内容について自分の考えを英語で述べたりする力を身につけるための学習を行う。	
			英語ⅡＡ	(授業形態):講義形式 (授業目標):リスニング、スピーキングの訓練を通じて、情報収集能力、理解力、コミュニケーション能力を身につけることを目指す。 (授業計画の概要):授業内では、学習した英語を実際に使用するという体験を通じて、社会の中で英語力が活かせるよう以下の方法で授業を進める。 (1)実際の様々な状況に即したトピックで、ペアワークやグループ活動で会話練習を行う。 (2)学習事項の確認、定着のために、毎回小テストを行う。 (3)学生の主体性を養うため、授業への積極的な参加を促す。	

共通教養科目群	外国語科目	必修外国語	英語ⅡB	(授業形態):講義形式 (授業目標):英語ⅡAに引き続き、リスニング、スピーキングの訓練を通じて、情報収集能力、理解力、コミュニケーション能力を身につけることを目指す。 (授業計画の概要):引き続き、授業内では、学習した英語を実際に使用するという体験を通じて、社会の中で英語力が活かせるよう以下の方法で授業を進める。 (1)実際の様々な状況に即したトピックで、ペアワークやグループ活動で会話練習を行う。 (2)学習事項の確認、定着のために、毎回小テストを行う。 (3)学生の主体性を養うため、授業への積極的な参加を促す。	
			日本語ⅠA	(授業形態):講義形式 (授業目標):大学生活で必要となるアカデミックな日本語運用能力を高めることを目標とする。資料や文献を探し、自分の考えをまとめ、プレゼンテーション等を通して表現できるようになることを目指す。また、その過程で、クラスメイトとコミュニケーションをとりながら、協働して課題に取り組むなど、積極的な活動への参加が求められる。プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の育成を目指す。 (授業計画の概要):アカデミックな日本語運用能力向上のため、大学生レベルのプレゼンテーションの方法を具体的に学ぶ。OPAC や CiNii からのテーマに沿った資料の探し方、文献や web 資料の引用のルール、効果的な PPT 資料の作成方法、発表レジュメの作成と発表の仕方を学ぶ。毎回漢字語彙小テストを行う。	
			日本語ⅠB	(授業形態):講義形式 (授業目標):大学生活で必要となるアカデミックな日本語運用能力を高めることを目標とする。言語・内容・技能を融合した「プロジェクト学習」を行い、言語手段としての日本語、テーマに関するコンテンツ学習、「話す」・「聴く」・「読む」・「書く」の 4 技能の向上を総合的に高めることを目指す。 課題発見能力、主体性を養う。 (授業計画の概要):「日本語」に関する研究発表、ガイドブック作成、ポスター発表、ことばを表す写真展など、学生が主体となって一つのプロジェクトを企画実行する。ブレーンストーミングなどでのテーマ決定、発表準備、公開発表、ポスター作成等の宣伝、運営等を学生が主体的に行うことによって、総合的な日本語運用能力を高める。毎回漢字語彙小テストを行う。	
			日本語ⅡA	(授業形態):講義形式 (授業目標):大学生活で必要となるアカデミックな読解能力を高めることを目指す。テキストを使いながら、一つ一つの日本語文の成り立ちや構造、また文章全体に及ぶ筆者の考え方やストーリー展開をしっかりとつかみ、上級レベルの文章を読むことができるようになる。読解力、文章力を鍛える。 (授業計画の概要):アカデミックな読解力の向上のため、まず、各文の構造や指示詞、前件と後件、省略、語の関連性、文末などに注目して読む練習をする。次に、文章の内容整理、筆者の立場、ストーリー展開など、文章全体の意図や構成を的確に理解できるように読んでいく。毎回漢字語彙小テストを行う。	

共通教養科目群	外国語科目	必修外国語	日本語ⅡB	(授業形態):講義形式 (授業目標):大学生活で必要となるアカデミックな読解能力を高めることを目指す。単に内容を把握するだけでなく、内容の妥当性や問題点を吟味することができるようなクリティカルな読み方を身につけ、内容に対する自分の考えを表現できるようになることを目指す。読解力、論理的・多面的思考力を養う。 (授業計画の概要):教養書や入門書、エッセイ、コラム、調査結果、論文の抄録など、さまざまな形式のアカデミックな文章を読み、概要、論点、論理展開、筆者の主張、問題点などを把握・比較・関連付けする課題を行う。また、授業内容に関する資料や新聞・雑誌等の記事から必要な情報を取得するスキャニングの練習も行う。毎回漢字語彙小テストを行う。	
			ドイツ語ⅠA	(授業形態):講義形式 (授業目標):ヨーロッパの主要言語のひとつであり、諸学問や音楽の分野での「世界共通語」ともいえるドイツ語の基礎力涵養を目標とする。ドイツ語ⅠA は「初級文法」と位置づけられ、文法項目を中心に、読み・書きと、聞き・話すために必要な、ドイツ語の基礎知識の習得を目指す。 (授業計画の概要):ドイツ語ⅠA では、動詞の現在人称変化に始まり、名詞、冠詞、人称代名詞といった項目について学ぶ。日常会話で使われる表現や、初級読み物からの例文を練習問題として使用する。読解力やコミュニケーション能力のほか、積極的に言葉を使う行動力・実行力を身につけることを目標とする。	
			ドイツ語ⅠB	(授業形態):講義形式 (授業目標):ヨーロッパの主要言語のひとつであり、諸学問や音楽の分野での「世界共通語」ともいえるドイツ語の基礎力涵養を目標とする。ドイツ語ⅠB は、ⅠA に続く「初級文法」と位置づけられ、文法項目を中心に、読み・書きと、聞き・話すために必要な、ドイツ語の基礎知識の習得を目指す。 (授業計画の概要):ドイツ語ⅠAで身につけた基礎力をもとに、ドイツ語ⅠB では、助動詞、動詞の過去形や現在完了形を中心に、形容詞、接続詞、関係代名詞といった文法項目を学び、ドイツ語運用能力のさらなる充実をはかる。日常の会話表現や初級読み物からの例文を使用する。読解力やコミュニケーション能力のほか、積極的に言葉を使う行動力・実行力を身につけることを目標とする。	
			ドイツ語ⅡA	(授業形態):講義形式 (授業目標):ドイツ語ⅡA は、「初級講読」と位置づけられる。ドイツ語ⅠA・ⅠB が、初級文法の知識を習得することに主眼が置かれるのに対し、ドイツ語ⅡA・ⅡB では、実際にことばを使って応用力を養うことを目標とする。初級テキスト講読や日常の会話をこなせるレベルのドイツ語力習得を目指す。 (授業計画の概要):春学期のドイツ語ⅡA では、発音練習から始め、ドイツ語ⅠA(初級文法)と補完しあう形で、実際の具体的な状況に即しての運用能力を身につけていく。 ドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)の文化についても学ぶ。読解力やコミュニケーション能力のほか、積極的に言葉を使う行動力・実行力を身につけることを目標とする。	

共通教養科目群	外国語科目	必修外国語	ドイツ語ⅡB	(授業形態):講義形式 (授業目標):ドイツ語ⅡB は、「初級講読」と位置づけられる。ドイツ語ⅠB が、初級文法の知識を習得することに主眼が置かれるのに対し、ドイツ語ⅡB では、実際にことばを使って応用力を養うことを目標とする。初級テキスト講読や日常の会話をこなせるレベルのドイツ語力習得を目指す。 (授業計画の概要):春学期のドイツ語ⅡA に続いて、秋学期ドイツ語ⅡBでは、初級のテキスト講読や会話練習等を増やして、基礎力をさらに高次のレベルに引き上げる訓練をする。ドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)の文化についても学ぶ。読解力やコミュニケーション能力のほか、積極的に言葉を使う行動力・実行力を身につけることを目標とする。	
			フランス語ⅠA	(授業形態):講義形式 (授業目標):目標は以下の三つである。1)フランス語の発音に慣れて、聞き取ったり自分で発音したりできるようにすること(文章力)。2)フランス語の基礎的な文法を理解すること(読解力)。3)基本的な動詞の活用や初歩的な構文を覚えて、自分で運用できるようにすること。 (授業計画の概要):規則動詞とよく使う不規則動詞の現在形を覚える。名詞に性数があることを理解して、冠詞や形容詞を一致させることができるようにする。その際、CD や DVD を用いて聞き取りや音読を行うことで、学習した語句の意味と用法が定着するようにする。随時、小テストや宿題を課する。	
			フランス語ⅠB	(授業形態):講義形式 (授業目標):フランス語ⅠA のつづきであり、目標は以下の三つである。1)フランス語の発音に慣れて、聞き取ったり自分で発音したりできるようにすること(文章力)。2)フランス語の基礎的な文法を理解すること(読解力)。3)基本的な動詞の活用や初歩的な構文を覚えて、自分で運用できるようにすること。 (授業計画の概要):不規則動詞の現在形を覚える。疑問代名詞や疑問副詞を覚えて、疑問文を作ることができるようにする。近い未来や近い過去のことを表現できるようにする。その際、CD や DVD を用いて聞き取りや音読を行うことで、学習した語句の意味と用法が定着するようにする。随時、小テストや宿題を課する。	
			フランス語ⅡA	(授業形態):講義形式 (授業目標):目標は以下の三つである。1)フランス語の平易な表現、若者たちの会話などを学ぶこと。2)学生のコミュニケーション能力の涵養をはかること(コミュニケーション能力)。3)フランス語の背景には、フランスの文化・歴史・社会があることを知り、それらの背景を把握すること(理解力)。 (授業計画の概要):フランス語の基礎的な文法を確認しながら、以下の会話表現を学ぶ。あいさつする、自己紹介する、家族を語る、好きなものをいう。その際、CD や DVD を多く用いて聞き取りや音読を行うことで、学習した語句の意味と用法が定着するようにする。随時、小テストや宿題を課する。	

共通教養科目群	外国語科目	必修外国語	フランス語ⅡB	(授業形態):講義形式 (授業目標):フランス語ⅡA のつづきであり、目標は以下の三つである。1)フランス語の平易な表現、若者たちの会話などを学ぶこと。2)学生のコミュニケーション能力の涵養をはかること(コミュニケーション能力)。3)フランス語の背景には、フランスの文化・歴史・社会があることを知り、それらの背景を把握すること(理解力)。 (授業計画の概要):フランス語の基礎的な文法を確認しながら、以下の会話表現を学ぶ。時間や天候をいう、数量を表す、紹介する、1 日を語る。その際、CD や DVD を多く用いて聞き取りや音読を行うことで、学習した語句の意味と用法が定着するようにする。随時、小テストや宿題を課する。	
			中国語ⅠA	(授業形態):講義形式 (授業目標):中国の社会や文化等を知る有効な手段として、また、中国語を通じてグローバルな視点を持ち、アジアの一員として国際的な感性を育てることを目標とする。中国語習得の第 1 段階として、最も基礎的な発音と基本文法を習熟させ、理解力と読解力を伸ばしていく。 (授業計画の概要):はじめに母音(単母音、複合母音、鼻母音)、子音、声調(四声)に分けて、発音方法と発音表記法(ピンイン字母)を習熟させる。特に日本語や既習の第一外国語である英語の特徴との違いを理解させる。次に基本文法として、名詞文、動詞文、形容詞文、前置詞の用法などを理解・習得させる。	
			中国語ⅠB	(授業形態):講義形式 (授業目標):言語の習得を通して異文化を知ることがキーワードになる。中国語の表現の特性を学ぶことから、異文化に接するきっかけを作る。会話文に親しむことにより、読解力・会話力・プレゼンテーション能力を向上させていく。 (授業計画の概要):中国語ⅠA で学んだ内容を踏まえ、動詞文から、接続詞が含まれる複合文及び各種補語の用法を習熟させる。身近な表現をマスターし、簡単な聞き取りと発話ができるようにする。	
			中国語ⅡA	(授業形態):講義形式 (授業目標):言語は繰り返してトレーニングすることによってしか身につけられない観点から、この科目は中国語ⅠA と同時に履修させ、習得効果を上げる。中国語の発音を正確に言い、聞き取ることができること、基礎的な語彙を習熟し、文法の構成が認識できて、簡単な文を作ることができることを目標とする。学んでいく中で理解力、読解力を育てていく。 (授業計画の概要):中国語ⅠAと平行して、母音(単母音、複合母音、鼻母音)、子音、声調(四声)の発音方法と発音表記法(ピンイン字母)を習熟させる。次に簡単な挨拶言葉を覚えながら、中国語の基本的な言語的特徴を把握させる。その後、言葉を組み立て、簡単な文を作ることができるようにする。	

共通教養科目群	外国語科目	必修外国語	中国語ⅡB	(授業形態):講義形式 (授業目標):中国語ＩB と同時に履修することによって、習得効果を上げる。引き続き、発音を正確で確かなものにしていくと同時に慣用表現及び文構成の確認に力を入れる。課題の発表等により、行動力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を育てる。 (授業計画の概要):中国語ⅡA で学んだ基礎知識を生かし、語彙量を増やすと同時に次のレベルアップにつながる各種の補語の習得に力を入れる。会話文と並行して簡単な記述文にも接していく。	
			韓国語ＩA	(授業形態):講義形式 (授業目標):まず、韓国語のアルファベットといえるハングル文字を学習しハングルの読み書きができるようにする。次に、終声(パッチム)、連音、発音の変化などを学習する。さらに、これらを踏まえて、入門レベルのあいさつや自己紹介などの会話を中心に、読解力・作文力・聴解力・会話力・文化理解力の総合的な向上を図っていく。 (授業計画の概要):基本母音、基本子音、激音・濃音、合成母音からなるハングル文字を学習し、終声(パッチム)、連音、発音の変化など韓国語独特の発音規則を学ぶ。文法は入門レベルの助詞、敬語体、疑問文、肯定・否定文などを学習する。	
			韓国語ＩB	(授業形態):講義形式 (授業目標):韓国語の基本的な文法を学習する。これらを踏まえて、初級レベルの日常会話を中心に、読解力・作文力・聴解力・会話力・文化理解力の総合的な向上を図っていく。 (授業計画の概要):会話学習では大学キャンパスでの日常会話を想定した初級レベルの文章を学習する。文法は、数詞、時間、代名詞、初級レベルの助詞・疑問文・命令文・勧誘文、連用形、「ヘヨ」体などを学習する。	
			韓国語ⅡA	(授業形態):講義形式 (授業目標):韓国語ＩA で学習した文法、会話をもとに、類似した会話を用いながら、ボキャブラリーをさらに充実させる。また、活用練習を行い、韓国語ＩA よりさらに会話力に重点をおくことで、基本的な会話を応用できる水準に到達することを目標とする。 (授業計画の概要):前半部は、韓国語ＩA で学習したハングル文字・発音規則、入門レベルの文法を復習し、知識の定着を図る。後半部では、韓国語ＩA で学んだ入門レベルのあいさつ・自己紹介などの会話をもとに類似した会話を用いながら実践練習を行う。	
			韓国語ⅡB	(授業形態):講義形式 (授業目標):韓国語ＩB で学習した文法、会話をもとに、類似した会話を用いながら、ボキャブラリーをさらに充実させる。また、活用練習を行い、韓国語ＩB よりさらに会話力に重点をおくことで、基本的な会話を応用できる水準に到達することを目標とする。 (授業計画の概要):第一に、韓国語ＩB で学習した初級レベルの文法を復習し、知識の定着を図る。第二に、韓国語ＩA で学んだ初級レベルの会話をもとに類似した会話(日常生活をめぐる様々な会話)で実践練習を行う。	

共通教養科目群	外国語科目	選択必修外国語	英語ⅢA	(授業形態):講義形式 (授業目標):英語ⅠA・ⅠB で学んだことを発展させて、英語のリテラシーのさらなる向上に取り組む。「ことばのはたらき」について実践的な知識を学び、英語を使う力を伸ばすことを目指す。読解力・理解力・コミュニケーション能力を養うことで、それぞれの学生が「英語が前よりも使えるようになった」「英語の感覚がわかってきた」という実感を抱くようになることを目標とする。 (授業計画の概要):「語彙・表現・文法の知識を増やす」および「使える英語を身につける」という二つの要素で授業を構成する。前者については検定試験問題を教材に、語彙・表現・文法を学ぶ。後者については、様々な種類(分野、媒体)の英語にふれて、英語で述べられた情報を的確に理解する力、基本的なレベルの語彙や表現を使いこなす工夫を考えていく。	
			英語ⅢB	(授業形態):講義形式 (授業目標):引き続き、英語ⅠA・ⅠBで学んだことを発展させて、英語のリテラシーのさらなる向上に取り組む。「ことばのはたらき」について実践的な知識を学び、英語を使う力を伸ばすことを目指す。読解力・理解力・コミュニケーション能力を養うことで、それぞれの学生が「英語が前よりも使えるようになった」「英語の感覚がわかってきた」という実感を抱くようになることを目標とする。 (授業計画の概要):英語ⅢA に引き続き、「語彙・表現・文法の知識を増やす」および「使える英語を身につける」という二つの要素で授業を構成する。前者については検定試験問題を教材に、語彙・表現・文法を学ぶ。後者については、様々な種類(分野、媒体)の英語にふれて、英語で述べられた情報を的確に理解する力、基本的なレベルの語彙や表現を使いこなす工夫を考えていく。	
			日本語ⅢA	(授業形態):講義形式 (授業目標):日常会話の文体とは異なる日本語の「書き言葉」の基本的なルールを理解し、使えるようになることを目指す。また、近年よく使われるカタカナ語や専門用語など、専門の授業で必要だと思われる語彙の習得を進めることを目指す。読解力、文章力を鍛える。 (授業計画の概要):多くの例文を読むことで、書き言葉の中で使われる基本的な助詞、自動詞・他動詞、指示詞、受け身・呼応表現、文末表現、接続詞を学んでいく。また、レポートの形式、段落などの構造を知り、身近なテーマで書く練習を行う。毎回漢字語彙小テストを行う。	
			日本語ⅢB	(授業形態):講義形式 (授業目標):卒業論文作成を視野に、小論文が書けるようになることを目指す。また、時々のニュースや時事的・専門的なトピックのテーマについて、内容を要約し、それに対する自分の意見を書くことができるようになる。文章力、論理的・多面的思考力を鍛える。 (授業計画の概要):小論文の構成にしたがって、課題・目的の提示、定義と分類、対比と比較、原因の考察、同意と反論、帰結、結論の書き方の各課題について、毎回、生教材をテーマに文章を書く。また、web 資料を含む文献の引用ルールと方法を学んでいく。毎回漢字語彙小テストを行う。	

共通教養科目群	外国語科目	選択必修外国語	ドイツ語ⅢA	(授業形態):講義形式 (授業目標):2 年次のドイツ語ⅢAは、「中級基礎」と位置づけられる。1 年次でのドイツ語ⅠA・ⅠB、ドイツ語ⅡA・ⅡBで身につけた基礎力をレベルアップさせ、応用力を身につけることを目標とする。1 年次よりさらに高度なテキストを読むことや、旅行に必要な程度のドイツ語会話力養成を目指す。 (授業計画の概要):春学期のドイツ語ⅢA では、1 年次の復習から始め、簡単な日常会話や作文を中心に、反復練習を多く取り入れて、基礎力のレベルアップをはかる。グリム童話等のテキスト講読も取り入れる。随時、政治・経済・文化といったドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)の事情についての紹介を行う。読解力やコミュニケーション能力のほか、積極的に言葉を使う行動力・実行力を身につけることを目標とする。	
			ドイツ語ⅢB	(授業形態):講義形式 (授業目標):2 年次秋学期のドイツ語ⅢB は、ⅢA と同様に「中級基礎」と位置づけられる。1 年次でのドイツ語ⅠA・ⅠB、ドイツ語ⅡA・ⅡB で身につけた基礎力をレベルアップさせ、応用力を身につけることを目標とする。1 年次より高度なテキストの読解力や旅行に必要な程度のドイツ語会話力養成を目指す。 (授業計画の概要):ドイツ語ⅢB では、日常会話や作文を中心に、反復練習を多く取り入れて、基礎力のレベルアップをはかる。グリム童話等のテキスト講読も取り入れる。随時、政治・経済・文化といったドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)の事情についての紹介を行う。読解力、文章力、コミュニケーション能力のほか、積極的に言葉を使う行動力・実行力を身につけることを目標とする。	
			フランス語ⅢA	(授業形態):講義形式 (授業目標):目標は以下の三つである。1)フランス語ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB で習得した基礎的な文法の理解を確実なものにすること(文章力)。2)今日のフランス社会に関する文章を読解する能力を身につけること(読解力)。3)今日のフランス社会に関する映像を鑑賞し、グローバルな視点で考える能力を身につけること。 (授業計画の概要):規則動詞や不規則動詞の現在形を、複合過去形や半過去形に変換できるようにする。比較や受身形の文を作ることができるようにする。その際、CD や DVD を用いて聞き取りや音読を行うことで、学習した語句の意味と用法が定着するようにする。随時、小テストや宿題を課する。	

共通教養科目群	外国語科目	選択必修外国語	フランス語ⅢB	(授業形態):講義形式 (授業目標):フランス語ⅢA のつづきであり、目標は以下の三つである。1)フランス語ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡBで習得した基礎的な文法の理解を確実なものにすること(文章力)。2)今日のフランス社会に関する文章を読解する能力を身につけること(読解力)。3)今日のフランス社会に関する映像を鑑賞し、グローバルな視点で考える能力を身につけること。 (授業計画の概要):規則動詞や不規則動詞の現在形を、条件法現在や条件法過去に変換できるようにする。接続法を使って、感情や願望や義務を正確に表すことができるようにする。その際、CD や DVD を用いて聞き取りや音読を行うことで、学習した語句の意味と用法が定着するようにする。随時、小テストや宿題を課する。	
			中国語ⅢA	(授業形態):講義形式 (授業目標):中国語ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB で習得したことを基礎として、第 2 段階に進む。実際に辞書を引きながら一定水準以上の文章が読解でき、中国事情を直接知ることができるようになること、また数百語以上の語彙を身につけて、中国語文を作り、やや長い会話が理解でき、自分でも発話できることを目標とする。問題発見能力、解決力及びプレゼンテーション能力を育てていく。 (授業計画の概要):中国語ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB で習得した発音を実際の語彙使用の中で、より正確で水準の高いものにする。やや複雑な会話文を読むことによって、中国語の特徴を理解して、実際の会話に応用できる練習をする。	
			中国語ⅢB	(授業形態):講義形式 (授業目標):中国語ⅢAを基礎に展開する授業。現代の中国を描いた文章を読むことによって、原文で情報を得る体験をさせ、国際社会を生きる現代人が身につけるべきものを、学習を通して見つけさせ、考えさせる。課題に取り組む主体性、課題発見能力、解決力を育む。 (授業計画の概要):これまで習得した語彙、文法を駆使し、文章の講読に取り組む。やや複雑な構文をもつ文章から始めて、比較的長く、使用語彙の多い文章を、辞書の助けを借りて翻訳させる。	
			韓国語ⅢA	(授業形態):講義形式 (授業目標):韓国語ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB で学習した内容を復習しつつ、中級レベルの文法・会話表現を学習する。受講生が旅行や生活上の基礎的な話題について意思疎通が行えるようにすることを目標とする。また、ハングル能力検定試験 5 級レベルの内容を習得し、同試験の合格レベルの学力に達することを目標とする。 (授業計画の概要):文法は、様々な変則用言、比較、逆接、仮定、前提、未来形、連体形などを学習する。会話表現については、中級レベルの自己紹介、道の尋ね方、趣味、観光など日常的に使用する会話をより広く学ぶとともに、基礎的な語学力で自分の意思を伝える練習を行う。	

共通教養科目群	外国語科目	選択必修外国語	韓国語ⅢB	(授業形態):講義形式 (授業目標):韓国語ⅢA で学習した内容を復習しつつ、中級レベルの文法・会話表現を学習する。受講生が旅行や生活上の基礎的な話題について意思疎通が行えるようにすることを目標とする。また、ハングル能力検定試験 5 級レベルの内容を習得し、同試験の合格レベルの学力に達することを目標とする。 (授業計画の概要):文法は、様々な変則用言、未来形、連体形、常体などを学習する。会話表現については、自己紹介、道の尋ね方、買い物などについては韓国語ⅢA より応用的な内容を学習し、日常的に使用する会話をより広く学ぶとともに、自分の意思を具体的に伝える練習を行う。	

共通教養科目群	外国語科目	自由選択外国語	英語演習Ⅰ	(授業形態):演習形式 (授業目標):The goal of the class is to enable students to give presentations in English. Many students lack the experience of speaking in front of others. In this class, students will take a step by step approach at giving various presentations in every class. Students will be accustomed to all aspects of presentations including: voice, posture, eye contact, content and clarity. They will also learn how to make power point presentations with impact. Learners will become accustomed to researching their own materials, in groups and alone, and turning that material into something that makes an engaging presentation. This should help students when job searching and when they become members of society. (授業計画の概要):This class will start with the basics of storytelling. Material will be generated by the students and learn how to organize a story into an introduction, body and conclusion. The first presentation based on a story created and edited by students. We will then consider the mechanics of presentations. Non-verbal communication will be studied. These include but are not limited to eye-contact, posture, and the proper use of gestures. In the latter half of the class effective power point presentations will be examined. Finally, how to research and organize material will be practiced. There will be mini-presentations every week and four major presentations. (授業形態):演習形式 (授業目標):この授業では、英語でプレゼンテーションができるようになることを目標とする。多くの学生は人前で英語を話す経験を欠いているが、この授業では、毎回段階的に様々なプレゼンテーションに取り組むことで、声の出し方、姿勢、アイコンタクト、内容、明快さなど、プレゼンテーションの特徴を身に着けさせる。また、グループ学習や個人学習を通じて資料の探し方や人を引き付ける発表の仕方、インパクトを与えるパワーポイントの作り方についても学習する。 (授業計画の概要):この授業では、まず英語でストーリーを語ることの基礎から学び始める。構成を考え、導入、展開、結論をどのようにまとめるかについて学ぶ。最初のプレゼンテーションが仕上がったら、アイコンタクトや姿勢、適切なジェスチャーの使用法など非言語コミュニケーションの要素や、効果的なパワーポイントの使い方、資料の探し方やまとめ方など、プレゼンテーションのメカニズムについて学び、練習する。ミニ・プレゼンテーションを毎週と、4 回の大きなプレゼンテーションを実施する予定である。	

共通教養科目群	外国語科目	自由選択外国語	英語演習Ⅱ	(授業形態):演習形式 (授業目標):Movies are a wonderfully complex art form in which so much can be communicated. The goal of this seminar will be to learn how to use some basic tools for analyzing and critiquing films. Aspects of film such as editing, lighting, sound, mise en scène and cinematography will be introduced to help interpret them. Issues related to gender, and star appeal will be discussed as well. In addition to watching films in a variety of genres-and placing them in their social, cultural and historical context-students will write weekly reaction papers, read about film, learn how to discuss film intelligently, and make a short film. Teamwork is essential in movie making as well as in this seminar. (授業計画の概要):We will begin by discussing favorite films and discovering how much students already know about movies. Next, Lighting and sound will be the focus. Short videos will be created in class to study the effect of sound and light. Cinematography and editing will follow and learners will begin to plan the making of their own short film and look at filming techniques. Next, we will address acting and character. Students will attend a basic acting lesson so that they can better understand how characters are created. Finally we will look at cultural and historical context in film. Students will then make their own movie scene as a final project. (授業形態):演習形式 (授業目標):この演習の目標は、英語で映画の分析と批評の基礎を学ぶことである。映画の解釈を助けるため、編集や光、音、舞台装置などの撮影技術の特徴を紹介する。社会的、文化的、歴史的な背景を持つ様々なジャンルの映画を鑑賞することに加えて、感想文を毎週書いたり、映画に関する資料を読んだり、映画について議論する方法についても学ぶ。また、短編映画の撮影にも挑戦する。チームワークは演習への参加のみならず映画作りをする上での必須条件である。 (授業計画の概要):まず、好きな映画について議論し、どの程度映画について理解しているかを確認する。授業中に簡単なビデオ撮影に挑戦し、光や音の効果的な使い方や、撮影技術や編集技術について学びながら、自分の短編映画を撮影する際に使える技術について検討をする。また、演技の練習を通じて、役がどのように作られていくかを理解し、演技と役作りについて学ぶ。最後に映画の中に描かれる文化や歴史について学び、オリジナルの短編映画撮影に挑戦する。これらはすべて英語で行われる。	

共通教養科目群	外国語科目	自由選択外国語	ドイツ語演習Ⅰ	(授業形態):演習形式 (授業目標):ドイツ語に関心をもつ受講生を対象とした演習である。旅行を想定したドイツ語の基本的な会話を修得し、主体的な自己表現とコミュニケーション能力の涵養を目標とする。同時にドイツ語圏の文化、社会事情、歴史について学び、日本と異文化の違いについての理解を獲得する。 (授業計画の概要):演習という少人数授業の特色を生かし、旅行の場面を想定した会話を練習する。ドイツ語の基礎的な運用能力について、受講生個々に即して指導する。ドイツ語圏への旅行や留学にも応用できる会話力を養成する。読解力やコミュニケーション能力のほか、積極的に言葉を使う行動力・実行力を身につけることを目標とする。	
			ドイツ語演習Ⅱ	授業形態):演習形式 (授業目標):ドイツ語に関心をもつ受講生を対象とした演習である。旅行を想定したドイツ語の基本的な会話を修得し、主体的な自己表現とコミュニケーション能力の涵養を目標とする。同時にドイツ語圏の文化、社会事情、歴史について学び、日本と異文化の違いについての理解を獲得する。 (授業計画の概要):演習という少人数授業の特色を生かし、旅行の場面を想定した会話を練習する。ドイツ語の基礎的な運用能力について、受講生個々に即して指導する。ドイツ語圏への旅行や留学にも応用できる会話力を養成する。読解力やコミュニケーション能力のほか、積極的に言葉を使う行動力・実行力を身につけることを目標とする。Ⅰとは違う旅行でのシチュエーションを想定した会話、観光資源や文化的側面も異なる内容を学びます。	
			フランス語演習Ⅰ	(授業形態):演習形式 (授業目標):初級フランス語の学習を終えた学生を対象とした授業である。目標は以下の二つである。1)中級程度のフランス語文法や単語を理解できるようにすること(文章力)。2)相手とのやりとりの中で自分の言いたいことを表現できるように、フランス語の運用能力を向上すること(コミュニケーション能力)。 (授業計画の概要):名詞・動詞などの文法や基本単語を確認し、さらに多くの単語を覚える。AV 教材を利用しながら、フランスで生活するときに直面する諸問題(地下鉄やバスの移動、レストランやバーでの飲食、学生同士の会話)に焦点を当てて、フランス語で適切な応対ができるようにする。随時、宿題を課する。	
			フランス語演習Ⅱ	(授業形態):演習形式 (授業目標):初級フランス語の学習を終えた学生を対象とした授業である。目標は以下の二つである。1)フランス語圏の人々の日常生活や暮らしぶりを知ることで、柔軟なコミュニケーション能力を養うこと(コミュニケーション能力)。2)フランス各地の特色、フランス社会の多様性について知ることで、現代社会の問題点を理解すること(理解力)。 (授業計画の概要):AV 教材をとおして、パリだけではないフランス各地の人々の生活や文化に触れながら、フランス語のコミュニケーション能力を高める。また、時事的な記事をとおして、現代のフランス社会がはらむさまざまな問題に触れながら、グローバルな視点を身につける。随時、宿題を課する。	

共通教養科目群	外国語科目	自由選択外国語	中国語演習Ⅰ	(授業形態):演習形式 (授業目標):初級学習を終えた学習者を対象とし、既習の語彙、文法事項を生かした準中級、中級レベルの読み物を取り上げる。辞書を使って、やや複雑な構文を自力あるいはグループワークの作業を通して、読み解いていく。中国語の独特の表現等を習得することにより、言語から異文化を感じ取ってもらい、視野を広げていく。課題の発表を通してコミュニケーション能力を培い、問題解決能力を育てていく。 (授業計画の概要):テキストの課題に取り組む一方、日本にいながら実体験できるトピックスの内容に合わせて会話練習し、教室の外にも練習の場を求めるチャレンジをする。日本の中にある異文化に接し、同時に将来の仕事に活かせるよう、外部の検定試験に挑戦するよう指導していく。	
			中国語演習Ⅱ	(授業形態):演習形式 (授業目標):中級レベルの読解および特定のテーマについての会話を可能にする。テキストに沿ったグループ学習を行い、中国の現代事情が描かれた文章内容に合わせた会話練習をする。グループワークによって、他人との協調性を養い、テーマを見つける行動力と問題解決力を育てていく。 (授業計画の概要):トピックスに関連のある資料を提示し事前に探してもらい、グループで発表してもらう。辞書を使いこなし、既習の語彙と文法についての理解度をあげていく。また、学習成果の見直しの観点からも、将来の仕事に活かせるよう、外部の検定試験に挑戦するよう指導していく。	
			韓国語演習Ⅰ	(授業形態):演習形式 (授業目標):日本語のない状況に慣れ、担当教員が話す基礎的な韓国語を聞き取り、理解できるようにすることを目標とする。ペア形式・グループ形式での会話練習を徹底し、ハングル能力検定試験 5 級レベルの文法・会話表現を、日常生活で起こりうる様々な場面を想定して使いこなす練習を行う。 (授業計画の概要):夏休みなどの期間に語学研修に行くと遭遇しそうな場面(学校、店、交通、友人との会話など)を想定し、様々な話題の会話を練習し、語学研修(1か月以内)で登場しそうな会話を習得する。また、韓国文化や現地事情について簡単な発表と意見交換を行う。	
			韓国語演習Ⅱ	(授業形態):演習形式 (授業目標):韓国語演習Ⅰで学習した内容をさらに発展させ、日本語のない状況で、担当教員が話す応用レベルの韓国語会話のポイントを聞き取り、理解できるようにすることを目標にする。また、日常生活で想定される自分の意思を韓国語で伝える力をペア形式・グループ形式での会話練習で獲得することを目標にする。 (授業計画の概要):一日の生活、客の招待、家族や友人の紹介、料理、電話、天気・季節など、韓国語演習Ⅰより高度な語学力が必要とされる場面を想定しながら、応用的な会話練習を行う。また、韓国文化や現地事情についての発表・意見交換も行うことで、長期・短期留学に必要な知識を習得する。	

共通教養科目群	外国語科目	自由選択外国語	日本語演習Ⅰ	(授業形態):演習形式 (授業目標):資格試験(日本語能力試験 N1)の傾向を知り、高い点数で合格することを目指す。資格試験の出題範囲の文法や語彙を習得することによって、より多くの日本語表現に触れる。基礎的な力となる日本語の読解力、理解力を高める。 (授業計画の概要):日本語能力試験は、聴解、言語知識、読解の3部門からなる。演習では、特に言語知識(語彙と文法)、読解部門の試験対策を行う。テキストを使い、文法理解、例文作成を行った後、試験問題に慣れるため、できる限り多くのドリルを解いていく。また、学期中に本番と同様の模擬試験を行い、点数アップを目指す。	
			日本語演習Ⅱ	(授業形態):演習形式 (授業目標):ビジネス場面で使われる敬語や定型表現を学び、場面にあった適切なやりとりができるようになることを目指す。また、就職活動やその他の場面における面接などで、自分の考えをまとめ、自己アピールができるようになる。 (授業計画の概要):ビジネス場面で想定されるやり取りにおける依頼、断り、許可などの機能表現、また、電話、会社訪問などの場面表現を視聴覚教材なども使いながら学んでいく。また、会話のスタートから終了までの談話形式の実践練習をペアやグループで行う。随時、ビジネス日本語能力テストの模擬問題も行っていく。	
			海外語学演習	(授業形態):演習形式 (授業目標):この授業では、海外の大学で語学を学ぶために必要な、それぞれの国のことばや文化、留学生活などについて学習する。自分から海外旅行を計画し、自分からすすんで語学を学ぶとともに、異文化体験を通じて国際感覚を身につけてもらうことが目標である。 (授業計画の概要):研修を行う国の社会、文化、生活などを学ぶとともに、日常生活のマナーなどについても確認する。また、簡単な日常会話についても復習をかねて学習する。さらにパスポートなどの事前準備についても指導を行う。また帰国後も、必要に応じて面接などを行い、海外での成果を確認していく。	
	キャリア教育科目		キャリア基礎Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):人間関係形成に対する動機づけとコミュニケーション能力(親密圏)の向上を通じて、大学生活に馴染み、肯定的な展望をもつ。また、問題解決に向けたグループワーク等を通じて、他者を理解し、自ら考える力を養い、協調性などの協働する力や問題解決力などの総合的な力を身につける。さらに、200字ワークを通じて、授業での気づきや体験を自ら省察し、言語化することによって、より深い学びへと結びつける。 (授業計画の概要):大学生活などをテーマにしたコンセンサスワークによる基本的なコミュニケーショントレーニングを行った後、ケースを用いた話し合い学習を展開する。このケースは段階的に難易度が増していくように設定されており、難易度のあまり高くないケース学習でまず問題解決の手法に慣れさせ、難易度を高めたケース学習で問題解決のためのコミュニケーション能力(親密圏)や協調性など協働する力を向上させる。	

共通教養科目群	キャリア教育科目	キャリア基礎Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):企業が実際に参加する課題解決型授業を通して、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・協調性などチームで働く力を向上させる。学生に課される課題は、実際に企業が直面する問題から設定され、現実の企業の業務内容や経営方針にふれながら、社会で働く意識を醸成する。授業を通して、学生に「社会で必要な力と自分が持っている力」とのギャップを認識させ、自ら主体的に学ぶ姿勢(主体性)を身に付けさせる。 (授業計画の概要):チームで協働するために必要となる意識づけなどのマインドセットを行った後、企業から提示された課題に対してチーム活動を実施し、一次提案→指導→最終提案→評価→チーム活動の振り返り、というサイクルを2 セット(2 社)繰り返す。最終回では全体の活動を振り返り、今後の学びの検討を行う。	
		キャリア発展	(授業形態):講義形式 (授業目標):大学で学んでいる学問(専門分野)が、社会で実際にどのように役に立っているのかを理解し、これを手掛かりに社会における多様な役割とこれらに対応する職業が広く存在することを学ぶ。各専門分野と様々な職業との関連を題材に調べ学習を行い、グループで発表をすることによって、情報収集能力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力(中間圏)を向上させる。 (授業計画の概要):序盤では各自が学んでいる専門分野について、巨視的な視点からその意義を調べ、グループで相互に発表する。その上で、中盤でとりあげるテーマ(業界・企業・組織・職種等)と専門分野との関連を微視的な視点から調べ、グループで相互に発表する。終盤では、これまでに調べた内容について、社会人にインタビューを行い、より現実的な視点から社会における多様な役割とこれらに対応する様々な職業について学びを深める。	
		ライフプランニング	(授業形態):講義形式 (授業目標)「ライフキャリア」という視点からみた「自己の理解」を促進し、今後の人生設計に欠かせない「時間的な展望」をもつ。ライフキャリアに関する様々なテーマを題材にグループワークを行い、多様な価値観にふれ(理解力、多面的思考力)、コミュニケーション能力(中間圏)を向上させる。 (授業計画の概要):序盤では、各自が今までのライフキャリアを振り返り、自己概念が現実を作っていることを理解させた上で、中盤でとりあげるテーマ(自己効力、人生における多重的な役割など)を題材としたグループ学習へとつなげていく。終盤では、自己の人生で今後起きる可能性のあるライフイベントやトランジション(転機)を知り、これらに対してどのように向き合っていけばよいのかを学ぶ。	

共通教養科目群	キャリア教育科目	キャリア実践論Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):進路・職業選択に対する動機づけとコミュニケーション能力(公共圏)の向上を通じて、インターンシップへの参加意識を高め、進路・職業選択に対する肯定的な展望をもつ。また、「自己理解」「職業・企業研究」等をテーマとしたグループワーク等を通じて、自己の特徴や働く価値観を明確化させ、多様な職業や企業を理解することにより、自律的に進路・職業を選択する力(主体性)を養う。 (授業計画の概要):序盤で実施する自己への理解を中盤での職業・企業研究へと接続させ、終盤で両者を統合する。また初回にて駿大社会人基礎力の測定を行い、各自で設定した基礎力目標を PDCA サイクルによってマネジメントし、最終授業回における目標達成につなげる。	
		キャリア実践論Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):エントリーシート作成・面接試験・グループディスカッションなど企業採用選考試験の対策トレーニングを行い、自律的な就職活動が行えるようにする。「主体性」「行動力・実行力」「プレゼンテーション能力」「論理的・多面的思考力」などの社会人基礎力の体得。 (授業計画の概要):エントリーシートの作成回と面接トレーニング回を 1 セットとし、これをエントリーシートのテーマごと(自己 PR・学生時代に力をいれたこと・研究内容)に 3 回繰り返す。また全回にわたって実施されるロジカルシンキングトレーニングを終盤回のグループディスカッションへとつなげる。	
		キャリア実践論Ⅲ	(授業形態):講義形式 (授業目標):企業の採用選考過程で課される筆記試験に対する苦手意識を、グループでの学び合い(協同学習)を通じて克服する。特に、現在の筆記試験において最も採用されているといわれる SPI 試験を取り上げ、6 割以上の得点獲得を目指す。「読解力」「常識力」「協調性」などの社会人基礎力の体得。 (授業計画の概要):1 期間を概ね 5 回程度の授業回数とし、全 15 回の授業を 3 つの期間に分けてグループ編成を行う。初版・中盤では非言語分野を、終盤では言語分野をテーマとして取り上げ、教員による基本的な解法のレクチャー・出題→グループによる学び合い(協同学習)→教員による解説、を1セットとしこれを全回にわたって繰り返していく。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻導入科目	スポーツ科学入門 A	(授業形態):講義形式 (授業目標):スポーツの種々の運動や、健康の保持増進の運動が身体に及ぼす影響について、スポーツ科学の自然科学的視点から理解し、その後のスポーツ科学の学びの基礎的知識を獲得する。 (授業計画の概要):さまざまな運動の形態やトレーニングの種類について、それらが身体にどのような効果を与えるかを解説する。また運動やスポーツを行っていくうえで、年齢差や性差などによる身体への影響や効果に違いがあることを理解させる。また、初年次開講の本講義では、スポーツや健康問題に関する関心度の高いトピックも取り上げながら、スポーツ科学への興味関心を喚起し、その学問的広がりを理解するための導入科目とする。 (授業計画の概要): (オムニバス方式／全 15 回) (8 大森一伸／5 回) スポーツと生理学、栄養学の視点から理解する。 (16 信太直己／5 回) スポーツと健康の視点から理解する。 (13 久我晃広／5 回) スポーツを動きの視点から理解する。	オムニバス方式
		スポーツ科学入門 B	(授業形態):講義形式 (授業目標):スポーツという社会的・文化的現象について、それが社会の諸要素と如何に関連して形成され、今日においてどのような意味や価値を持って展開しているかについて、スポーツ科学の人文・社会科学的視点から理解し、スポーツ科学の学びの基礎的知識を獲得する。 (授業計画の概要):スポーツは、現代社会においてローカル的遊びからグローバル的競技へ拡大され、そして政治、経済、健康、教育、観光、ナショナリズムなどの側面とも強い関わりを持つものである。それ故、初年次開講の本講義では、スポーツと諸文化が関連しあいながらスポーツ文化が創造され展開していく過程を、歴史的・社会的背景から理解する。また、現代社会におけるスポーツの問題点について、スポーツ科学の人文・社会科学的側面からとりあげながら、スポーツ科学への興味関心を喚起し、その学問的広がりを理解するための導入科目とする。 (授業計画の概要) (オムニバス方式／全 15 回) (2 大貫秀明／5 回) 「スポーツする」からだの文化性について理解する。 (15 朴周鳳／5 回) スポーツと社会のつながりを理解する。 (18 小丸超／5 回) スポーツを人間の営みから理解する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻導入科目	救急処置法	（授業形態）：講義形式（実習を含む） （授業目標）：救急処置法の理論を理解し、具体的方法を体得していることは、突然の事故や急病などの事態において、ヒトの生命を守ることにつながる重要な事項である。本授業では、救急処置法の基本を理解し、いざという時に実践できる行動力・実行力（心構えと技術）を身につけること目指す。 （授業計画の概要）：救急処置概論、心肺蘇生法、AED の使用方法、気道異物除去法、止血法、三角巾使用法、包帯法、テーピングの基本的な実施方法、スポーツ中の突然死や熱中症の予防と対応、過換気症候群への対応、外科的障害への対応（RICE 処置）などを理解し、その技術を習得する。	共同講義（16時間）、実習（14時間）
		トレーニングサイエンス	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：本講義では、スポーツ選手が競技力を向上させるのに、このトレーニングは「どのような効果があるのか」という疑問に答えられるように、体力科学、運動生理学、スポーツ医学、バイオメカニクスの研究成果を基礎とし、スポーツの意義や価値をスポーツ科学の自然科学的視点からトレーニングに関する基礎的な知識の習得を図り、スポーツ科学の専門的学習の基礎とすることを目標とする。また、学校体育や地域で子供たちや高齢者にスポーツを指導することができるように、発育発達期の児童や生徒、あるいは高齢者に適した体力トレーニングについても考える。 （授業計画の概要）：体力の概念について理解する。その後、各種の競技スポーツ選手の体力的特徴と関連させながら、筋力、全身持久力、瞬発力、敏捷性、柔軟性などの体力要素を対象としたトレーニングについて学ぶ。また、子どもや高齢者のトレーニングについても学ぶ。	
		ヘルスサイエンス	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：健康とは、単に病気でないというだけでなく身体的にも精神的にも社会的にも完全に良好な状態であるとされている。本講義では身体、精神、社会と健康・病気とのかかわりを学ぶことで、健康についての基礎的な知識を身につけ、スポーツとの広がりとその後の専門的学習の理解を図ることを目標とする。 （授業計画の概要）：健康を阻害する要因に関する知識として疾病、毒物、（偏った）栄養摂取について学ぶ。次に運動や休息が健康の維持増進にどのような関わりがあるのかについて学ぶ。最後に社会的な健康とはどのようなことなのかについて学ぶ。これら 3 つを柱に健康科学に関する基礎的知識を習得できるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻導入科目		スポーツ文化論	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：本講義ではスポーツという社会的・文化的現象について、それが社会の諸要素と如何に関連し形成され、今日においてどのような意味や価値をもって展開しているかについて広く理解することを目指し、その後の専門的学習の理解を図る。 （授業計画の概要）：スポーツは、現代社会においてローカル的な遊びからグローバル的競技へと拡大され、そして政治、経済、健康、教育、観光、ナショナリズムなどの側面とも強いかかわりをもつものである。それゆえ、本講義ではスポーツと諸文化との関係について焦点を合わせ、スポーツ文化が創造され展開していく過程を、歴史的や社会的背景から踏まえる。そして、現代社会におけるスポーツの意義や価値を広く理解することを目指す。	
			チームビルディング	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：自律的に仲間とお互いを切磋琢磨するための基礎となる「話し合うこと」ができる関係性を築く。またプロジェクト・アドベンチャー（PA）、集団行動といったチーム協働型及び野外活動型の体験学習を通し、スポーツを通した学びで必要な、基礎的な行動力、コミュニケーション能力、協調性を涵養することにより、スポーツの学びの基礎的な能力の形成を図る。 （授業計画の概要）：本授業では、仲間との協働体験として、入学当初 4 月上旬に 1 泊 2 日での PA 活動を行い、アイスブレイク、チームでのコミュニケーションを高めた上で、学内通常授業での集団行動を体験的に学ぶ。両者の活動を通し、集団で課題を達成するために必要な他者との関係をつくるためのコミュニケーション能力を涵養する。また他者との関わりの中で、自身を理解し挑戦を選択する自主性や行動力・実行力を身につける。 （オムニバス方式／全 15 回） （③ 時本識資／8 回） プロジェクト・アドベンチャー（PA）により課題解決型のグループワークを実践する。 （(2) 小柳将吾／7 回） 集団行動の運動特性・行動様式を学習する。	オムニバス方式
	専攻基幹科目	講義科目	運動生理学	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：身体運動を生じさせるしくみについて、主に筋系、神経系、呼吸・循環器系などの生理学的機序を学ぶ。また、身体運動によって生じる一過性および慢性的変化についての理解力を高め、運動が健康および体力つくりに多大に貢献する理論的背景も理解する。そして、運動不足と肥満などのように社会問題を発見する能力も養う。 （授業計画の概要）：骨格筋、筋収縮のメカニズム、筋線維の収縮および代謝特性、筋収縮のエネルギー、筋の収縮様式、トレーニングによる筋力増大のしくみ、神経細胞、中枢神経のしくみ、体性神経と自律神経、呼吸器および循環器の構造と働き、運動時に伴う呼吸・循環器系の変化、全身持久力トレーニングの方法と効果などについて理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻基幹科目	講義科目	スポーツの測定評価	(授業形態)：講義形式 (授業目標)：スポーツ科学が真に科学的であるためには、それに関わる人々が科学的な思考方法と態度を身につけていなければならない。本講では、スポーツ活動及び身体運動に伴って生じる事象や効果を、自然科学的手法で測定評価する際に必要な基本的事項と理論的背景について講義する。 体育・スポーツおよび健康づくりの指導者として活動するにあたっては、必要不可欠、かつ極めて基本的なものである。 (オムニバス方式／全 15 回) (① 吉野貴順／7 回) パフォーマンスの決定要因、体力の構成要素、体力測定の意義、新体力テストの理論と実際および形態・体脂肪量測定法ならびに測定結果の評価法について講義する。 (⑤ 久我晃広／7 回) 測定によって得られたデータを統計処理する際の基本的な考え方(正規分布、平均値と標準偏差、有意差検定、相関係数)および図表を用いた結果のフィードバック、データ解析法ならびに自然科学的な考察と結果のまとめ方について講義する。 (① 吉野貴順・⑤ 久我晃広／1回)共同 まとめは共同授業で行う。	オムニバス方式・共同(一部)
			スポーツ哲学	(授業形態)：講義形式 (授業目標)：スポーツの特性および本質を理解することを目標とする。また、身体活動に関わる人間のあり方をめぐる心身問題(例　モラル、薬物、暴力)などについても議論を深める。 授業では読解力、論理的思考、理解力等が不可避的に要求され、事象を論理的思考により組み立てる力の獲得を目指す。 (授業計画の概要)：スポーツ哲学の基本的な考え方を紹介しながら、人類が考え、つくり出してきたスポーツ文化(プレイ、ゲーム、競争・勝敗、身体表現など)の類型と特性を、さまざまなトピックス(科学論的基礎づけ、スポーツ倫理、運動と身体感覚、バーチャル・リアリティと身体、審美経験としてのスポーツ行為など)とともに展開していく。 年々、スポーツの一般社会への浸透が深まることを鑑み、スポーツ事象を明晰に語れるよう理論的な議論形成を図る。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻基幹科目	講義科目	スポーツ社会学	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：スポーツと社会の関係を理解するとともに、両者を批判的に捉える社会学的視座の習得を、授業の目標とする。具体的に言えば、こうした「批判」によって、物事を広い視野で把握する「論理的・多面的思考力」を涵養するとともに、「課題発見能力」や「問題解決能力」といった実践的な思考力を身につける。 （授業計画の概要）：スポーツと社会の関係について、社会学的視座に基づき、幅広く学習する。具体的には、スポーツの発展を歴史的に捉えたうえで、大きく４つの視点（「スポーツと教育」「スポーツと政治」「スポーツと経済」「スポーツと現代社会」）を設定し、現代社会におけるスポーツの役割について考える。	
			スポーツ・バイオメカニクス	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：人間が行う様々な動き、さらにはスポーツ活動における現象について、物理的、運動学的な視点から理解できるようになると共に、科学的な立場から観察できるようにする。 （授業計画の概要）：スポーツバイオメカニクスの概要、歴史、これまでの発展などについて学び、スポーツバイオメカニクスがどのような学問で、どのような分野に役に立つのかを理解させる。また身体の構造や力学の基礎について学んだうえで、様々な身体運動について、バイオメカニカルな視点から解説する。	
			スポーツ教育学	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：現代社会の状況及び教育の状況を理解し、スポーツが果たしうる教育的価値について考える力を養う。論理的・多面的思考力、課題発見能力を育てつつ、主体性を持ち取り組むことで、スポーツの教育力が人類の平和や社会の発展につながることを学びとる。 （授業計画の概要）：教育は、人間形成において欠かすことができない重要な要素である。スポーツを行うことによる教育的な効果について学ぶとともに、時代や社会の違いによって求められる教育に違いがあることについても事例を交えながら理解する。とりわけ教育現場での課題から、スポーツが応えるべき課題について事例を交えながら検討し、学校から地域へと教育の範囲を広げ、社会におけるスポーツの主人公像を描きながらスポーツの役割について考察をする。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻基幹科目	講義科目	スポーツ史	(授業形態)：講義形式 (授業目標)：本講義では、先史時代から現代に至るまで、人類が行った「スポーツ」という一つの文化要素の歴史について学習する。これらの学習を踏まえ、我々が生きる今日における「スポーツ」を相対化し、今日のスポーツ状況を深く理解する力の獲得を目指す。 (授業計画の概要)：今日、世界中で行われている「スポーツ」の古き時代から現在に至るまでの発展過程を主に、「スポーツ」という用語の変遷と伴う世界的伝播や日本及び諸外国における受容と展開を、その背景文化も踏まえて理解することを目指す。具体的には、未開社会のスポーツ、中世社会のスポーツ、パブリックスクールにおけるスポーツ、アマチュアリズム、近代オリンピックと政治、スポーツの伝播と植民地主義、武道の系譜、伝統の創造などをキーワードにして「スポーツ」概念を相対化していく。	
			スポーツ・マネジメント	(授業形態)：講義形式 (授業目標)：スポーツを豊かな生活に資するためには、スポーツ環境の整備に関わる組織的な営みを点検し、改善する方策をもつことが求められる。スポーツの営みを長期的な活動として継続させるための人的・物的・財的資源の考え方および事業のあり方について理解する。地域社会の課題解決に寄与する地域スポーツの視点（地域政策としての視点）から授業を展開し、スポーツ・マネジメントの概念、機能等の基礎的な知識を学び理解する。また、地域のスポーツクラブ（仮想）を設立し、事業の立案を試み理解を深める。 (授業計画の概要)：スポーツクラブ（プロスポーツ、学校体育、地域スポーツ）の実際とマネジメントの基礎的な理論について授業を展開する。また、地域の実情を踏まえた（地域政策）地域スポーツの組織化と事業の立案を試み、スポーツ・マネジメントの実際から課題の発見と解決方法を議論する。	
		実技科目	専門実技（ジョギング・ウォーキング）	(授業形態)：実習形式 (授業目標)：陸上競技の走運動を中心にとりあげ、陸上競技の基礎的理論及び基礎的技能の修得を目標とする。 (授業計画の概要)：陸上競技の走運動を社会で一般に行われている「ジョギング・ウォーキング」を中心にとりあげ、低速での走運動が安全性と身体へ果たす機能から、生涯学習時代のスポーツとして有効であることを解説し、運動の方法を身につけることを目指す。	
			専門実技（体つくり運動）	(授業形態)：実習形式 (授業目標)：「体つくり運動」の様々な運動方法を体験し、実技を通して協調性を高め、「体つくり運動」の「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の理解を深める。さらに、授業の最終段階では「体つくり運動」の指導法の習得を目指す。 (授業計画の概要)：「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいを実施する。気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻基幹科目	実技科目	専門実技（水泳）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：水の特性を理解し、施設設備の管理運営方法やプールで競う楽しさと水辺での安全管理の方法の基礎的理論と技能について学ぶ。 （授業計画の概要）：アクアエクササイズや水中ウォーキングに加え、4 泳法について科学的な背景を踏まえて指導する。また、水中でのボディーコントロールについて指導する。さらに、呼吸法、ローリングの方法、持久泳、個人メドレーなどへと学習範囲を広げていく。	
			専門実技（体力トレーニング）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：この実習では、スポーツ選手の種々のトレーニングの理論を理解したうえで、実際に科学的根拠に基づいたトレーニングを実践できる能力の獲得を目指す。また、競技特性に合わせた、トレーニング計画を立案できるように計画力も高める。レジスタンストレーニングを協力しながら安全に実践できるようにする。 （授業計画の概要）：筋肥大と神経筋改善を目的としたレジスタンストレーニングの負荷強度を設定できるようにする。持久トレーニングの強度設定において心拍数と血中乳酸濃度を応用できるようにする。競技特性を考慮した SAQ トレーニングを考案できるようにする。体幹トレーニングの作用・効果について理解したうえで、体幹トレーニングを指導できるようにする。これらのことについて科学的理論を背景として実践する力を習得する。	
			専門実技（陸上競技）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：陸上競技における走・跳・投の基礎的な技術、ルール、知識を習得する。また、各種目の特性を理解し、トレーニング方法も含めた指導法などについても学習する。実技を実施する中での行動力・実行力、コミュニケーション能力の向上に関しても養うことを目的とする。 （授業計画の概要）：走・跳・投の基礎知識を理解し、技術のポイントを確認しながら繰り返し練習を行い、技術獲得を目指す。その過程においてより良いトレーニング方法、指導法についても追求し、自身の能力向上だけでなく、トレーニング指導方法及び技術指導方法も習得できる授業を展開する。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻基幹科目	実技科目	専門実技（器械運動）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動における基礎的な理論及び技術の習得を目指す。加えて、各種目の特性を理解しつつ、各技の段階的な教授法と技の習得の際に必要となる補助方法を身につけることを目指す。そして安全な補助方法を考えることを通して、器械運動の指導における問題解決能力を育む。また、グループワークでシンクロマットの演技創作を行い、互いに協力をし合うことで協調性を高める。 （授業計画の概要）：器械運動の主要な器具を用いて、理論及び実技の学習を行う。 ＜マット運動＞接転系の運動（前転、後転、倒立前転、後転倒立等）と翻転系の運動（ヘッドスプリング、ハンドスプリング等）の技術を習得する。その後、巧技系の運動も交えて、技を組み合わせ、一連の動きとして構成する方法を学習する。 ＜鉄棒運動＞支持回転系と懸垂振動系の基本技術の習得とその発展技に取り組む。 ＜跳び箱運動＞切り返し系の技と回転系の技の基本的な技術を習得する。	
			専門実技（フィットネス A）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：エアロビックダンスの特性および効果の理論的背景を理解するとともに、エアロビックダンスプログラムの基本構成を理解し、エアロビックダンス特性のステップの習得を目指す。エアロビックダンス特有の指導法を学習する過程で、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につける。 （授業計画の概要）：エアロビックダンスプログラムの基本理論、基本構成、目標心拍数、運動強度の変化要因を理解する。エアロビックダンスプログラムの体験、ローインパクトおよびハイインパクトステップを習得する。キューイングテクニックに基づく、エアロビックダンスの指導法を学習する。	
			専門実技（フィットネス B）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：エアロビックダンスの 30 分プログラムの指導ができるようになることを目標にグループエクササイズに必要な技能、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を伴う指導力の向上を目指す。 （授業計画の概要）：エアロビックダンスのウォームアップ、メインエクササイズ、筋コンディショニング、クールダウンのそれぞれのパートの指導法を理論的に学び、技能の習得及び指導方法の習得を行う。また対象者の特性に合ったプログラムの構成について実習を通して理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻基幹科目	実技科目	専門実技（柔道）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：柔道は日本固有の文化として古い歴史を持ち、武器を持たずに相手を制圧・殺傷するために考案された武術から、教育的価値を見出した武道である。本講では、相手の動きに応じて攻撃と防御を行う基本的技能を習得する過程で、行動力や協調性を涵養するとともに日本固有の運動文化や伝統について理解を深める。 （授業計画の概要）：礼法・構え・体さばきといった基本的動作を通して武道の心構えや姿勢を学び、受け身、投げ技、抑え技などを順序だてて学習することで、柔道の動作的特徴を理解し、攻撃と防御の効果的な技能を習得する。	
			専門実技（ダンス）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：日常生活、そしてスポーツ場面等における動き（ムーブメント）が、どのようにダンスに成りうるのかを実践的に考えることに主眼を置く。 （授業計画の概要）：コンテンポラリー・ダンスを中心に身体を通して表現する楽しさを習得するために、何を表現したいのか、どのように身体を動かす（技法）ことにより伝える（表現）ことができるのかについて理解・実践する。また、作舞を通じて、相互に観賞眼を高めることにも努める。	
			専門実技（サッカー）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：中学校・高等学校の体育や地域のクラブでサッカーを指導することを想定して、基本的な技術の指導ができるようになることを目標としている。また、サッカーの代表的な戦術を学び、その特徴を生徒や選手に分かりやすく伝えることができるようになることを目指している。 （授業計画の概要）：サッカーの技術やプレーの上手下手の判断や、技術やプレーが上達する過程を論理的に理解できるように努める。また、生徒や選手にサッカーの試合を行わせるために、ルールと審判法を十分に理解する。これらを通して、サッカーの技術戦術を論理的に理解し、それを生徒や選手に分かりやすく伝えながら、サッカーを享受させる指導法を身につけることを涵養する。	
			専門実技（バレーボール）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：バレーボールは傷害の多いスポーツであり、安全にプレーを行うためのバレーボールの基本的理論と技術（基本技術と専門技術）の習得を目標とする。 （授業計画の概要）：バレーボールの基本技術であるレシーブ、サーブ，トスといった基本技術に加え、チームプレーとしての戦術について理解し、ゲームを実施できることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻基幹科目	実技科目	専門実技（バスケットボール）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：バスケットボールは攻守の入れ替わりが早く、走運動が基本となるスポーツである。基本技術（ドリブル、パス、シュート）と走運動の基本的な身体の関係を理解し、戦術を伴うゲームを実施するバスケットボール技術の習得を目標とする。 （授業計画の概要）：バスケットボールの基本的な技術（ドリブル、パス、シュート）を安全に実施する方法、ゲームを構成するスクリーンプレーヤ速攻等の戦術に関するバスケットボールの基本的な理論と技術を身につけることを目指す。	
			専門実技（テニス）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：テニス競技においては、ラケットに正確にボールを当てることが求められる。そのための基本的な理論と技術とともに、技術の向上を図るための方法、ゲーム（シングル・ダブルス）を実施するための規則等についての習得を目標とする。 （授業計画の概要）：テニスの基本的な理論と技術の習得及びその方法について実践し、ゲームを実施する上で求められる身体の動き、技術、規則等について身につけることを目指す。	
			専門実技（ホッケー）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：フィールドホッケーは飯能市で広く実施されているものの、経験者が少ない種目でもある。授業では、フィールドホッケーの基本的理論と技術の習得とともに、安全に実施するうえで求められる知識等の習得を目標とする。 （授業計画の概要）：フィールドホッケーの基本理論・技術及び安全な道具操作について理解・実践し、安全にゲームを実施することを目指す。	
			専門実技（ラグビー）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：ラグビーを構成する技術・戦術理論を理解・習得を目指しながら、ラグビーのルール、競技特性、ラグビーの精神に触れ、実戦を通じて理解を深める。ラグビーの基本技術・戦術を理解し、自ら表現できる。ラグビーおよびタグラグビーのルール、競技特性を理解し、指導実践に活かすことができる。タグラグビーの試合を通し、メンバー相互に協力し、勝利を目指して有効な人間関係を構築することができる。 （授業計画の概要）：ラグビーの基本スキルを習得すると共に、身体接触を排除し誰でも安全に楽しめる「陣地を取り合うゴール型ゲーム」であるタグラグビーについて学んでいく。さらには、ラグビー固有の「ラグビースピリッツ」と呼ばれるラグビー特有のスポーツ文化に触れながら、フェアプレーの精神や自己規律などのスポーツマンシップやチームワークについて学んでいく。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻基幹科目	実技科目	専門実技（自然活動 A）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：自然活動の一つとしての登山活動を通して、安全で確実な行動計画を立案する理論的な知識と技能、組織登山における主体的な行動力と協調性の能力獲得を目標とする。 （授業計画の概要）：学内における事前学習として、「尾瀬の自然」「身体のコンディショニング」「登山・天候・地図の技術」「組織登山の価値論」等について理解をする。 実習は尾瀬山域（3 泊 4 日）を計画する。 事後学習として、計画と実際の差異について確認し、改善方策についての議論を深める。	集中
			専門実技（自然活動 B）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：自然活動の一つとしての組織的なキャンプ活動をとおして、自然における多様な楽しみ方の理論と技術の習得を図る。グループでキャンプのプログラミングを行うことで、理論的・多面的思考力、計画力、コミュニケーション能力を養う。また、テントでの宿泊、野外炊飯、トレッキング等の野外活動の基礎的な技術を習得するとともに自然を理解し、自然におけるプログラムの立案・実施ができることを目指す。 （授業計画の概要）：事前学習において「自然活動の理論」「野外活動の技術」及び「プログラミング」について学ぶ。グループ編成を行い、各グループで実際の活動計画の作成を行う。実習は、秩父山系のキャンプ場（3 泊 4 日）を計画する。 事後学習として、各グループにて計画と実際の差異を確認し、改善の方策について議論を深める。	集中
			専門実技（プロジェクト・アドベンチャー）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：プロジェクト・アドベンチャー（PA）活動での仲間との協働体験を通し、お互いの考えを共有しアイデアを出し合い問題を解決する中で、お互いを尊重し、支え合う関係性を築くコミュニケーション能力を涵養する理論と方法について習得する。また、自己の挑戦、グループでの挑戦を通し、自ら心地よい環境から一歩出て、難易度の高い課題に挑む自主性、行動力・実行力、問題解決能力を涵養する理論と方法を習得する。 （授業計画の概要）：事前授業として、プロジェクト・アドベンチャー概論、アイスブレイク、グループワークによるコミュニケーションスキルトレーニング等の理論的背景と技術について学ぶ。実習地は「高尾の森わくわくビレッジ」（3 泊 4 日）とする。 「協働の経験」「信頼関係」「挑戦」といったキーワードに基づいた活動を通し、必要な行動を自ら考え、実際に行動を起こす行動変容を促し、「自身を理解し、自分で挑戦を選択する心」を養う理論と方法について学ぶ。	集中

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻基幹科目	実技科目	専門実技（アクア・マリンスポーツ）	（授業形態）：実技形式 （授業目標）：スキューバダイビングを通して、安全な潜水計画を立てられるよう、現地での情報収集等のスキューバダイビングに求められる理論と技能の習得を図る。バディーと協働して安全な潜水ができるよう、コミュニケーション能力と協調性を養成するとともに水中での自己保全能力を高め、トラブルに対応できる問題解決能力を獲得する。 （授業計画の概要）：事前学習として、「テキストと DVD」を用いた理論的学習を行う。実習は静岡県伊東市の施設及び海洋（3 泊 4 日）とする。実習では、ダイビング理論講習（水中環境，水中生理，プランとルール）、プール演習（装備機材の装着・取り外し、ダイビングスキル）、海洋演習（エントリー、レギュレータークリアー、マスククリアー、浮力調整、オクトパスブリージング、緊急アセント、ボートダイブ）について学ぶ。	集中
			専門実技（パドルスポーツ）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：大学が立地する飯能市及びその周辺の地域資源を理解し、その活用法をスポーツと地域文化の切り口から考察する。地域資源の中でも河川や湖沼を活用したスポーツについて体験的に学び、それらが地域に与えるインパクトと可能性について考え、パドルスポーツの技術習得とともに主体的に行動、実行する力を身に付ける。 （授業計画の概要）：飯能市内やその周辺で、カヌー、SUP（スタンドアップパドルボード）などのパドルスポーツの楽しみ方、技術と地域の環境保全への意識付けを実践的に学ぶ。	集中
			専門実技（自然活動 C）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：大学が立地する飯能市及びその周辺の地域資源を理解し、その活用法をスポーツと地域文化の切り口から考察する。地域資源の中でも森林や里山を活用したスポーツについて体験的に学び、それらが地域に与えるインパクトと可能性について考え、主体的に行動、実行する力を身に付ける。 （授業計画の概要）：飯能市内やその周辺地域で、地域環境を活用しつつトレイルランニングやヨガ、サイクリングなどのスポーツを実践する理論と方法についての実際を学ぶ。 （オムニバス形式／全 15 回） （96 櫻澤裕樹／6 回） 　スポーツを取り入れた地域資源の活用方法について担当。 （97 神野賢二／9 回） 森林や里山を活用したスポーツの実践方法について担当。	オムニバス形式・集中

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
	専攻基幹科目	実技科目	専門実技（スキー・スノーボード）	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：生涯スポーツとしてスキー・スノーボードを楽しむ基礎的な知識、技能、マナーを身につける。実技と理論が融合した理解（力）を獲得する。自分のからだに対する理解（力）が向上するようになる。「からだ」を通して他者理解・自己理解を深める。協働を通して友人をつくり、コミュニケーション能力を涵養する。 （授業計画の概要）：初心者が、生涯スポーツとしてスキー・スノーボードを楽しむための基礎的な知識、技能、マナーを身につけることを第1の目的とする。そのため、学内で事前講義・事前実習を行い、スキー・スノーボードやスキー場についての基礎的な知識理解を深め、スキー・スノーボードに活かすための、コオーディネーショントレーニング、レジスタンストレーニング、バランストレーニングを学ぶ。その上で、冬期スキー場での集中実技（3泊4日）では、自律してスキー・スノーボードを楽しむための基礎的な知識、技能、マナーを体験を通して学び、卒業後、生涯スポーツとしてウィンタースポーツを楽しみ、指導者としてスキー・スノーボードを指導するための基礎をつくる。	集中
専攻科目群	専攻発展科目		スポーツ測定法	（授業形態）：講義形式（実習を含む） （授業目標）：スポーツ生理学・スポーツ・バイオメカニクス、体育・スポーツ科学などの分野において、最も基本となる生理学的および力学的変量あるいは指標（データ）について、その測定方法あるいはデータ処理の方法について学習し、それらの測定の意義について理解することを目的とする。 （授業計画の概要）：スポーツ生理学的観点より、無酸素パワー、最大酸素摂取量の測定法、および運動負荷テスト、またバイオメカニカルな観点より床反力測定、筋電図の測定および動画による動作分析、ならびにデータの処理法などについて、それぞれの理論について講義した後に、測定法あるいは実施方法について体験する。 （オムニバス形式／全15回） （1 吉野貴順／7 回） 無酸素パワー、最大酸素摂取量、運動負荷テストなどの測定について講義・実習を行う。 （13 久我晃広／7 回） 床反力測定、筋電図の測定、動画による動作分析について講義・実習を行う。 （1 吉野貴順・13 久我晃広／1回）共同 最終授業は共同でまとめを行う。	オムニバス方式 共同（一部） 講義（18時間）、実習（12時間）

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	スポ―ツ心理学	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：スポーツにおける心理的特性と心の健康に寄与する運動・スポーツの意義について、論理的・多面的に理解する。また、スポーツ実践現場における心理的諸問題について、その現状と対策を考えて発表し、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を高める。 （授業計画の概要）：スポーツにおける動機づけと目標設定、パーソナリティと集団の心理、パフォーマンスとコンディショニング、心の健康のための運動・スポーツなど、人間の心理的側面についての基本的知識について多面的に理解する。また、スポーツとバーンアウト、スポーツ選手の健康問題、スポーツ指導上の問題など、スポーツ実践現場での心理的諸問題について、ポスターツアーなどのアクティブラーニングの手法を用いて学び、応用可能な知識を身につける。	
		健康とスポーツの医学Ａ	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：生活習慣病を理解し、その生活習慣を改善する方法を会得することを到達目標とする。 （授業計画の概要）：運動（スポーツ）の人に良い効果を与える対象として、代表的なものが生活習慣病であり、運動・栄養・休養といった生活習慣をどのように実践していけば良い効果を得られるかを、特に運動に注目して講義を行うこととする。生活習慣病の中でもメタボリックシンドロームを主に講義することになるが、内臓脂肪型肥満症・脂質異常症・高血圧症・糖尿病の定義、診断法を述べ、その予防および治療に関して生活習慣の改善が最も重要であることも述べ、特に運動実践の重要性を強調して講義する。最近では薬物服用者にも運動が推奨されるようになり、薬物服用中に注意すべき運動指導をも講義する。	
		運動学	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：運動学の概念について学ぶことにより、運動についての理解を深める。また運動を構造的に分析する視点を持ち、自分自身の実技経験を論理的かつ多面的に分析し、実際の指導現場（教育現場・生涯スポーツ現場）に活用できる応用力を涵養する。 （授業計画の概要）：本講義では運動とはどのようなものか、また技能、体力、技術、戦術等についてその構造や理論を学ぶ。これらより運動特性及び運動構造への理解を深め、自身の運動経験と関連させ、指導を行うために必要な運動に対する考え方・理論を学ぶ。運動指導を行う際の運動そのものを観察し、分析するための基礎的な知識を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	スポーツ生理学	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：競技スポーツ選手は、その選手が行っている競技によって、特徴的な体格・運動能力を持っている。これは、選手が長年にわたり、その競技に特徴的な動作を、高い強度で繰り返し継続してきたことによって、体格・運動能力が特徴的に発達・適応したためである。本講義では、スポーツ選手の特徴的な体格・運動能力を、主に筋肉系、神経系、呼吸循環器系などの観点から理解させる。また、オーバートレーニング、ディトレーニング、減量などがスポーツ選手の身心に及ぼす影響についても学び、競技スポーツ選手が抱える生理的な諸問題を発見する能力も養う。これらを通して、スポーツの科学的理論に基づいた競技力向上に関する知識を理解させる。 （授業計画の概要）：競技スポーツ選手を持久選手、短距離選手、球技選手、格闘技選手などに分類する。そして授業では、筋力、筋線維組成、エネルギー供給能力、呼吸循環器系などの臓器ごとに、競技スポーツ選手による違いとその違いが生じた発達・適応の機序を解説する。スポーツを専攻している学生が本授業の知識を、各自の競技力向上に活かせるようにする。	
		健康と文化	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：現代社会における健康問題とその背景、生きがいや生活の豊かさ、生活の質の向上といった地域の文化性と密接に関連する健康観について理解するとともに、健康の公と私のあり様について飯能市を事例として取り上げ、地域（文化性）における健康という視点から課題を発見し、解決する能力を身につける。 （授業計画の概要）：地域や文化特性により形作られる健康は、今日の高齢化と地方の過疎化の中で重要な事項となっている。このような事情とそこに描き出される健康の姿から、地域課題としての健康問題を考える。また、具体的に山間部かつ都市部近郊都市として位置づく飯能市を事例として取り上げ、飯能市特有の課題を地域特性（文化・スポーツの状況）としてとらえていく視点を学ぶ。授業では、グループワーク、ディスカッションなどを通して、自ら考え、他者からも学ぶ姿勢も身につけたい。	
		スポーツ政策論	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：日本及び諸外国のスポーツ政策の現状および政策対象としてのスポーツが総合政策的な価値をもつことを理解する。スポーツ政策を理解するうえで必要な基礎的な政策学および行政学の知識と視座の修得を目指す。 （授業計画の概要）：スポーツが国民に浸透する一方で、高齢化社会の到来と地域の過疎化はスポーツに総合政策としての価値を与え、これまでの「教育・文化」政策に加え「健康・福祉・観光・地域活性・・・」の価値を付与し、スポーツの政策的価値が拡大している。授業ではスポーツを「する・みる・ささえる」視点からもとらえ、わが国のスポーツ法体系および組織等について理解し、国及び地方のスポーツ政策の現状と課題について、諸外国の実情とともに学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	生涯スポーツ論	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：高齢化する現代社会では健康の増進、余暇活動の充実などと結びついて、スポーツ活動が生涯にわたって重要な活動として、生涯スポーツに位置づけられている。スポーツを取り巻く社会事象を主体的にとらえる姿勢と自身のライフステージを描き出しながら、スポーツ活動が生涯にわたって主体的な活動に位置づくための基礎的知識の習得をめざす。 （授業計画の概要）スポーツが人間の生涯にわたる生活にどのようにかかわっていくのかという原理的な考察に加え、各ライフステージの特徴と関連付けながらスポーツをとらえ、生涯にわたってスポーツ活動を支える社会的・制度的な仕組みや指導者のあり方についても考察を深める。	
		スポーツ人類学	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：本講義ではスポーツを文化として捉え、その実態を文化人類学的思考により明らかにしていく。スポーツ人類学では、文字資料によって残らないような伝承や担い手たちの語りをも資料とし分析する。そのような分析する手法を学ぶことで、現代のスポーツにおける課題や問題点を考える理論的・多面的思考力や、今後のスポーツのあり方についての自らの見解を持ち発言できる課題発見能力や問題解決力の獲得を目指す。 （授業計画の概要）：本講義では、今日では常識だと思われているようなことを一度疑い、なぜという疑問を持ち、その疑問を解決していくような力を付けることを目指す。現代では当たり前のように多くの人が享受する近代スポーツや、各民族が保持するような民族スポーツ、舞踊、健康等の個別事例を通じ、それらが当該社会において果たす機能や役割を学ぶ。それらの事例から他文化を理解し、自文化の理解を深める。	
		スポーツ栄養学	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：一般の青少年や中高年齢者、あるいはスポーツ選手がスポーツおよび体づくりをするうえで必須となる、食事や栄養素あるいは水分摂取の方法などについて学習し、栄養摂取の実行力を高める。また、生活習慣病の予防についても栄養学的観点から理解を深め、社会的な課題を発見させる。 （授業計画の概要）：日本人の栄養摂取基準をふまえて、スポーツにおける五大栄養素の役割、食物の消化・吸収・排泄の機序、身体運動時の水分摂取方法、サプリメントについて、スポーツの競技成績と栄養摂取の関係、食物摂取と生活習慣病との関係、運動とエネルギー消費などについての理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	解剖生理学	(授業形態)：講義形式 (授業目標)：解剖生理学は、スポーツや健康を理解する上で必要とされる学問である。スポーツを行う身体の構造と機能を理解し、専門書の読解力や情報収集能力を養うことを目指す。 (授業計画の概要)：人体の骨格、関節、筋肉、神経の解剖とそれらの機能を特に運動や健康に結びつけながら学ぶ。さらに筋骨格系の生理学とエネルギー代謝を中心とする生理学を学び、呼吸器、循環器、内分泌、そして感覚器の生理学を学ぶ。	
		スポーツ測定法実習	(授業形態)：実習形式 (授業目標)：スポーツ生理学・スポーツ・バイオメカニクス、体育・スポーツ科学などの分野において、指導上必要不可欠な科学的な指標（データ）を実際に測定し、結果についてレポートすることを通じて、その測定方法や測定の意義あるいはデータ処理の方法について体験的に学習し、それらのデータを指導の現場で有効に活用できるようにすることを目的とする。 (授業計画の概要)：スポーツ生理学的観点より、血中乳酸および最大酸素摂取量について測定方法と評価、バイオメカニカルな観点より重心動揺、筋電図の測定の理論と方法評価、また動画による動作分析の方法、データの処理などについて実習し、それらの測定の意義を理解させる。 (オムニバス形式／全15回) (1 吉野貴順／7 回) 血中乳酸測定、最大酸素摂取量などの測定について実習を行う。 (13 久我晃広／7 回) 重心動揺、筋電図、動作分析について実習を行う。 (1 吉野貴順・13 久我晃広／1回)共同 最終授業は共同でまとめを行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		健康とスポーツの医学 B	(授業形態)：講義形式 (授業目標)：運動（スポーツ）の副作用とも考えられる、内科的スポーツ障害を理解し、予防対策を会得することを到達目標とする。 (授業計画の概要)：運動（スポーツ）の効果として良い面もあるが悪い面も考えられ、その代表的なものがスポーツ障害である。このスポーツ障害の中で、内科的スポーツ障害に関して急性および慢性と分類して概説する。内科的急性スポーツ障害としては突然死・熱中症・過換気症候群などに関して、予防対策や早期発見方法について講義する。また内科的慢性スポーツ障害としては貧血・オーバートレーニング症候群などに関して、予防対策としてトレーニング内容の適正化、食事内容の適正化が特に重要であることを強調して講義する。さらにスポーツ選手によく認められる心電図変化に関して述べ、まれに病的なものも存在することを述べる。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	運動処方論	(授業形態):講義形式 (授業目標):現代を健康に生きていくために必要な基礎知識を身につけ、身体運動を指導するうえで求められる考え方を理解し、どのように運動すれば効果的な成果を得ることができるのかについて議論し、計画する力(処方)を獲得することを目標とする。 (授業計画の概要):より健康かつ自分らしく生きていくため、現代社会の諸問題と健康、体力の現状をとらえ、進むべき方向を考察する。生活習慣、健康寿命、廃用性萎縮、メタボおよびロコモ症候群、運動の呼吸循環系と筋・神経系への影響、加齢の影響、運動と心の関連、運動処方に関する理解を深める。とくに運動を合理的かつ安全に実施するため、トレーニング理論に基づく運動プログラム作成と実践方法の理解を深める。	
		衛生学・公衆衛生学	(授業形態):講義形式 (授業目標):衛生学・公衆衛生学とは、危険から生命・生活を衛ることを目的とする学問である。本講義では、身の回りにあるリスクファクターを軽減し、よりよい生活を送るための知識を身につけることを目標とする。また、根拠に基づき正しく情報収集・処理を行えるようにしその知識を活用できるようにすることも目標とする。 (授業計画の概要):保健体育科教育に必要な知識としての疫学、人口統計・衛生統計を学ぶ。次に各論として対象別(母子・学童・成人(主に労働者)・高齢者など)に行われる衛生・公衆衛生活動について学ぶ。さらに、現代社会で特に多くなってきている生活習慣病、メタボリック症候群の予防、健康増進の取り組みについても学ぶ。	
		生涯学習論	(授業形態):講義形式 (授業目標):生涯学習についての理解を深め、自分のニーズにあった生涯学習活動の方法を取捨選択し、生活に取り入れていく能力を開発するとともに情報収集能力、問題解決能力を涵養する。 (授業計画の概要):「生涯学習」の理念、基本的な概念やそれを支える発達観を整理し、その上で生涯学習の振興・推進を図る上で行政が果たすべき役割、現状、課題について考える。特に身近な生活の中にある生涯学習の事例を紹介しながら授業を展開する。 また学生自身で身近な生涯学習支援施設を訪ね、どんな活動が行われているか調査し、興味のあるトピックスについての情報を集めることを課題とする。 (オムニバス方式／全 15 回) (④ 狐塚賢一郎／11 回) 生涯学習の理念、基本的な概念等に触れ、生涯学習の振興・推進に向けて現状、課題等について説明する。 (⑨ 野村正弘／2 回) 生涯学習施設としての公民館、博物館について説明する。 (⑩ 石川賀一／2 回) 生涯学習施設としての図書館について説明する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	教育と文化	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：文化をくぐりぬける成長と発達のありようについて、歴史的かつ国際的な事例とそれをめぐる議論を学ぶことを通じて、問題化する課題発見能力を高めると同時に、論理的で多面的な思考力を培う。 （授業計画の概要）：私たちの成長と発達は、文化と不可分の関係にある。個人の成長は、既存の文化の良い部分を維持すると同時に、悪い部分を反省的に修正する中で発展的になしとげられる。本講義では、いろいろな集団文化を切り口に、成長と発達の問題について考えを深める。	
		スポーツ心理学実習	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：スポーツ選手のパフォーマンスの発揮には、多様な心理的要因が影響している。これらの知見は選手自身の主観だけではなく、科学的な測定により得られた客観的なデータに基づいている。授業では、スポーツ心理学分野で多く扱われている実験器具や心理尺度を用いて心理的側面を測定し、課題を解明するための方法とその背景となる理論について理解する。 （授業計画の概要）：授業では、静視力や動体視力などの視覚実験、全身反応時間の測定、ストレスや心拍数などに着目した生理・心理学的測定、各種心理検査、質問紙調査などを実際に行い、スポーツ心理学における研究デザインから測定方法や背景となる理論について幅広く学ぶ。また得られたデータを基礎的な統計処理を行い、レポートを作成し発表する。	
		アスレティックトレーナー論	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：アスレティックトレーナーの役割・任務について説明できるようになる。スポーツ医科学の専門家、スポーツ指導者との連携・協力について理解することができる。アスレティックトレーナーの活動内容について説明できるようになる。代表的なスポーツ外傷・障害について理解することができる。 （授業計画の概要）：アスレティックトレーナーの歴史、役割・任務、活動範囲、環境について解説する。また、アスレティックトレーナーが活動する際には、医師、理学療法士、スポーツ科学の専門家、スポーツ指導者との連携、協力が非常に大切であり、これについて解説する。各種スポーツ競技や健康イベントにおけるアスレティックトレーナーの活動内容についても紹介する。さらに安全なスポーツ活動の指導にあたっては、スポーツ外傷・障害の発生機転、病態、救急処置、アスレティックリハビリテーション、予防方法などの基礎的な知識が必要であり、これらについて代表的な例をあげて解説する。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	身体文化論	(授業形態):講義形式 (授業目標):身体による表現について多角的に考えることを第一義の目標とする。表現の＜素材＞としての「からだ」と「動き」、また、表現の＜主体＞としての「からだ・肉体・身体」について事例を参照しつつ考え、プレゼンテーション・コミュニケーションそれぞれの能力を培う。 (授業計画の概要):表現においてもっとも洗練されている形式とみなされる言語表現をかたわらに、からだと動きを用いての表現の有効性を、また、その限界を考えてみる。座学に終始することなく、自らのからだを動かし、他者とのコミュニケーションの実際を経験してみる。社会の最小単位としての他者との対峙から学ぶ契機とする。	
		異文化とスポーツ	(授業形態):講義形式 (授業目標):幕末日本の異文化のスポーツとの接触の事例や、現代の異国でスポーツを体験する事例を学ぶことを通じて、多面的な思考を養う。また、そうした異文化のスポーツ体験の記録から、どのようにそのような体験が捉えられ、表現されるのかを理解する力を獲得する。併せて、そうした特定地域のスポーツが、その社会においてどのような意味や意義を持っているのかを考察する力を養う。 (授業計画の概要):スポーツを通じた異文化体験の代表的な事例を取り上げる。具体的には、幕末日本に訪れた西洋人が見た日本の伝統的な競技と、日本人が見た西洋人の近代スポーツを事例として取り上げる。また、現代におけるグローバル化社会の進行において実践されるスポーツ・ツーリズムや、スポーツ選手や指導者が海外でスポーツを実践する事例も取り上げる。それらの多様な事例から、スポーツを通じた異文化体験と体験の表現の方法論について学ぶ。	
		スポーツと法	(授業形態):講義形式 (授業目標):この授業では、スポーツ指導者のみならず、スポーツに参加する者全員が、スポーツという活動を行う際に守るべきマナーやルールを理解し、またスポーツ事故の予防、事故が発生した場合の法的責任についての基礎知識を身につけることを目標とする。 (授業計画の概要):スポーツに参加する者は、ルールを守ってプレイするだけでなく、他者の人格や人権を尊重して行動しなければならない。また、スポーツは激しい身体的運動を伴うものであるため、事故発生の危険性を内在させている活動である。この授業では、ヘイトスピーチ問題などのスポーツと人権の関わりに関する事例、スポーツ事故・学校事故の事例を取り上げて、スポーツにおける人権尊重の問題およびスポーツの安全と事故が生じた場合の法的責任の問題について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	文化資源とスポーツ	(授業形態):講義形式 (授業目標):「文化」とはそれぞれにおいて異なっていて当然である。本講義ではその違いを認識し、尊重し、有用性を認め合う事を修得することを目標とする。このため、情報収集能力を涵養すると同時に、課題発見能力を育てる。 (授業計画の概要):スポーツの定義は文化ごとに異なる。まずは、「スポーツ」の定義について知悉をする。ついで、時代性・文化性が異なる状況下で「スポーツ」に分類されるものが異なる事例を学ぶ。例として、近代オリンピックでかつて芸術競技があったこと、eスポーツの存在などを知らしめる。さらに、マイナースポーツの事例として、他文化・多文化におけるスポーツの事例からその多様性について学ぶ。	
		レクリエーション論	(授業形態):講義形式 (授業目標):レクリエーションの基礎理論を理解する力および主体的に考える力を身につけ、レクリエーションをめぐる環境や余暇活動の問題点と今後の課題を考える中で、課題発見能力を高めていく。 (授業計画の概要):レクリエーションは、健康や体力の向上、スポーツ振興、高齢者や障害者などの福祉分野や、幼児教育や保育、子育て支援などの子ども達の心身の育成や学校教育の現場、さらには地域づくりなど、多様な領域で、活用されている。本講義では、レクリエーションの基礎理論と技術の習得を目指す。	
		アダプテッドスポーツ論	(授業形態):講義形式 (授業目標):障がい者スポーツの基本的概念、および各障害の特徴と障がい者スポーツについて、論理的・多面的に考える力を養う。また、障がい者スポーツの実際と指導法を理解し、身につける。 (授業計画の概要):障がい者スポーツの概念、歴史的背景、身体障害・知的障害・精神障害・高齢者等の障害区分と障がい者スポーツの実際、生涯スポーツ・競技スポーツの視点からの障がい者スポーツ等について、多面的に理解する。また、障がい者スポーツを実際に体験し、さらに小グループの PBL として実践に役立つ具体的な障がい者スポーツの種目を作成して発表する。	
		加齢とスポーツ	(授業形態):講義形式 (授業目標):(1)からだの機能・運動能力の加齢変化について理解を深める。(2)働く世代・高齢者に対するスポーツ・運動プログラムについて論理的に理解を深める (授業計画の概要):働く世代と高齢者のためのスポーツ・運動プログラムについて理解を深める。前半では、加齢に伴うからだの機能・運動能力の変化について学び、後半では、働く世代や高齢者に特有の疾病とそれに対する効果的なスポーツ・運動プログラムについて学ぶ。さらに、これからの日本社会とそれに対応するスポーツの役割について多面的に考える。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	健康運動プログラムの作成	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：生活を営むために必要な体力と健康の関係及び、体力測定と評価を基にした運動プログラムの作成法の習得を目指す。また、そのために必要な健康体力に関する情報収集能力と情報処理能力の獲得を目標とする。 （授業計画の概要） 国内外の健康に関する体力測定と評価法及び健康に関連する体力の保持増進に影響を与える効果について、科学的根拠（先行研究）に基づいて学ぶ。また、健常者に対する運動プログラムの作成と指導法について理解を深める。	
		スポーツインストラクター指導論	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：健康運動指導者やエアロビックダンスインストラクターに求められるグループ単位での実技能力と指導能力に加え、健康や体力に関する専門的知識を学修する。指導に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力についても学修する。 （授業計画の概要）：「ウォーミングアップとクーリングダウン」と「ストレッチング」の効果を科学的根拠に基づいて学ぶ。また、「レジスタンス運動」、「ウォーキング・ジョギング」、「水中エクササイズ」、および「エアロビックダンスエクササイズ」と健康体力について学ぶ。また、各運動の実技能力習得を図る。	
		メンタルトレーニング論	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：この授業は、スポーツに必要な「心技体」の中の「心」の部分を強化する「スポーツメンタルトレーニング」の理論と方法について理解をする。「スポーツメンタルトレーニング」は「心理面のトレーニング」であり、スポーツに必要なメンタル面の強化法を理解し、指導技術の一つとして活用できるようにする。またメンタルトレーニングは、スポーツだけでなく教育やビジネスの分野でも活用されている内容であり、主体性や問題解決能力を身につけ、各分野で応用できるようにする。 （授業計画の概要）：ここでは、スポーツ心理学の研究成果から派生したスポーツメンタルトレーニングについて実演を交えて紹介する。授業では、基本的な 8 つの心理的スキル（目標設定、リラクセーション・サイキングアップ、イメージ、集中力、プラス思考、セルフトーク、コミュニケーション、試合に対する心理的準備）を中心にメンタルトレーニングの理論と方法について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	コンディショニング論	(授業形態):講義形式 (授業目標):コンディショニングを構成する 3 つの因子(身体的因子、環境的因子、心因的因子)について説明できるようになる。ウエイトトレーニングを含む各種トレーニングの原則および実施上の注意などについて説明できるようになる。スポーツ外傷・障害予防のための様々な要因について理解することができる。 (授業計画の概要):本授業では、パフォーマンス向上のための種々のトレーニングについて解説するだけでなく、スポーツ外傷・障害の予防を含めスポーツを安全に行う上で必要とされる基礎的な知識についても解説する。また、コンディショニングプログラムの作成にあたって欠かすことの出来ないコンディションの評価などについても解説する。	
		スポーツコーチング論	(授業形態):講義形式 (授業目標):コーチングについて、適切なトレーニングをおこなうための計画力を養い、スポーツ指導者の意欲や自主的、自発的な活動を促すコミュニケーション能力の獲得、現場におけるコーチとしてスポーツ場面での課題発見能力、問題解決能力といった指導法を身につけることを目標とする。 (授業計画の概要):あらゆる競技において共通する、アスリート指導において必要な知識を習得し、効果的、計画的なトレーニング法を学習する。また、コーチングについての本質を理解し、トップアスリートから初心者まで様々なカテゴリーでスポーツ指導者としての資質を育むための基本的知識を身につける。さらには、今日の競技スポーツの強化に欠くことのできないスポーツ医・科学、情報戦略などについても理解を深める。 (オムニバス方式／全 15 回) (13 久我晃広／5 回) コーチングの概念、コーチング論、コーチング学とはどのような学問であるかについての講義を行う。また、競技スポーツにおけるスポーツ医・科学、情報戦略について学習する。 (1 吉野貴順／2 回) 競技力の概念およびトレーニングの構造について学習する。 (23 田中輝海／1 回) 動機づけ、メンタルトレーニングについて学習する。 (8 大森一伸／3 回) 各種トレーニングについて、およびトレーニング計画について学習する。 (7 狐塚賢一郎／2 回) 試合に向けた準備、試合後の分析・評価について学習する。 (22 邑木隆二／2 回) チーム、クラブ、組織のマネジメントについて学習する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	スポーツ指導者論	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：生涯学習時代のスポーツ指導者に必要な理論と実践的知識を身につける。スポーツ指導の場面において生起すると考えられる問題を挙げ、解決するための能力を養う。話し相手を説得し共感を得るためのプレゼンテーション能力を養う。 （授業計画の概要）：近代スポーツの歴史と特徴、文化としてのスポーツに内在するクリエイティビティーを理解した上で、スポーツ指導者の心構え、プレーヤーとの関係、年代別の指導法、事故を避けるための安全管理について学ぶ。フェアプレーが阻害された事例などを基に、問題を発見し解決する方法を考え、プレゼンテーションする。	
		健康・体力づくり指導法	（授業形態）：講義形式（実習を含む） （授業目標）：健康体力づくりの観点からの運動の有効性について理解を深める。健康体力づくりのための具体的な運動方法、およびその指導法について学ぶ。実際の指導実習を通じ、対象者に合わせた内容の計画力、実行力の獲得を目指す。 （授業計画の概要） ウォーキング、スロージョギング、ボールエクササイズ、自重負荷によるレジスタンス運動、チューブエクササイズ、音楽を使ってのリズムエクササイズ、タオルエクササイズ、ストレッチングなどの指導法及び背景となる理論について学び、指導実習を行う。	講義（18時間）、実習（12時間）
		発育・発達とスポーツ	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：本講義では、ヒトの成長過程における成熟の概念や、身体発育の一般的な推移を理解し、発育発達期のスポーツ（遊び・運動）のあり方について論理的・多面的に思考しながら、理解を深めていくことを目指す。 （授業計画の概要）：発育・発達の過程について、形態や各器官の発育とその評価方法、運動能力の発達とその評価方法を中心に学ぶ。また、これらの発育に影響を及ぼす要因、生物学的成熟度の概念とその評価法、発育・発達に応じた運動・トレーニング、スポーツ傷害とその予防法についての理解を深める。	
		学校保健	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：生涯を通じた健康づくりの視点から、学校教育における保健教育及び保健管理の重要性とその内容について理解し、その実践者として必要な知識・手法を習得することを目指す。 （授業計画の概要）：学校保健の概要、学校保健経営及び教職員の役割、ヘルスプロモーション、児童生徒の心身の発育発達、健康状態を把握する手段、（健康観察、健康相談、健康診断）、健康・発達上の課題を有する子どもへの支援、学校安全（安全教育と安全管理）、学校環境衛生、などについての理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	教育と法	(授業形態):講義形式 (授業目標):授業目標は、(1)憲法＝教育基本法の教育法原理を理解する、(2)教育行政と学校・教師・父母との教育法関係を理解する、(3)教師と生徒との教育法関係を理解することである。 (授業計画の概要):現行教育法の基本原理を講義した上で、上記の目標に関連する代表的な教育判例を取り上げ、国、地方公共団体、学校、教師、生徒、父母の教育法関係をめぐる論点を検討する。特に、国家の教育権と国民の教育権をめぐる論争に対して最高裁学テ判決の果たした役割について考え、学テ判決以降の教育法研究の状況も検討する。	
		エコツーリズム論	(授業形態):講義形式 (授業目標):エコツーリズムのキーワードとなる「環境」「観光」「地域」をベースに、健康・自然志向の観光のトレンドを踏まえ、スポーツとニューツーリズムとの融合について論理的・多面的に考える力を涵養する。またこれらを総合的に考え、具体化する創造的発想力と現代社会の多様なニーズに対応し得る知識を身につける。 (授業計画の概要):エコツーリズム成立の背景となった社会情勢、観光のトレンド、持続可能な観光のあり方、自然観光資源とスポーツの関係についての理解を深める。また、世界および日本各地の具体的な事例を取り上げ、地域ごとの課題や問題を考える。さらに、健康・自然志向を意識しつつ、知床・飯能等のエコツアー実践事例を踏まえ、エコツーリズムの考え方に基づいたエコツアー立案のためのノウハウを会得する。	
		スポーツ・ツーリズム論	(授業形態):講義形式 (授業目標):2020 年の東京オリンピックを控え、スポーツ文化への関心が高まる昨今、スポーツ・ツーリズムの基礎的な知識を得ることを目的とする。緒に就いたばかりの研究領域であるため、社会学・経済学・心理学・地理学等、多面的思考力や、創造的発想力、課題発見能力を養うことを目的とする。 (授業計画の概要):「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」という 3 つの視点と観光の関わりを理解し、スポーツ・ツーリストによる経済波及効果や地域活性化への影響について理解を深める。身近なスポーツ・イベントから、アスリートの姿勢、運営スタッフや観客のサポート力など、イベント成功という同じ目的を達成するためのそれぞれの役割を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	スポーツと政治	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：社会は多様な考えや対立する利益が混在し、絶えず生じる紛争や対立を調整し社会を統治するという政治世界でスポーツは重要な役割を果たしてきた。その意味でスポーツを歴史的、政治的な観点から理解することは重要である。スポーツと政治の関係について、歴史的な観点と近代国家形成と展開という観点から考察し、スポーツと政治の関係性を考えるための基礎的な知識と視座を理解する。 （授業計画の概要）：スポーツと政治の関係を歴史的及び近代国家形成の観点から事例及び資料から理解する。大きく①伝統と近代が交錯する時代のスポーツ、②日本の近代国家形成とスポーツ、③戦争（植民地）とスポーツ、④大衆社会とスポーツ（メディア、ナショナリズム、国際化）の区分から展開する。	
		国際交流とスポーツ	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：世界には紛争、犯罪、貧困、人権侵害、ジェンダー、障害者の社会的包摂など、解決すべき様々な社会課題がある。そして、近年、これら課題の解決手段としての「スポーツの力」に注目が集まっている。この授業では、国際交流・協力の現場で、スポーツがどのように課題解決に活かされているかを考察し、課題発見能力、計画力、問題解決能力を育成する。 （授業計画の概要）：国際機関や各国政府等における、国際交流・協力とスポーツの考え方を概観する。 スポーツを活用した国際交流・協力の具体的事例を通じ、どのように課題を発見し、活動（計画・実施）につなげ、解決を目指したかを学ぶ。（スポーツ分野で派遣された青年海外協力隊員の事例、スポーツを活用した国際協力プロジェクトの事例等） スポーツを通じた国際交流・協力活動の計画を検討する。（社会課題の発見や整理、課題解決にむけてのアクションプランをグループワーク等で作成する）	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	海外スポーツ文化研修	（授業形態）：演習形式 （授業目標）：海外のスポーツ事情を体験するとともに、コミュニティ・スポーツを企画・指導するための実践的研修を行う。また、語学力の研鑽も目標とする。主体性、行動力・実行力、及び協調性は自ずと要求され、育成されることが期待できる。 （授業計画の概要）：研修先はニュージーランドである。スポーツ先進国のコミュニティ・スポーツが、地域においてどのように展開され、また人々に支持されているのかを実践的に学ぶことを目的としている。事前学習では、語学学習、異文化理解、コミュニティ・スポーツの在り方等について理解し、現地での実習が効果的に展開できるよう工夫をする。事後学習では、その後の授業に関連付けるためにも報告会及び報告書の作成を通して学習内容の定着を図るよう工夫する。 1．春学期末に履修者集合：秋学期の予定を確認 2．秋学期の内容　（9 月末～） 事前授業：計 6 回～8回ほどの授業を開講 ニュージーランドのスポーツ政策、日本の総合型地域スポーツクラブの調査とスポーツ振興の問題点、ニュージーランドの地域スポーツクラブに係る問題点と克服方法 3．実地研修：ウェリントン、ニュージーランド（2 週間） 全員ホームステイ、午前中は語学学校、午後はスポーツ専門学校（New Zealand Institute of Sport）に通う。地域スポーツ訪問、地域のスポーツ団体関係者の方との面談。 4．帰国後、研修期間中の日誌（日本語と英語）の提出 5．報告会の開催 6．大学ホームページへの報告文の寄稿（参加者全員）	
		スポーツ健康実習	（授業形態）：実習形式 （授業目標）：これまでのスポーツの意義と健康に及ぼす効果についての学びを基礎とし、幅広い人々に対して健康に寄与するスポーツ実践の体験を通して、多様なスポーツの場における課題を克服する方策を考察し、問題解決能力を高めることを目標とする。 （授業計画の概要）：地域社会における健康とスポーツのかかわりの整理を踏まえ、地域の健康の維持増進や自立支援においてスポーツを積極的に活用している場での体験実習を行う。 事前学習として、地域の健康とスポーツの状況を理解し、実習地の実態について理解する。 現場実習としていずれかの実習地で実習を行う。（20 時間を標準） （実習地） ①「たんぽぽ田園倶楽部」（介護予防） ②「飯能市スゴ足イベント」（多世代の健康増進） ③「加治地区運動会等」（地域の健康増進）　等 事後指導として、報告会を行い、各実習地での活動内容及び成果について確認し、他の実習地での成果との共有を図る。実習では「実習ノート」を用いて実習内容の確認を行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目群	専攻発展科目	スポーツ教育実習	（授業形態）：実習形式 （授業の目標）：文化や教育におけるスポーツの意義を理解し、ポピュラーなスポーツ種目についての知識や技能を修得し、これらを活用して教育現場や生涯スポーツ現場において指導することができる理論と方法の学びを基礎として、教育現場や生涯スポーツの場における体験を通して、スポーツの課題を克服する方策を考察し、問題解決能力を高めることを目標とする。 （授業計画の概要）：体育や生涯スポーツの実際において必要な理論と方法及びマネジメントに関する知識の整理を踏まえ、体育・生涯スポーツを実践している場での体験実習を行う。 事前学習として、体育・生涯スポーツに求められる基本的な理論と方法を確認し、実習地の実態について理解する。 現場実習としていずれかの実習地で実習を行う。（20 時間を標準） （実習地） ①飯能市立中学校の運動部活動 ②飯能市内のスポーツクラブ　等 事後指導として、報告会を行い、各実習地での活動内容及び成果について確認し、他の実習地での成果との共有を図る。実習では「実習ノート」を用いて実習内容の確認を行う。	共同
		地域スポーツ実習	（授業形態）：実習形式 （授業の目標）：少子高齢化の時代の地方コミュニティにおいて、スポーツの楽しさや有用性を伝えること、スポーツを地域の資源として捉え活用することの学びを基礎として、地域のスポーツの場（地域スポーツ、スポーツ・ツーリズム、エコツーリズム等）における体験を通して、スポーツの場における課題を克服する方策を考察し、問題解決能力を高めることを目標とする。 （授業計画の概要）：地域スポーツ、スポーツ・ツーリズム、エコツーリズム等の実際において必要な理論と方法及びマネジメントに関する知識の整理を踏まえ、地域スポーツ、スポーツ・ツーリズム、エコツーリズム等を実践している場での体験実習を行う。 事前学習として、地域スポーツ、スポーツ・ツーリズム、エコツーリズム等に求められる基本的な理論と方法を確認し、実習地の実態について理解する。 現場実習としていずれかの実習地で実習を行う。（20 時間を標準） （実習地） ①一般社団法人奥むさし飯能観光協会 ②飯能市エコツーリズム推進協議会 ③一般社団法人里山こらぼ　等 事後指導として、報告会を行い、各実習地での活動内容及び成果について確認し、他の実習地での成果との共有を図る。実習では「実習ノート」を用いて実習内容の確認を行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目群	ゼミナールⅠ	(授業形態):演習形式 (授業目標):1 年次で大学の基礎的スキルを習得し、基礎講座の学習をふまえ、2 年次までの専攻導入科目や専攻基礎科目を学習した後に、3 年次のゼミナール毎に設定されたテーマについて学習し、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・課題発見能力・問題解決能力を身につける。 (授業計画の概要):少人数(15 名程度)の双方向の教育で、発表者が資料をもとにテーマの理解を深めてプレゼンテーションを行う。それに基づき、教員と学生が活発にディスカッションを行い、さらに理解を深め高いレベルの知識を得る。さらに、専門的知識と現代社会を結びつける努力をし、各自のキャリアの育成につなげる。	
	ゼミナールⅡ	(授業形態):演習形式 (授業目標):1 年次で大学の基礎的スキルを習得し、基礎講座での学習をふまえ、2 年次までの専攻導入科目や専攻基礎科目を学習した後に、3 年次のゼミナール毎に設定されたテーマを学習し、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・課題発見能力・問題解決能力を身につける。 (授業計画の概要):少人数(15 名程度)の双方向の教育で、発表者が資料をもとにテーマの理解を深めてプレゼンテーションを行う。それに基づき、教員と学生が活発にディスカッションを行い、さらに理解を深め高いレベルの知識を得る。さらに、専門的知識と現代社会を結びつける努力をし、各自のキャリアの育成につなげる。また、ゼミナールⅡでは、4 年次の卒業研究作成に向けてテーマを検討するなど、卒業研究作成の準備を始める。	
	ゼミナールⅢ	(授業形態):演習形式 (授業目標):3 年でゼミナールⅠ・Ⅱを通じてテーマの基本的な理解を身につけたうえで、ゼミナールⅢでは、ゼミナールⅠ・Ⅱの学習の中で各自が発見した問題・疑問を、より深く追求して、より高いレベルのプレゼンテーションを行い、他のゼミ員の発表に対するディスカッションに加わってテーマの理解を深める。それを各自の卒業研究に反映させることを目標とする。そうした活動を通して、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・課題発見能力・問題解決能力を身につける。 (授業計画の概要):各自の問題意識で資料を検索し、それを読んでゼミナールⅠ・Ⅱに比べてより高いレベルの理解に到達するように努力し、プレゼンテーションとディスカッションを通じて、卒業研究の進め方のヒントを獲得し、ゼミ員の助言に耳を傾け、卒業研究の作成に反映させる。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目群		ゼミナールⅣ	（授業形態）：演習形式 （授業目標）：ゼミナールⅣでは、ゼミナールⅢの学習の中で各自が発見した問題・疑問を、より深く追求して、より高いレベルのプレゼンテーションを行い、他のゼミ員の発表に対するディスカッションに加わってテーマの理解を深める。それを各自の卒業研究と卒業研究のプレゼンテーションに反映させることを目標とする。そうした活動を通して、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・課題発見能力・問題解決能力を身につける。 （授業計画の概要）：各自の問題意識で資料を検索し、それを読んでゼミナールⅢに比べてより高いレベルの理解に到達するように努力し、プレゼンテーションとディスカッションを通じて、卒業研究の進め方のヒントを獲得し、ゼミ員の助言に耳を傾け、卒業研究の作成と卒業研究のプレゼンテーションに反映させる。	
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育学概論	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：教育学の基礎的な思想および歴史を学ぶことにより、教育と発達についての論理的・多面的思考力、および課題発見能力を養う。また、グループディスカッションや発表の機会を通して、教師に欠かせないプレゼンテーション・スキルやコミュニケーション能力を伸ばす。 （授業計画の概要）：「教育」とはなにか、教育と学校の在り方について、教育の思想や歴史の基礎的な理論を学び、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを検討することにより、将来、教育に携わる者として必要な資質を養う。	
		教職論	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解する。 （授業計画の概要）：「教師」という立場に立つ者は、児童・生徒に多大な影響を及ぼす。それを考えれば教育の成否のほとんどは教材や施設・設備の良し悪しよりも、教員の質に大きく左右されると言っても過言ではない。この授業では特に学校教員がいかなる社会的役割を担いどのような期待を寄せられた存在であるのか、職業としての教員にはどのような資質が求められるのか、具体的な事例に即しながら考察し、それぞれが理想とする教職像を明確にすることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育制度論	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：現代の公教育制度の社会的根拠、法的枠組、学校経営の観点から教育行政の役割、教育課程編成上の制度的、方法的な問題について理解する。また、教師の教職専門性について検討し、自己の発達課題を自覚する。 （授業計画の概要）：現代の学校教育に関する制度的事項、教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネイジメントを含む）について基本的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解も身に付ける。	
		教育心理学	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：教育心理学の基礎的な知見を習得すること、および、学校におけるさまざまな問題について心理学の立場からはどのように考えられるかを理解する。人間の教育と発達についてさまざまな視点から理解することにより、論理的・多面的思考力や、課題発見能力を培う。 （授業計画の概要）：人間はどのように発達し、どのように学ぶのか、教えかたについてはどのように考えればよいのか、といった学校での教育や学習において生じる問題について、教育心理学の知見をもとにして考えていく。人間が発達していくプロセスや、そのプロセスを促すために必要な相互作用についての理解はもちろん、学習についての心理学的な知見や、教育に対する様々な考え方、アクティブ・ラーニングに関する理解と実践方法、障害のある生徒への配慮や学校不適応の問題などについて、具体的なトピックや事例を多く紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	特別支援教育Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):特別支援教育がなぜ求められるようになったかという歴史的経緯やその理念について理解し、その対象となる児童生徒の特性や個別の支援ニーズについて理解するときに必要な理論と心身のメカニズムに関する知識を身につけることを目標とする。また、介護等体験に臨むにあたって学生一人ひとりに求められる自覚と意識を涵養し、介護等体験を充実したものにするための準備を整える。 (授業計画の概要):介護等体験の事前指導と連動しつつ、特別支援教育に関する制度の理念や仕組み、および特別の支援を必要とする児童生徒の心身の発達や心理的特性について学ぶ。そして、教員として担当する児童生徒に個人・および他の教員や関係機関と連携を図りながら組織的に対応していくために必要な知識を理解する。 (複数・オムニバス方式／全8回) (99 永作稔・98 佐藤美幸／1回)(共同) 初回オリエンテーションととして、特別支援教育に関する概説と授業の進め方、各教員の担当内容、評価方法について説明する。 (99 永作稔／4回) 特別支援学校と社会福祉施設に関する概説や、介護等体験活動に向けて必要となる基礎知識や基本的態度等について説明する。 (98 佐藤美幸／3回) 各種障害の特性や基本的知識について説明する。また、通常学級における特別支援教育の実践方法や、学校内外の体制整備に関して説明する。	オムニバス方式・共同(一部)・集中

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	特別支援教育Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):特別支援教育の対象となる児童生徒の特性や個別の支援ニーズに応じた指導と支援の実際について理解し、具体的な支援の手立てについて考え、実践できるようになることを目指す。 (授業計画の概要):特別な支援ニーズのある児童生徒に対して個別の支援ニーズに配慮しながらどのように指導や支援を進めていくのか、その方法について学ぶ。また、視覚障害や聴覚障害、肢体不自由などさまざまな障害のある児童生徒の学習上および生活上の困難や、母国語の違いや貧困など障害はないが特別の教育的ニーズのある児童生徒への指導についても理解する。さらに、教員として担当する児童生徒に個人・および他の教員や関係機関と連携を図りながら組織的に対応していくために必要な知識を理解する。 (オムニバス方式・クラス分け／全 8 回) (99 永作稔／2 回) 授業全体のコーディネーターの役割を務める。初回には、特別支援教育の成り立ちや仕組み、及び各教員が担当する授業の内容や評価の方法について説明する。最終回には、授業全体のまとめとふりかえりを行う。 (98 佐藤美幸／2 回) 通常学級及び特別支援学級における特別な支援ニーズのある児童生徒の指導、援助について説明する。 (58 山下浩／2 回) 特別支援学級における自立活動について、また個別指導計画について説明する。 (83 村山光子／2 回) 特別支援学校における指導、支援の実際について説明する。また母国語が異なるなど、障害によらない社会的障壁により特に配慮の要する児童生徒の指導援助についても説明する。	オムニバス方式・集中
		道徳教育の理論と方法	(授業形態):講義形式 (授業目標):主として人権尊重の視点から道徳教育の意義及び原理を理解する。道徳教育の歴史的概要を知り、特に新学習指導要領の「道徳教育」の内容を理解し、現代社会における様々な道徳的課題を考慮しながら授業を具体的に構想(計画)する力を育む。模擬授業案を力を合わせて作成し、発表し、意見交換する力を養う。 (授業計画の概要):公教育の組織化の歴史との関連で、道徳教育とは何かについて考える機会を組織するとともに、道徳は個人の価値観の形成に関わるため、慎重な配慮が必要であることにも注意を促す。その上で、道徳の時間を運営する専門的力量を育成するため、新学習指導要領に基づいて具体的問題を検討するとともに、道徳教育の模擬授業案を作成し、発表・講評する。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	総合的な学習の時間の指導	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：さまざまな課題について、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な理解を深めその視野を広げる学習を通して、よりよくそれらの課題を解決していくための資質・能力の育成を目指す。その際、各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解させ、また実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、各教科などで育成される見方・考え方を総合的に活用して、多様な事象を多角的に俯瞰して捉えることができるようにする。さらに主体的・対話的で深い学びを通して、探究的な見方・考え方を深め、中学では自己の生き方、高校ではキャリア形成の視点とも関連づけ、年間指導計画を作成させ、具体的な指導や評価の仕方を身に付けさせる。 （授業計画の概要）：総合的な学習の時間の学習指導案と実践の検討を通して、実社会・実生活の諸課題について、横断的・総合的な理解を深め、さまざまな課題を探究する学びを実現するための知識・技能を身につけ、概念を形成する。また、各教科で育まれる見方・考え方をさまざまに活用して、実社会・実生活の課題の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して解決に必要な知識・技能を身につけ、まとめ、表現できるようにする。さらに学習に協働的に取り組む中で、主体的・対話的で深い学びを通して探究的な見方・考え方を深め、最後に総合的な学習の時間の年間指導計画を作成し発表する。	
		特別活動の指導	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に、必要な知識や素養を身に付ける。それは学校という枠だけではなく、地域や社会に目を向ける力でもあり、教職だけではなく社会で生きていくために必要な力であることを理解する。 （授業計画の概要）：学校教育の中での特別活動の意義と目的と方法を知り、児童生徒の「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」を目指し、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の「チームとしての学校」のあり方を理解する。一方、実際の学校における特別活動の課題と方策を実体験や、実践記録から読み解いていく中で、生徒にどのような力を育てるために、特別活動が必要かを学ぶ。具体的な事例を多く示し、分析し、方策を考えることをベースとする。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育の方法と技術	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要となる教育の方法と技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目標とする。特に、学校現場において、目標設定と生徒・学級に応じた授業設計と実施、評価にかかわる基礎的な知識や考え方と技能、ICTの活用にかかわる知識や技能等を教育実習の事前指導や教壇実習に関連づけられる程度まで習得することを目標とする。さらに、それらを自己研鑽の重要性として理解し、先進的な教育方法の実践に対する関心を高め、その重要性と改革の動向を理解する。 （授業計画の概要）：社会の変化に対応し，適切な学習指導を行うには，新しい教育方法を学び，教育技術を高める姿勢が教員に求められる。基本的な教育技術である板書に加え、ICTの活用、授業の設計・実施・分析・評価・改善の方法、さらに教師の授業力に関する課題など、教師が学校現場で同僚などと情報を交換しながら研鑽を積み成長していくために必要な内容を取り扱う。	
		生徒指導	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：生徒指導は、児童生徒の成長と発達を積極的に導く方法である。到達目標として、以下のことができるようになる。 (1) 生徒指導とは何かについて、学校システム全体（組織、教育課程）に関連づけて説明する (2) 児童・青年期における生徒指導の取り組みがなぜ重要かについて説明する (3) 個別に、あるいは学級、学年、学校全体を対象として、児童生徒を育てる基本的な方法について説明する。 （授業計画の概要）：生徒指導は、学習指導と並び、学校教育に欠くことのできない機能と言われている。しかし、この言葉自体は、厳しいしつけや問題行動への対応と受けとられることが多く、こうした誤解が広く生じたままである。果たして、生徒指導とは何か？人間の発達と適応はいかにして進展するのか？より具体的に、人はどのように生きる力を身につけ、自らの進路を選び取るのか？こうした生徒指導の理論、歴史、実際の取り組み、現代的課題について、基本的な知識・技能を学ぶ。そして、これからの生徒指導の考え方と取り組みについて発展的に考察していく。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育相談	(授業形態)：講義形式 (授業目標)：学校現場で出会う可能性のある心理社会的問題について見識を深め、学校における教育相談の意義と理論を理解する。そして教師が学校組織や地域社会と連携して、さまざまな側面からひとりひとりの生徒の集団に適応して生活する力を育て、個性を伸長し、人格の成長を促すことができるようにするための知識・技術・態度を身につける。学校社会に限らず社会全般で活かせる課題発見、問題解決の力とコミュニケーション能力を身につける。 (授業計画の概要)：子どもをめぐる多様・複雑化する問題への理解と対応を中心に講義やディスカッションを行い、児童・生徒に対する心理教育的援助サービスの質を高めるための、理論的枠組みと支援技法、また教育相談の質を高めるための基本的態度とアプローチの仕方について理解する。ワークシートによる事例検討、グループ討議、クラス共有などを積極的に行い、基本的知識の涵養とその活用にも重点を置く。また、教育相談にかかる個人の資質を向上させることばかりに注目するのではなく、チーム援助を行う上で必要な役割分担の視点や連携の視点についても理解を深める。 (複数・オムニバス方式、クラス分け／全 15 回) 初回オリエンテーションとまとめ (99 永作稔・48 近藤育代／2 回)(共同) 授業の概要と教員ごとの担当や進め方、評価の方法などについて説明する。また、まとめの回では授業全体のふりかえりと確認、今後のさらなる研鑽に向けた自己課題の確認等を共同授業で行う。 (99 永作稔／7 回) 個人及び集団を対象としたカウンセリング技法と不登校生徒の指導援助、及びチーム援助(チーム学校)の考え方やその実践、保護者支援と学内外の連携について担当する。 (48 近藤育代／6 回) 発達障害に関する基礎知識と具体的な指導援助の方法、教育相談におけるアセスメント及びロールプレイを用いた実践的な演習を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	進路指導	(授業形態)：講義形式 (授業目標)：学校教育における進路指導とキャリア教育の役割と意義について知り、それらの異同や社会の動向を踏まえた内容の歴史的経緯について理解する。そして、青年期の心理的発達の特徴、およびキャリア発達に関する理論と、それらを促すための相互作用（教育的コミュニケーション）とポートフォリオなどを用いた自己評価の積み上げについて理解を深める。さらに、進路指導やキャリア教育を学校全体で計画的、組織的、継続的に行うために必要な学校内外の体制づくりについて、その必要性と方法を理解する。 (授業計画の概要)：進路指導は、児童生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。そこで、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	
		教育実習Ⅰ（事前事後の指導を含む。）	(授業形態)：実習形式 (授業目標)：教育実習に対する心構えを涵養することを目的として、教育実習に関する基礎的知識を修得する。 (授業計画の概要)：次年度教育実習予定者が目的意識的に教育実習に取り組むことができるように、講義の他に、講演、授業の観察、模擬授業、ビデオ学習、学生の発表と討論など多様な方法を用いて、教育実習に関する事前・事後の指導を行う。出席状況、参加意欲、取り組み姿勢、課題レポート等により総合的に評価する。	集中
		教育実習Ⅱ	(授業形態)：実習形式 (授業目標)：教育理論を学校教育現場に適用して、自分のものとして活用する能力（行動に移す力）を養うとともに、新しい教育理論を探求する（行動に移す力）。学校教育全般にわたる認識を持って、教師の仕事全体について理解を深める（理解力）。教師として、生徒指導に必要な専門的知識と技術を修得する。教師の職務についての自覚を持ち、教師としての使命感を体得する。自己の特徴と不備な面に気付き、自己の研修課題を発見する（課題発見能力）。 (授業計画の概要)：教職を志望する者として、教職についての認識を深める。大学で習得した教育に関する学問的研究内容を学校教育の現場に移して行い、その体験を通して教育についての理解を深め、教育者となるために必要な職務遂行能力の基礎を養う。学校教育の現場を直接体験し、身をもって研究する機会を持つ。自己の適性を知り、教育者としてのあり方を深く考える。現在の学校教育が抱えている課題と解決への取り組みの実情を知る。	集中

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	学校体験活動	(授業形態)：実習形式 (授業目標)：学校教育の体験、すなわち授業参観、教材教具の準備等の補助活動、掃除や給食の指導、部活の指導、学級・学校行事等への参加などを体験することにより、教職への意識を主体的に形成するとともに、自己の指導観や授業観を問い直し、4 年次教育実習に向けて自己の課題を発見する。 (授業計画の概要)：中学校教諭免許状の取得希望の 3 年次生を対象に、狭義の「実習」、すなわち「指導教師の指導のもとに、一定の時間責任を委託され、「教壇実習」を除く教育実習のほぼすべてを含む実習として、実習前に「学校体験活動計画書」を作成・提出し、学校体験活動担当教員の支援の下で、実習に臨み、実習終了後、「学校体験報告書」を作成・提出し、「教育学演習Ⅰ」と「教育実習Ⅰ（事前事後の指導を含む。）」との科目間の連携の下で実習体験の中で発見した自己の課題を探求する。	集中
		教職実践演習	(授業形態)：演習形式 (授業目標)：教職に就く直前の段階にある受講者に対し、教職課程の他の科目の履修や教職指導の成果を統合する形で、教員として必要な資質・知識・技能の獲得状況を確認し、不足を補って、それらの最終的な獲得を目指す。その中には、教員として必要な常識力（一般常識、マナー）、コミュニケーション能力、課題発見能力、問題解決能力等を含む。 (授業計画の概要)：これまでの教職課程の履修を振り返り、教員になるに当たっての自己の課題を確認する。授業では、教職の意義や、対人関係の構築、生徒理解、学級経営、教科指導等について、ロールプレイ、グループ討論、学校見学等の手法も用いつつ、幅広い教職の教育学的理解と、専門的で実践的な能力の基盤育成を目指す。不足している資質や能力を見極めて、それを補えるような指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	保健体育科教育法Ⅰ	(授業形態):講義形式 (授業目標):学習目標として「体育とは何か」という原理的理解をもつとともに、中学校・高等学校において体育授業を主体的に計画し、実践する上で、教科体育の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用する知識的基礎を身につける。 (授業計画の概要):体育科教育とは何か、中学校・高等学校における授業を具体的にどう進めるのか、という実践的内容について理解を深める。社会性を帯びる学校教育、社会に生きる学校という基盤の確認をもって講義を進める。また、保健体育科教育法Ⅰ～Ⅳの導入として、より深く授業運営に関わることを目的に、それぞれのテーマに沿った学生主体による発表等を授業の基礎とし、ICT を活用しながらアクティブラーニングにより学びを深める。 (複数・オムニバス方式／全 15 回) (④ 狐塚賢一郎・⑪ 森 敏生／3 回)(共同) 導入、まとめ・振りかえりを行う。 (④ 狐塚賢一郎／2 回) 保健体育科を取り巻く社会的、制度的条件、また学習者としての児童生徒の特性等について理解を深める。 (⑪ 森 敏生／10 回) 保健体育科の意義や重要性、運動領域や学習内容、教材・教具の研究方法、指導技術、評価に関する基礎的な知識の理解を深め、実技指導力、授業実践力の基礎とする。	オムニバス方式・共同(一部)
		保健体育科教育法Ⅱ	(授業形態):講義形式 (授業目標):資料収集や講義すべき内容をまとめる作業の実践を通じて、学習指導のあり方や教授内容に関する理解を深める。以上の過程を通じて、主体性、情報収集能力を養うとともに、プレゼンテーション能力の向上を図る。 (授業計画の概要):より良い保健授業、生徒にとって学びがいのある保健授業を目指し、生徒理解の方法を知る。中学校および高等学校における保健科教育の特質を見極める。目標、内容、方法および評価方法などの基本的な事項について理解を深める。実際に指導案を作り授業をおこなったりする際に役立つ、教材研究について学び、教科内容研究に向き合う。主体的で対話的で深い学びの実践例を経験し、自らも取り組む。教科内容のより深い理解と実践力の向上を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保健体育科教育法Ⅲ	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：学習指導要領に示されている各運動教材の特性を活かした指導計画の作り方や授業の進め方、さらに指導方法について実践を通して学び、体育授業における指導力の習得を目指す。保健授業に関しても同様に、教育内容や授業の進め方、指導方法に関する基本的な理解を実践を通して図り、保健授業が展開出来る能力の習得を目指す。授業を通して、保健体育科教員としての実行力や常識力を身につけ、論理的・多面的に授業を実践できる思考力を身につける。 （授業計画の概要）：授業づくりに必要な保健・体育の学問領域に学び、実際の保健および体育授業の場面を想定し、指導計画づくりに取り組む。学習指導要領を学び、保健体育の教育における役割を認識し、生徒の実態を考察した上で、教材研究に向かい、単元づくり、指導計画づくりに取り組む。主体的・対話的で深い学びを理解し、グループによる模擬授業で指導実践に結びつける。模擬授業後には教師側と生徒側の双方による討論を行い、指導計画改善のための手だてを探る。	
		保健体育科教育法Ⅳ	（授業形態）：講義形式 （授業目標）：実際の授業場面を想定して行った模擬授業の実践を基に、体育８分野と保健分野の教育法の理解を深めることを目指す（理解力）。その手立てとして、各分野の教材研究、単元計画作成、指導案作成、教材づくりを通して、分野毎の特色を見ていく。また、体育的な学校行事や部活動など授業以外で求められる保健体育科の教員としての役割を考え、実践できる知識を備える（論理的・多面的思考力）。 （授業計画の概要）：「保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学習した授業実践の学習を基に、学習指導要領で定められている体育 8 分野と保健分野の理解をより深め、保健体育科の目標や内容について具体的に考察が出来るようにする。そのひとつの手段として、単元計画の作成、指導計画の作成、教材づくりを行い、模擬授業を展開し、保健体育の授業外において保健体育科の教員に求められる役割についても理解を深める。	
	大学が独自に設定する科目	教育学演習Ⅰ	（授業形態）：演習形式 （授業目標）：今日の教師教育制度改革、教育職員免許法の改正の動向を学びながら、1990 年代以降の中央教育審議会答申等を検討し、現代の教師として求められる人間的専門的資質について理解する。教師としての資質形成という課題が、変化する社会や家庭からの要請、学校の現状、子供の発達状況をめぐる問題と深くかかわっていることを理解する。 （授業計画の概要）：主として中央教育審議会の答申を取り上げ、教師教育をめぐる課題を検討する。また、社会とリンクした学校教育の時事問題を議論する中で、独善的でも閉鎖的でもないが、連携的かつ専門的であるような、教育学的なものの見方や考え方を学び合う。	

授 業 科 目 の 概 要

（スポーツ科学部スポーツ科学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	大学が独自に設定する科目	教育学演習Ⅱ	（授業形態）：演習形式 （授業目標）：教育学演習Ⅰで検討した事柄を踏まえつつ、地域社会、家庭、学校の問題事象を取り上げ、教師を取り巻く現状をどのように捉えるか、そのことによって、教師にはどのような資質が求められているのかについて認識を深める。素朴な経験主義のもとで広がりやすい印象論や噂や評判や多勢や空気に惑わされず、自律を前提とした協働的学習を続ける中で、教育現場における人間関係・社会関係事象をめぐる諸状況の客観的な分析と自他の尊厳保障を可能とする教育学的な知性を培う。 （授業計画の概要）：教師を取り巻く社会、家庭、学校の状況や子供の発達をめぐる問題状況について検討しつつ、教師として必要とされる見識、知識、感性、能力について考える。教師の専門職性の中心に、経験知を相対化する社会的知性を捉え、その醸成に取り組む。その際、特に国際比較というアプローチを採用する。	

学校法人駿河台大学　設置認可等に関わる組織の移行表

平成３１年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和２年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
		(3 年次)				(3 年次)		
駿河台大学				駿河台大学				
法学部法律学科	220	10	900	法学部 法律学科	220	10	900	
経済経営学部 経済経営学科	210	10	860	経済経営学部 経済経営学科	210	10	860	
（うち,経済と社会コース）	(80)		(320)	（うち,経済と社会コース）	(80)		(320)	
メディア情報学部 メディア情報学科	140	10	580	メディア情報学部 メディア情報学科	140	10	580	
現代文化学部 現代文化学科	200	20	840	現代文化学部 現代文化学科	0	20	40	令和２年４月に編入学生を除き学生募集停止
				スポーツ科学部 スポーツ科学科	200	―	800	学部の設置（認可申請）
心理学部心理学科	140	―	560	心理学部心理学科	140	―	560	
計	910	50	3,740	計	910	50	3,740	
駿河台大学大学院				駿河台大学大学院				
総合政策研究科				総合政策研究科				
法学専攻(M)	7	―	14	法学専攻(M)	7	―	14	
経済・経営学専攻(M)	7	―	14	経済・経営学専攻(M)	7	―	14	
メディア情報学専攻(M)	7	―	14	メディア情報学専攻(M)	7	―	14	
心理学研究科				心理学研究科				
臨床心理学専攻(M)	15	―	30	臨床心理学専攻(M)	15	―	30	
犯罪心理学専攻(M)	15	―	30	犯罪心理学専攻(M)	15	―	30	
計	51		102	計	51		102	